

平成29年度

大 分 大 学

高等教育開発センター報告書

目 次

はじめに	1
I 高等教育開発センター事業概要	2
II 各部門活動・事業報告	
1. 新規授業・カリキュラム開発部門	4
2. メディア・IT活用部門／FD・授業評価部門	6
3. 大学開放推進部門／生涯学習支援システム部門	55
III 付録	68
1. センター関係諸規則（投稿規程を含む）	
2. 高等教育開発センター運営委員会・各部門センター員名簿	

はじめに

大分大学高等教育開発センター長

西野 浩明

日頃よりセンターの活動にご支援、ご協力いただきありがとうございます。高等教育開発センターの平成 29 年度報告書をお届けします。

本学では、平成 28 年度に、福祉健康科学部の設置と教育学部の改組が行われ、平成 29 年度には、工学部から理工学部への改組と経済学部の新学科発足が実現しました。平成 27 年度にスタートした COC+事業も 3 年目を迎え、教育研究活動における新たな挑戦と地道な取り組みとが共存する状態となっています。また、教育改革・改善に関する課題には、アクティブラーニングのさらなる推進、データ収集や分析に基づく教育の質保証を実質化する試みと実践、地域のニーズや現代的テーマに基づく生涯学習環境の構築とそのための教育プログラムの考案など、継続的かつ適時に取り組まなければならない問題が山積しています。

高等教育開発センターは、メディア・IT 活用、FD・授業評価、大学開放推進、生涯学習支援システムの各部門にそれぞれの分野を専門とする教員を配置し、上述した多様な教育改革・改善への取り組みに向けて、調査・企画・検討・実行支援等の業務を行っています。各部門の活動は、各部局等から選出いただいた委員をはじめ、多くの教職員の方々のご支援、ご協力をいただきながら進めています。また、センター教員の担当授業科目や研究活動は、この数年で質・量ともにめざましく増大している状況であり、学内外の関連組織との連携強化が極めて重要であると認識しております。

以上のような状況下で、本センターの事業内容について、平成 29 年度に実施した各部門の主要な取り組みを整理する形でまとめました。報告書の刊行にあたり、センターの事業運営に多大なるご支援、ご協力をいただく学内外の関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。また、本センターのさらなる発展のために、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。最後に、平成 29 年度の報告書の発行が大変遅れましたことをお詫びいたします。

平成 31 年 3 月

I 高等教育開発センター事業概要

高等教育開発センターは、「学内外の関係機関との連携の下に、高等教育及び生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もって大分大学における教育及び地域社会の発展に寄与すること」を目的として設置されている。その目的を達成するための平成 29 年度の成果について、部門ごとに列挙すると以下のようになる。

1. 新規授業・カリキュラム開発部門

- ・メディア・IT 活用および FD・授業評価の両部門と連携した，教育改善に関する取り組み
- ・大学開放および生涯学習の両部門と連携した，地域向け教育プログラムの構築支援に関する取り組み

2. メディア・IT 活用部門／FD・授業評価部門

- ・教育改革への支援
- ・大学 IR コンソーシアム学生調査の実施
- ・学修ポートフォリオのためのカリキュラムルーブリックの作成支援
- ・FD・SD に関連する事業
- ・FD プログラムガイドパンフレットの作成
- ・学生による授業評価アンケートの実施
- ・高等教育に関する調査研究

3. 大学開放推進部門／生涯学習支援システム部門

- ・大学開放と学習機会の提供
- ・大学教育と生涯学習の接続・連携
- ・情報収集提供・学習相談活動
- ・学内のネットワーク化
- ・地域生涯学習支援システムの整備
- ・生涯学習推進と社会的活動の取組

4. 平成 29 年度高等教育開発センター運営委員会

第 1 回

日 時：平成 29 年 6 月 5 日（月）9：00～9：45

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 2

挾間キャンパス 第 3 会議室【遠隔会議システムを利用】

議 題

1. 平成 28 年度各部門活動報告及び平成 29 年度活動計画について
2. 平成 28 年度決算報告及び平成 29 年度予算案について
3. 平成 29 年度計画・アクションプランへの対応について
4. 高等教育開発センターリーフレットの見直しについて
5. その他

第 2 回

日 時：平成 29 年 9 月 7 日（木）10：00～10：30

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 1

議 題

1. 教員人事について
2. 平成 29 年度計画アクションプランの見直しについて
3. その他

第 3 回

日 時：平成 29 年 10 月 13 日（金）16：30～16：45

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 2

挾間キャンパス 第 2 会議室【遠隔会議システムを利用】

議 題

1. 教員人事について

Ⅱ 各部門活動・事業報告

1. 新規授業・カリキュラム開発部門

本部門は、高等教育開発センターの他の4部門と連携し、全学的な教育課題に関する企画・調整業務を担当する部門であり、以下の事業を行った。

【平成29年度の主な取り組み】

- ・メディア・IT活用およびFD・授業評価の両部門と連携した、教育改善に関する取り組み
- ・大学開放および生涯学習の両部門と連携した、地域向け教育プログラムの構築支援に関する取り組み

【平成29年度の実業内容】

(1)メディア・IT活用およびFD・授業評価の両部門と連携した、教育改善に関する取り組み

高等教育開発センターでは、本学における教育改善の柱の1つとして、アクティブラーニング（以下AL）の普及・啓発に継続して取り組んでいる。その一環として、ALを4つのタイプに分類し、具体的な教授法や実践例を記載した本学独自の調査資料を平成28年度に作成した。今年度は、同資料に基づいて、ALの実施状況に関するアンケートを本学で開講されている全科目に対して実施した。これは、同資料に記載されているALのタイプ別に、各科目での実施の有無について問うものであり、約67%の科目について回答があり、その中の約98%の科目でALに関する授業改善や工夫が行われていることが明らかになった（同資料の詳細については、「メディア・IT活用部門、FD・授業評価部門」報告の「1. 教育改革への支援」の項を参照されたい）。

ALの実践においては、比較的少人数のクラスでグループ討論などを中心に授業を構成する例が多いが、教養科目等の大規模なクラスへの適用も可能である。センターが主催する定例FDの1つである“きっちよむフォーラム2017”では、「大人数クラスにおけるAL」をテーマに掲げて、本学の開講科目における実践例を題材に講演会と討論を行った。大人数クラスにおける対面授業の中で双方向に議論を進めるときの工夫点、Moodleを活用したフォーラム形式での議論の進め方などについて情報共有と討論を行った。

本学は、平成28年度より大学IRコンソーシアムに加盟し、全加盟大学において共通に実施されている学生調査を実施している。同調査の結果をもとに、他学における同じ分野の調査データとの相互比較を行い、その結果を教育の質保証活動に繋げることが期待できる。そのためには、十分なデータの蓄積がまず必要となるため、紙ベースのアンケートをMoodleの電子アンケートに切り替えることでアンケート回収率を向上させる取り組みも行った。このように蓄積されつつあるデータを、本学の教育改善活動の中で適切に活用できる仕組みを構築することが今後の課題である。

また、現代的なテーマに沿った FD・SD 研修会の企画と実施、各学部やセンター等が主催する多様な FD 活動のガイドブック化、学修ポートフォリオシステムの活用に向けたカリキュラムルーブリックの作成支援等、教育改善活動に直結する様々な取り組みを実施した。詳細は、「メディア・IT 活用部門／FD・授業評価部門」報告を参照されたい。

(2) 大学開放および生涯学習の両部門と連携した、地域向け教育プログラムの構築支援に関する取り組み

高等教育開発センターは、とよのまなびコンソーシアムおおいたや COC+事業をとおして、県内の高等教育機関との教育連携に関する活動に主体的にかかわっている。また、公開講座・公開授業の計画立案・実施をとおして、地域の人々へ多様な学修機会を提供するという役割も担っている。

公開講座は、大学での研究開発における旬なテーマや現代的課題について、各部局とセンターが連携して企画・実施する取り組みである。多様な学修ニーズに応える講座を提供し続けるのは大変であるが、今年度の受講者数は前年度比で約 30%の増加となり、順調に成果をあげてきている。

これに対して、公開授業は、本学の正規科目を一般に開放し、学生と共に教養・専門科目を体系的に学べる機会を提供するものであり、地（知）の拠点大学としての本学の価値を学外に広くアピールできる重要な取り組みである。また、同一の講義で社会人と共に学修する機会は、本学の学生にとっても貴重な経験であり、多様な考え方や知見に接する場を創出することにもなる。しかしながら、これまで公開授業の強力な支援者であった多くのベテラン教員の定年退職等の事態も重なり、科目数の減少という問題に直面している。これについては若手教員への呼びかけ強化や公開講座と公開授業のカプセル化による魅力的な教育プログラムの企画等、積極的な改革措置を講じているところである。

また、県内外の社会教育行政組織との連携をとおして、地域における生涯学習環境の構築を支援する取り組みなど、国立大学の中でも希少な活動を行っており、それらの詳細については、「大学開放推進部門／生涯学習支援システム部門」報告を参照されたい。

2. メディア・IT 活用部門／FD・授業評価部門

2つの部門の主な活動は、本学の教育改善を目的として、よりよい授業を実施するための研修会の企画と実施、授業に対する有効性を評価するための学生による授業評価アンケートと報告書の公表、インストラクショナル・デザインを活用した授業設計・教材の開発等の個別の授業改善の支援、質保証フレームワーク構築の支援、教学 IR のための調査の実施と分析、単位互換の推進および大学等間連携授業の支援を行うことである。

2つの部門の業務は部門横断的に行われており、教員からの個別の授業改善の要望に応じた授業のコンサルテーションを授業評価アンケートと関連づける研究を進めているとともに、授業を支援する教育機器の相談、教室整備へのアドバイス等の業務についても共通する部分が多い。そこで、本年度は2つの部門で分けて記述していた業務を一括して報告することにした。

また、教育改善に関する他大学の動向についての調査、研究も従来から継続している。さらに、本年度も大分大学を中心として実施されている「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」について教育改善の立場から関与している。

今年度取り組んだ主な事業は以下の通りである。それぞれの事業について、報告する。

【平成 29 年度の主な取り組み】

1. 教育改革への支援
2. 大学 IR コンソーシアム学生調査の実施
3. 学修ポートフォリオのためのカリキュラムルーブリックの作成支援
4. FD・SD に関連する事業
5. FD プログラムガイドパンフレットの作成
6. 学生による授業評価アンケートの実施
7. 高等教育に関する調査研究

1. 教育改革への支援

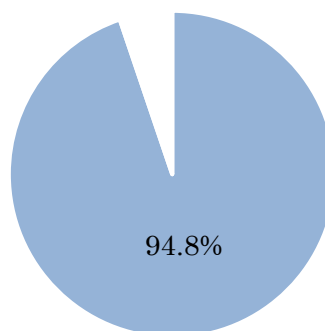
(1) アクティブ・ラーニング実施調査結果とアクティブ・ラーニングに関する参考資料の改訂

アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業の実施状況について、平成 29 年 3 月に、科目の担当教員（教務システムに登録されている主担当教員）に電子メールで調査を依頼し、ウェブ上のアンケートフォームで質問項目への回答を求めた。調査対象科目は、平成 28 年度の開講の 2,288 科目であった。

調査の結果 1,527 科目（調査対象科目の 66.7%）についての回答が得られた。ガイドラインによって示されたアクティブ・ラーニングの実施科目は 1,495 科目（回答が得られた科目の 97.9%、調査対象科目の 65.3%）であった。提案した A～D の 4 タイプのアクティブ・ラーニングの実施率はそれぞれ以下の通りであった。

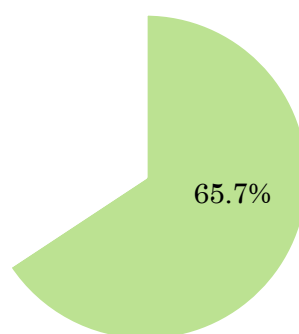
(A) 知識の定着・確認 —知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修—

時間外学修（予習、宿題）	60.50%
演習	48.10%
調べ学習（文献、インターネットなど）	45.10%
（最終レポートを除く）知識定着・確認を目的としたレポート・ライティング	37.50%
小テスト	29.10%
振り返り（リフレクション）—振り返りシート、コメントシート、大福帳など	27.20%
実技	19.60%
体験活動	11.80%
（反転授業の）事前・事後学修	11.30%
手順通りの実験・実習	10.20%
見学	9.70%
クリッカー、レスポンスアナライザー（知識の定着・確認のための用途）	2.80%



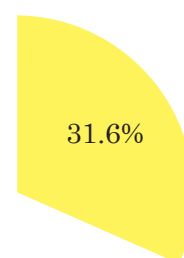
(B) 意見の表現・交換 —知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修—

ディスカッション	44.4%
プレゼンテーション	44.2%
相互評価（ピアレビュー）	15.6%
（最終レポートを除く）表現志向のレポート・ライティング	10.8%
ブレインストーミング	8.0%
ピアインストラクション（相互教授）	7.1%
シンクペアシェア	6.1%
協同的執筆	5.1%
ピアレスポンス	5.0%
バズグループ	3.7%
LTD(Learning Through Discussion)	3.4%
ディベート	3.3%
KJ 法（A 型図解化）	3.2%
ジグソー、知識構成型ジグソー	2.7%
マイクロディベート	2.0%
マインドマップ	1.8%
ワールドカフェ	1.5%
パネルディスカッション	1.4%
ラウンドロビン	0.9%
コンセプトマップ	0.8%



(C) 応用志向 ―知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修―

問題基盤学修 (Problem-Based)、チュートリアル	11.07%
ケースメソッド、学修者主体の事例設定型 (Case-Based)	8.71%
チーム基盤型学修 (Team-Based)	7.47%
仮説の検証や探索を伴う実験	7.40%
ロールプレイ、演劇	7.27%
シミュレーション・ゲーム	4.39%



(D) 知識の活用・創造 ―知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修―

研究、論文作成	22.79%
フィールドワーク	9.82%
プロジェクト学修 (Project-Based)	6.81%
設計、デザイン、意匠	5.30%
臨地実習	4.39%
ものづくり実習	4.26%
芸術創作	3.01%
教育実習	2.36%
観測	2.36%
創成学修	1.38%
インターンシップ	0.79%
サービ斯拉ーニング	0.65%



調査の結果、調査協力科目において実施されているアクティブ・ラーニングにおいて、上記の4タイプに適合しない手法は特に無かった。それぞれのタイプにおいて「その他」として79の回答が得られた。これらの情報に基づいて、「アクティブ・ラーニングに関する参考資料」の分類表に項目を新たに追加するなどの改訂を行った（次ページ）。

全般的な意見として、「用語解説に説明のない言葉が選択肢にあり、回答が難しい。アクティブ・ラーニングの初学者にも回答しやすい、またはイメージしやすい平易な表現での質問項目作成を望む」といった分類表の用語のわかりにくさや、「ソーシャルワークのためのコミュニケーション技法を講義した後、日常生活の場面（友人等の会話）で実践してみて、レポートを作成するのはどこに分類されるのか」といった複合的な要素を含む場合の分類の方法に関するものがあった。

(2) 教養教育科目への支援

①「分大キャンパスライフ入門」

オムニバス授業の2回分を担当した。

7月19日 ディプロマポリシーにもとづく学習について

7月26日 発表

②「男女共同参画入門」

12月20日、24日において、学生発表へのコメンテーターとして参加した。

アクティブ・ラーニングについて、大分大学高等教育開発センターで作成している参考資料です。今後実施する全学アクティブ・ラーニングの共通調査の結果にもとづいて、改訂を行います。



解説動画

<https://vimeo.com/207232734>



用語集



<https://goo.gl/E5Kxi5>

■ アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業

- 読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業
- 学生が自ら計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」
- 学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」

タイプ	タイプの説明	アクティブ・ラーニングの形態	手法や例	備考
(A) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修	レスポンスアナライザー	クリッカー	
		小テスト、演習、実技		
		知識の定着・確認を図るレポート・ライティング		表現志向のものは(B)
		時間外学修	予習（反転学修を含む）、復習、宿題	
		振り返り（省察）	振り返りシート、大福帳、コメントシート	
		体験、実験、観察	手順通りの実験・実習、体験活動、見学、実体験を伴わない学生の過去の体験との紐付け	
		調査	調べ学修（文献、インターネット）	
(B) 意見の表現・交換	知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修	発表	プレゼンテーション、パネルディスカッション	
		話し合い	ディスカッション、ブレインストーミング、ラウンドロビン、バズグループ、シンクペアシェア、ワールドカフェ、ディベート、マイクロディベート	
		教え合い	ジグソー、知識構成型ジグソー法、LTD(Learning Through Discussion)、相互教授（ピアインストラクション）	問題解決が含まれる場合は(C)も参照
		図解	コンセプトマップ、KJ 法 A 型図解化、マインドマップ	
		文章作成	表現志向のレポート・ライティング、共同的執筆、ピアレスポンス	知識の定着・確認を図るものは(A)
		相互評価（ピアレビュー）		
(C) 応用志向	知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修	問題基盤学修 (Problem-Based)	チュートリアル	
		シミュレーション・ゲーム		シナリオベース
		ロールプレイ、演劇		
		仮説の検証や探索を伴う実験		
		ケースメソッド	シナリオ・事例研究、事例設定型教授(Case-Based)	学修者主体のもの
		チーム基盤型学修 (Team-Based)		
(D) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修	プロジェクト学修 (Project-Based)		
		教育実習		
		臨地実習		
		インターンシップ		省察を伴う
		サービスラーニング		省察を伴う
		フィールドワーク	聞き取り調査、アンケート調査	受動的な見学や体験活動は(A)
		観測		
		創成学修	ものづくり実習	
		芸術創作		
		設計、デザイン、意匠		
		研究、論文作成	卒業論文、修士論文	

注) 1 つの教育活動に対して、上記の複数の分類や方法が組み合わされて用いられることがある。また、1 つの形式にその他の形式が含まれる場合がある。

(3) 「とよのまなびコンソーシアムおおいた」による「大分の人と学問」

教養教育科目「大分の人と学問」において、昨年度と同様に学習管理システム（LMS）である Moodle 上の e ラーニングコンテンツや配信用動画コンテンツの作成や授業支援を行った。全 15 回は、13 回の Moodle を用いた非同期型の遠隔授業と、2 回の集中形式の対面授業のブレンド型で設計した。授業スケジュールは下に示す表のとおりである。第 9 回、第 10 回の対面授業は、センター教員が企画および実施を担当した。学術情報拠点旦野原図書館 1 階ラーニングコモンズにおいて、大分県に縁のある人物を紹介するポスター作成およびプレゼンテーションを大学間混成のグループで行った。

LMS に関しては、今年度から大分大学学術情報拠点情報基盤センターの管理する Moodle 環境を利用することにした。連携大学の学生については、事前に本学の教務情報システムに単位互換学生として登録し、自動的にユーザー連携した Moodle を利用することとし、本学のアカウント情報が記入された用紙を配布して利用してもらう方式に変更した。

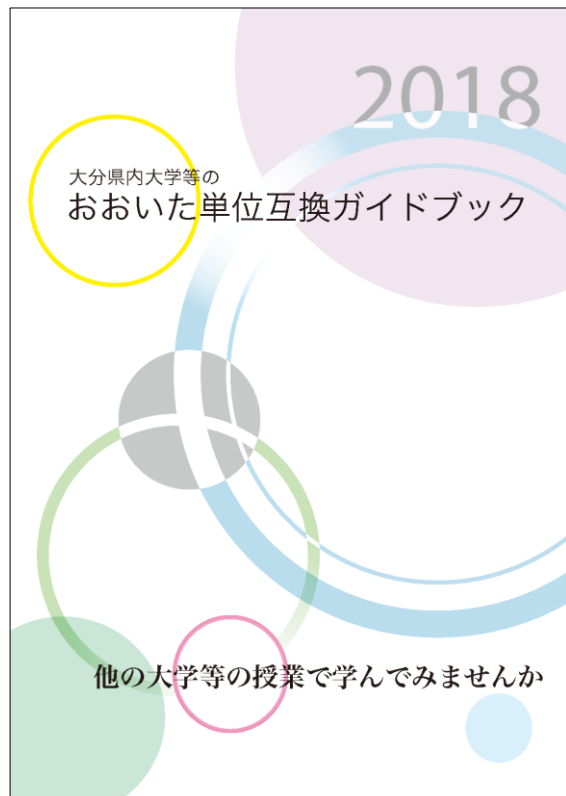
対面授業については、昨年度を踏襲する形式で実施した。アイスブレイクから、グループ作成、グループ活動、発表、振り返りまでの活動を行うのは、2 コマの対面授業では時間的に厳しいことが明らかとなった。とよのまなびコンソーシアムおおいた共通教育分科会において、来年度からは対面授業を 3 コマで実施することを提案し、承認された。

表 「大分の人と学問」の授業スケジュール

回	形式	担当者	授業内容
1	遠隔	鈴木雄清（大分大学）	オリエンテーション
2	遠隔	島田達生（大分大学）	今よみがえる田原淳の業績。ノーベル賞を超える大偉業
3	遠隔	小川伊作（大分県立芸術文化短期大学）	宗麟時代の南蛮音楽
4	遠隔	望月聡（大分大学）	『関あじ・関さば』を科学する
5	遠隔	吉村充功（日本文理大学）	人間力概論～地域社会と人間力～
6	遠隔	石川雄一（大分大学）	おおいた過疎地域を元気にする産学連携－柚子の抗アレルギー能について
7	遠隔	大上和敏（大分大学）	大分の水と温泉
8	遠隔	小西忠司・松本桂久・菊川裕規・尾形公一郎（大分工業高等専門学校）	七島蘭プロジェクトと農工連携についての取り組み
9	対面	牧野治敏・鈴木雄清（大分大学）	11 月 19 日
10			「大分ゆかりの先人たち」ポスター作成およびプレゼンテーション
11	遠隔	中山晴生（立命館アジア太平洋大学）	GNT 企業へ脱皮した設備機械メーカーの成功要因と中小・中堅企業が目指す方向性－日特エンジニアリング・アイダエンジニアリングの事例から
12	遠隔	林圭（三和酒類株式会社）・藤本武士（立命館アジア太平洋大学）	三和酒類が取り組む企業価値創造活動について
13	遠隔	飯沼賢司（別府大学）	火山と草原と九州
14	遠隔	下村智、清水宗昭（別府大学）	九州考古学の先達～賀川光夫先生の人と学問～
15	遠隔	溝部仁（別府溝部学園短期大学）	大分県の中の朝鮮半島

（４）単位互換の推進—「大分県内大学等のおおいた単位互換ガイドブック」の作成

昨年度に引き続いて、県内大学等の学生向けに「大分県内大学等のおおいた単位互換ガイドブック」（A5 サイズ 14 ページ）を作成し、県内大学に配布した。昨年度からの変更点としては、幾つかの科目において作成されている科目紹介動画や詳細情報へのウェブページのリンク（二次元バーコード）を追加したことである。また、「大分の地域ブランド創造体験」、「初年次



単位互換について

- それぞれの大学等から提供される科目を受講し修得した単位を、在籍する大学で認定してもらえます。
- 他の大学等の学生と学んだり、他の大学等のキャンパスで学んだりすることのできる科目もあります。
- 受講希望者が多数となった科目では、受講者調整を実施することがあります。
- 原則として、在籍する大学等に支払っている授業料以外の負担は必要ありません。
- 履修手続きや科目等に関するお問い合わせは、所属大学等の担当窓口へご連絡ください。

ガイドブックについて

- 2～12 ページでは、以下の「マークの説明」に挙げているような他大学等の学生が受講しやすく工夫している科目を取り上げて紹介しています。
- 本ガイドブックは2017年度の授業の内容を参考に作成したものであり、一部変更になっている場合があります。最新の情報をシラバス等でご確認ください。
- 大学等によっては、このガイドブックに掲載されている科目以外にも、他の大学等との単位互換が存在しています。このガイドブックに掲載されている科目以外の大分県内外の大学等や国外の大学等々の単位互換科目については、所属大学等の教務担当窓口へお尋ねください。

マークの説明



授業配信システムや学習管理システムを用いたインターネットによる受講



授業会場までの無料送迎バスあり



大分駅前にあるJCOM ホールホール大分で授業



宿泊を伴う集中形式

大分大学高等教育開発センター

1

とよまなびコンソーシアムおおいた 大分の人と学問

後期 全15回2単位 担当教員・副学長 望月 聡、他

大分県内の大学・短期大学・高等専門学校の教員達が、大分の地に根差したバラエティ豊かな学問分野を紹介することで、大分に関する教養を深めていくことを目的としています。

オンラインでネット受講 大分大学 図書館 無料バスあり

- オリエンテーション 大分大学 鈴木雄博
- 今よみがえる田原淳の業績。～ノーベル賞を超える大偉業～ 放送大学（大分大学） 島田達生
- 宗廟時代の南宮百葉 大分県立芸術文化短期大学 小川伊作
- 『関あじ・関さば』を科学する 大分大学 望月聡
- 人間力概論～地域社会と人間力～ 日本文理大学 吉村充功
- 大分の水と温泉 大分大学 大上和敬
- 大分県の電力事情 大分工業高等学校 佐藤秀則
- GNT 企業へ脱皮した設備機械メーカーの成功要因と中小・中堅企業が目指す方向性～日特エンジニアリング・アイデンエンジニアリングの事例から～ 立命館アジア太平洋大学 中山晴生
11. 対面授業（グループワーク） 大分大学 牧野治敏・鈴木雄博
- 三和酒類が取り組む企業価値創造活動について 三和酒類株式会社 林圭
- 火山と草原と九州 別府大学 藤田賢司
- 九州考古学の先遣～賀川光夫先生の人と学問～ 別府大学 下村智・清水宗昭
15. 大分県の中の朝鮮半島 別府県立短期大学 清部仁

初回の授業や集中授業等の詳細情報

集中授業 11月17日（土）予定 2～4階目録（3フロア） 大分大学図書館ラーニング commons

◆成績評価 小課題（50%）、対面授業での課題（20%）、最終課題（30%）の累積。

2

NEW 日本文理大学 ジェネリックスキル養成1

前期 全8回1単位 担当教員 工学部教授 吉村充功・特任准教授 市田秀樹

～合宿研修～ 野外活動をベースとした体系的な活動を通じて、自己の理解と挑戦、他者への理解や役割、チームとして課題に立ち向かうことの重要性を学び、コンピテンシー能力を高めていきます。

無料バスあり 宿泊あり

- 第1回 オリエンテーション、チーム編成
- 第2回 アイスブレイク
- 第3回 ローエLEMENT研修（1）
- 第4回 ローエLEMENT研修（2）
- 第5回 初日のふり振り返り（ピーニング）
- 第6回 ローエLEMENT研修（3）
- 第7回 ローエLEMENT研修（4）
- 第8回 リフレクション（ふり振り返り）・全体総括

【振り返りの様子】

【野外活動の様子】

集中授業 9月中旬の平日（1泊2日） 住吉浜リゾートパーク（杵築市） <http://www.sumiyoshima.com>

授業紹介ビデオ

・1年生のみ（高専は4年生）受講可能です（定員20名）。

・研修宿泊費は無料です。食費（4食）のみ実費負担です（1,500円程度）。

・無料バスを運行予定（往復）。

※乗車可能予定場所 日本文理大学・大分大学・大分駅・別府北浜

◆成績評価 ①関心・意欲・態度 ②技能・表現・コミュニケーション ③思考・判断・創造 上記の観点から、成果物（ふり振り返り資料）とレポート、チーム活動での貢献度等から評価します。

3

キャリアデザインワークショップ」、「カタリバでキャリアを拓く」、「地域の住まい論」の3科目を追加した。


日本文理大学

ジェネリックスキル養成2

後期 全8回1単位
 担当教員：工学部教授 吉村充功・経営経済学部准教授 鈴木照夫

～合宿研修～
地域問題に対しチームで課題発見、解決策を考えるワークショップです！
他大学等の学生と一緒に知識を活用して問題解決する力を養成するとともに、大分について考えるきっかけになります。


 無料バスあり


 宿泊あり

- オリエンテーション、チーム編成
- 資料の読解、共有（情報分析）
- ディスカッション（1）（課題発見）
- ディスカッション（2）（解決策の構想）
- プレゼンテーション準備
- プレゼンテーション（1）
- プレゼンテーション（2）
- リフレクション（ふり回り）・全体総括



【ワークショップの様子】



【成果発表の様子】

集中授業
2月下旬頃の平日（1泊2日）
日本文理大学 湯布院研修所（由布市）
<http://nbu.co.jp/yufuin/>

- ・1年生のみ（高専は4年生）受講可です（定員30名）。
- ・研修宿泊費は無料です。食費（4食）のみ実費負担です（1,500円程度）。
- ・無料バスを運行予定です（往復）。
- ※乗車可予定場所：日本文理大学・大分大学・大分駅・別府北浜

◆成績評価
①関心・態度 ②知識・理解 ③技能・表現・コミュニケーション ④思考・判断・創造
上記の観点をもとに、成果物（パワーポイント資料）とプレゼンテーション、ワークショップでの貢献度等から評価します。

4


日本文理大学

大分の地域ブランド創造体験

後期 全15回2単位
 担当教員：工学部教授 吉村充功、他

～合宿研修～
農村漁村や中山間地域における特産品の6次産業とそのブランド化は、持続可能で活力ある大分県を実現する上で不可欠です。本授業では、こうした問題を解決し「地方創生」でできる人材を育成する足掛かりとして、地域ブランドを掘り起こすための力と企画力の育成を目的とします。


 無料バスあり


 宿泊あり

〈合宿1回目初日〉

- 授業の目標に向かってのテーマ設定と授業展開づくり
- 地域体験活動1-1
- 地域体験活動1-2
- ワークショップ（初日振り返り）

〈合宿1回目2日目〉

- 地域体験活動2-1
- 地域体験活動2-2
- ワークショップ（2日目振り返り）
- 中間発表①、2回目に向けてガイダンス

〈合宿2回目初日〉

- 個人発表、統合プランの検討
- 中間発表②
- 地域体験活動3
- 6次産品の企画書作成

〈合宿2回目2日目〉

- 6次産品の企画書作成（前日の続き）
- 最終成果発表と講評
- 振り返り

集中授業
10月～11月土曜日、日曜日
2月～3月の春休み期間中
(1泊2日×2回の宿泊型)
国東市



【道の駅でのヒアリングの様子】

・1・2年生（高専は4・5年生）の受講を優先します（定員15名）。

・研修宿泊費は無料です。食費（8食）のみ実費負担です（5,000円程度）。

・無料バスを運行予定です（往復）。

※乗車可予定場所：日本文理大学・大分大学・大分駅・別府北浜

・「ジェネリックスキル養成1」「ジェネリックスキル養成2」「大分の地域資源」「初年次地域キャリアデザインワークショップ」のいずれかをあらかじめ履修もしくは同時履修することをお勧めします。



【ワークショップの様子】

◆成績評価 ①技能・表現・コミュニケーション ②思考・判断・創造
上記の観点をもとに、課題の指導や提案等の資料及びプレゼン資料、班での課題解決のための提案とその内容、振り返りポートフォリオ、中間発表、最終発表から評価します。

5


大分県立看護科学大学

総合人間学

後期 全10回1単位
 担当教員：看護学部教授 藤内美保

～大学教育の集大成～
人間として、または医療従事者として備えておくべき豊かな知性と感性を養う。

【平成29年度実施内容】

- 第1回 ダイバーシティマネジメントができる優秀な人材育成
社会医療法人協和会 総括院長補佐 総務企画室長 栗牧 良子
- 第2回 空間デザインからみた地域創生のためのまちづくり
日本文理大学工学部建築学科 教授 近藤 正一
- 第3回 みんなで支える明日の社会
長崎大学大学院工学研究科 教授 石松 隆和
- 第4回 がんと共に生きる患者・家族の支援
国立研究開発法人国立がん研究センター 東病院 看護部 副看護部長 関本 登子
- 第5回 オモイをカタチに～学生を被災地に～
日本福祉大学福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科 准教授 減災支援教育研究センター 副センター長 山本 克彦
- 第6回 いま地球は病気です～温暖化と食と異常気象～
気象予報士・防災アドバイザー・環境教育アドバイザー（元大分気象台長）
花宮 廣務
- 第7回 県議会の仕組みや役割、議員活動等について
大分県議会議員 木田 昇/吉岡 美智子
- 第8回 グリーフ：その理解とナースの役割
モナッシュ大学（オーストラリア）講師 下福葉 かおり
- 第9回、第10回
(前年度の講義の中から、関心のあるテーマを選び受講)



◆授業概要 様々な分野で活躍し、かつ造詣の深い講師の方々をお招きします。

◆成績評価 受講態度、レポートにて評価します。

◆注意事項 平成30年度より全10回で1単位となります。

6


大分大学

国際健康コンシェルジュ養成講座

前期 全8回1単位
 担当教員：医学部准教授 大下晴美、他

病気・外傷等に罹患した訪日観光客に対し、速やかな応急処置と重症度の判断が可能な医学的な知識を学びます。それを踏まえ、病院、ホテルなどで使用する英語、中国語の基本的表現を学び、想定される場面への対応を適切に行うことができる語学力の習得を目的とします。

集中授業
大分大学
(旦野原キャンパス)

- 【1日目：5月19日（土）】
1. 「科学と医学」に関する基本的な知識を得る。
2. 成人によくある病気に関する知識を得る。
3. 婦人科疾患と産科疾患の知識を得る。
4. 心肺蘇生法（胸骨圧迫、人工呼吸）やAEDを用いた除動による一次救命処置の手順を習得する。
- 【2日目：5月26日（土）】
5. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、応答する基本的英語表現を知り、発語練習を行う。
6. 日本人が国外で体調を崩した時に、ホテル、公共交通機関、病院などで使用する基本的英語表現を知り、発語練習を行う。
7. 中国語の発音規則と発声の仕方を学び、その発音練習を行う。
8. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、応答する基本的中国語表現を学び、発語練習を行う。




◆成績評価
健康：筆記試験（25%）、レポート（75%）
語学：講義中に取り組む課題（100%）

7

大分大学 初年次地域キャリアデザインワークショップ

前期 全15回2単位

担当教員：教授 牧野浩敏
別府大学文学部教授 西村靖史、他

初年次学生を主な対象とする本授業では、「大学教育での学びのステップを自分自身で身につける」ことをねらいとしている。また、その学びの中で「大分」を教材として、大分地域での就業課題を達成することも目的である。それぞれの大学・分野で学ぶ学生たちが、自らの将来を見据えて、地域の現状理解と地域で働く意義を学ぶことで、より安心して地域へ定着し、新しい地域社会の創造に貢献する人材となることを目指す。



合同学習
大分大学
(巨野原キャンパス)
対象：1年生・2年生

1. 各大学等で、e-ラーニングでの動画視聴を主としたガイダンス。
- 2～4 e-ラーニングでの動画視聴により、大分で働く魅力、地域社会や企業が抱える目標や課題、大学等での学び方等を個人学習し、大分での就職を前提としたディベートの資料を準備する。
- 5～8 (1回目の合同学習) 収集した各種情報から大分で就職することのメリットとデメリットを整理し、様々な形態でグループワークを行う。
- 9～12 (2回目の合同学習) 若手社会人を交えたディベートやワールドカフェ、グループ討議を行い、大分県で就職することのメリットとデメリットを研究し、プレゼン資料を作成する。
- 13～15 (3回目の合同学習) 若手社会人を交えた、大分の魅力や地域課題を基にした大分での就職のメリットとデメリットのプレゼンテーションをとおして、大学での学びのあり方を提案して意見交換を行う。

一授業日程一

- 1 コマ：各大学等で実施
- 2～4 コマ：e-ラーニングでの個人学習
- 5～15 コマ：合同学習
(合同学習日程)
1 回目：5月12日(土)
2 回目：5月13日(日)
3 回目：5月20日(日)



◆成績評価 討議等での活動状況(20%)、魅力や課題の提案(20%)、課題解決の提案(20%)、最終レポート(40%)

授業紹介ビデオ



8

大分大学

大分の地域資源

後期 全15回2単位

担当教員：准教授 鈴木達清

豊富な地域資源を通して大分の特長や魅力を学び、大分についてさらに学んだり、大分の地域資源を体験したりしようとするを目的としています。



1. オリエンテーション
2. 別府竹籠工
油布竹籠吉 職師 油布 昌伯 氏
油布 田 氏
3. 別府八湯温泉道
別府市観光協会 堤 栄一郎 氏
4. 国東の七島
くにさき七島観光委員会事務局長 細田 利彦 氏
くにさき七島観光委員会 高橋 康弘 氏
七島観光工房なつむぎ 若切 千佳 氏
5. 臼杵産直
臼杵市歴史資料館館長 菊田 敬 氏
6. 大分の農業(カボス栽培)
カボス農家 工藤 高穂 氏・工藤 鶴子 氏
7. 大分の農業2(しいたけ栽培)
国東森林組合 理事 清原 米蔵 氏
8. 大分と麦焼酎
藤原醸造合資会社 藤原 淳一郎 氏
9. 豊後高田市の昭和の町
豊後高田市産業工観光課観光推進室長 水田 健二 氏
豊後高田市観光まちづくり株式会社 日浦 勝彦 氏
10. 大分について概観する
11. }
12. }
13. }
14. }
15. }

初回の授業や集中授業等の詳細情報



集中授業(11～15回)
1月13日(日曜日)
J.COM ホルトホール大分
サテライトキャンパス
おおい講義室



◆成績評価 小テスト・コメントレポート(50%)、調査学習(10%)、最終課題(40%)の算出。

9

大分大学

知的財産入門

後期 全8回1単位

担当教員：産学官連携推進機構 知的財産部門長・教授 伊藤 幸雄 氏、富田賢司 氏

大分は地域ブランドなど、以前から知的財産に力を入れています。私達の身の回りにも知的財産は沢山関係しており、これからの時代には基本的な知識と考え方をすることが重要になってきています。実際の例を題材に、楽しく知的財産を学んでみませんか。



1. 知的財産と知的財産権
2. 著作権
3. 特許入門(1)
4. 特許入門(2)
5. 発明とは?
6. 商標とブランド
7. 意匠とデザイン
8. 知的財産に関する疑問・質問



集中授業
土曜日(予定)
J.COM ホルトホール大分
サテライトキャンパス
おおい講義室

知的財産は決して難しい「学問」ではありません。身近なことから知的財産をみつけながらたのしく理解をしていきます。受身の講義ではなく、受講者でディスカッションをしたり、質問をしたりしながら講義をすすめていきますので、積極的に参加して下さい。

◆成績評価 授業ごとの小レポート 50%、最終レポート 50%

10

大分大学

カタリバでキャリアを拓く

後期 全15回2単位

担当教員：経済学部教授 宮町良広 氏、経済学部教授 佐藤則行 氏

カタリバとは、高校生向けのキャリア教育で全国的に注目されるNPO団体です(本部東京)。2001年の設立以降、全国の約1300校、約22万人の高校生に対してキャリア学習プログラム「カタリ場」を行ってきました。活動の主な担い手は大学生です。

【受講生の声】

「人見知りの部分が減って自信がついた」
「大学に来て一番やる気が出た」
「単位が出なくてもう一度この授業をとりたい」
「この授業で出会った仲間が特別」



1. イントロダクション
- 2-5. カタリバのスタッフになるための学習・研修
6. 「カタリ場」前日研修
- 7-8. 高校での第1回「カタリ場」実施
(2 自分をまとめて土曜日などに実施、大学(バス等)で移動)
- 9-10. 振り返り、改善点の抽出
11. 「カタリ場」前日研修
- 12-13. 高校での第2回「カタリ場」実施
(2 自分をまとめて土曜日などに実施、大学(バス等)で移動)
14. 振り返り
15. 自分のキャリア計画づくり



集中授業
土曜日に2コマ×2回
高校での「カタリ場」
無料バスで高校生の送迎あり

本授業では、NPO法人カタリバ(<http://www.katariba.net/>)と連携して、大分大学版「カタリ場」を実施します。受講生は教室で十分な学習をしながら、カタリバ・スタッフとして高校を訪問し、高校生の「心に火をつける」活動を行います。高校の教育現場に飛び込むことで、受講生が自分自身のキャリアを拓く力を養成します。

◆成績評価 課題作業への取組状況(40%)「カタリ場」での内容・態度(30%)レポート(30%)

◆受講生数 30～50人程度(予定)

11

住まいと気候風土の関わり、日本の住まいの歴史的変遷について学ぶ。また、家族や地域の変化をとりえ、諸課題に対応するための住まい・まちづくりのあり方について検討する。県内外の実践事例などもとりあげる。教員が作成した資料にもとづく講義に加えて、フィールド・ワークやグループ・ワークに取り組む。

1. ガイダンス
2. 住まいと風土
3. 住まいの歴史①近代以前
4. 住まいの歴史②近代以降
5. 住まいの歴史③現代
6. 伝統的な住まい・町並みの保存と地域の再生
7. 空き家の利活用と移住・定住支援
8. グループ・ワーク①
9. 団地・ニュータウンの再生
10. グループ・ワーク②
11. フィールド・ワーク①
12. フィールド・ワーク②
13. フィールド・ワーク③
14. グループ・ワーク③
15. まとめ これからの地域の住まい

集中授業
フィールドワーク
実施日はガイダンスにて案内



【白杵市街地のまち歩き】
(平成27年度)



【まち歩き後のワークショップの様子】
(平成27年度)

◆成績評価 レポート (50%) 授業時に取り組む演習課題 (50%)

[illegible]

【後期】

[illegible]

「創」…大分を創る人材を育成する科目
「と」…とよのまなびコンソーシアムおおいた単位互換科目

最新の情報はウェブページから
<http://www.he.oita-u.ac.jp/tg/>



お問い合わせ先
所属大学等の教務担当窓口

（５）地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）への協力

「初年次地域キャリアデザインワークショップ」

COC+共同開発科目「大分を創る科目」としての新規授業である。授業計画の作成から参加し、授業の一部を担当するとともに、学生の学習支援、評価等を行った。当初、夏休みに実施の計画であったが、学生の集まりやすい時期を再度検討し、下記の日程で実施した。

10月13日2限 第1回授業（大分大学単独）

合同授業 10月21日、10月22日、11月12日（於：大分大学旦野原キャンパス）

（６）適正な成績評価分布に関する検証作業

厳正な成績評価が組織的に行われているという説明責任を果たすために、成績分布に偏りが大きい科目の成績評価の基準や方法を何らかの方法によって確認することで組織的なチェック体制を確立することとした。成績分布に偏りが大きい科目の成績評価に問題がないことを確認したり、問題がある場合に改善がなされるようにしたりする仕組みを構築することを目的とした。

本学においては、平成27年度に教務部門会議及び教育改革WGにおいて平成26年度開講科目の成績評価分布の適切性の検証を行った。成績評価分布の適切性をどのような方法で検証するかについては各学部委ねられており、その体制も明確になっていなかった。そこで本年度は、組織的かつ継続的に検証することができるように、以下に示すような成績評価分布の検証方法の一例を示した。

成績評価分布の検証方法の一例

1. GPがA以上の者が60%を超える科目、GPがD以下の者が30%を超える科目を成績分布に偏りのある科目として、成績評価のチェック対象とする。ただし、今回は以下の条件を満たす科目は除外する。学生個々の達成度を把握しやすく、きめ細かな指導が可能な実技や実習、論文指導等の少人数の授業では、左裾が長い成績評価分布となることが想定されるためである。

（ア）以下の形式の科目であるもの。

- ① オムニバス
- ② 実技（スポーツ等を含む）
- ③ 実習
- ④ 研究（卒業論文を含む）

（イ）教養教育および各学部等の区分における当該年度の最大受講者の科目の受講者数の60%もしくは100名のうち、少ない方の人数未満の受講生数の科目。

- A) 成績分布のガイドラインとなり得る先行事例や参考例としては、北海道大学（優60%以上、「不可+評価せず」25%あるいは30%）や、大学改革支援・学位授与機構自己評価担当者研修会資料の例（Aをクラスの30%程度）、ヨーロッパ単位互換制度（EXCELLENT: 10%、VERY GOOD: 25%、GOOD: 30%）等がある。
- B) 本条件は、分析結果や各学部・学科・コース等の状況に応じて見直しを行う。
- C) 上記の条件を満たさない科目においても、同種の科目間における成績分布の偏りが著しい場合には、チェックの対象とすることがある。

2. 教養科目については全学教育機構運営会議が、専門科目については各学部等が主体となって科目の成績分布の偏りの判断やチェックを実施し、それぞれ報告書を作成する。チェック体制については、今回の分析を踏まえつつ継続的に検討する。
3. 成績分布に偏りが大きい科目について、成績評価の基準や方法を何らかの方法によって確認し、客観性及び厳格性を確保できていることが明確になっている場合には、次年度以降のチェック対象から除外できる。

平成 28 年度と平成 27 年度のすべての教養教育科目と専門教育科目について、下の図に示すような成績評価分布の一覧を作成した。これらのデータと成績評価分布の検証方法の一例を参考にしながら、教養教育科目については高等教育開発センターが、専門教育科目については各学部が適切性の検証を実施した。

開講区分	科目コード	A以上 受講者100名以上の科目で60%超	D以下 受講者100名以上の科目で30%超	S	A	B	C	D	F+	F	保留	総計	GPA	受講者数
前期		55%	3%	26%	29%	32%	9%	0%	0%	3%	0%	100%	2.68	34
後期		81%	0%	34%	47%	13%	5%	0%	0%	0%	0%	100%	3.11	38
前期		65%	26%	26%	39%	9%	0%	0%	0%	26%	0%	100%	2.39	23
後期		42%	12%	2%	40%	17%	29%	2%	0%	10%	0%	100%	1.93	42
前期		100%	0%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	3.75	4
後期		25%	50%	6%	19%	13%	13%	0%	0%	50%	0%	100%	1.19	16
前期		27%	27%	12%	15%	34%	12%	0%	0%	27%	0%	100%	1.73	67
後期		56%	9%	22%	34%	18%	15%	0%	0%	9%	0%	100%	2.44	219
前期		87%	3%	77%	10%	9%	2%	1%	1%	1%	0%	100%	3.56	186
後期		56%	4%	43%	13%	22%	17%	0%	0%	4%	0%	100%	2.74	23
前期		57%	14%	18%	39%	25%	4%	0%	0%	14%	0%	100%	2.43	28
後期		7%	46%	0%	7%	20%	27%	0%	13%	33%	0%	100%	0.87	15
前期		28%	14%	14%	14%	29%	29%	0%	0%	14%	0%	100%	1.86	14
後期		33%	0%	8%	25%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	100%	2.08	12
前期		60%	0%	43%	17%	26%	13%	0%	0%	0%	0%	100%	2.91	23
後期		35%	11%	12%	23%	42%	13%	0%	2%	9%	0%	100%	2.13	127
前期		76%	3%	44%	32%	3%	18%	0%	0%	3%	0%	100%	2.97	34
後期		93%	4%	83%	10%	2%	0%	0%	2%	2%	0%	100%	3.69	48
前期		33%	23%	0%	33%	22%	22%	0%	17%	6%	0%	100%	1.67	18
後期		35%	15%	9%	26%	25%	25%	2%	5%	8%	0%	100%	1.89	199
前期		51%	12%	17%	34%	22%	14%	0%	2%	10%	0%	100%	2.31	58
後期		10%	7%	0%	10%	36%	47%	1%	1%	5%	0%	100%	1.5	193
前期		100%	0%	30%	70%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	3.3	10
後期		84%	4%	68%	16%	8%	4%	0%	0%	4%	0%	100%	3.4	25
前期		56%	6%	28%	28%	33%	6%	0%	0%	6%	0%	100%	2.67	18
後期		71%	14%	50%	21%	14%	0%	0%	0%	14%	0%	100%	2.93	14
前期		0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%	1	1
後期		100%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	4	2
集計		56%	27%	16%	20%	24%	12%	0%	2%	20%	0%	100%	1.84	461

図 科目ごとの成績評価分布の一覧の例

教養教育科目の成績評価分布の適切性の検証については、成績評価分布の検証方法の一例に使うこととした。平成 28 年度においては、対象となった 276 科目のうち成績評価分布に偏りのある科目とした A 以上が 60%以上であった科目が 11 科目、D 以下が 30%以上であった科目が 4 科目あった。7 科目について、担当教員に対面の状況確認調査を実施した。

同様に、平成 27 年度については、対象となった 279 科目のうち成績評価分布に偏りのある科目とした A 以上が 60%以上であったのが 13 科目、D 以下が 30%以上であったのが 8 科目であった。7 科目について、担当教員に状況確認調査を実施した。

対面による口頭での状況確認調査の結果、成績が A 以上に偏っている科目の多くは、試験やレポート等の成果物の成績が良かったためであるという理由であった。一方、成績が D 以下に偏っている科目は、試験の成績や出席率が悪い科目や、途中放棄の多い科目であることが確認できた。

2. 大学 IR コンソーシアム学生調査の実施

本学では、平成 28 年度から大学 IR コンソーシアムに加盟し、加盟大学共通で実施されている学生調査（一年生調査、上級生調査）を実施している。初年度の学生調査はマークシート用紙を使用し、汎用的なドキュメントスキャナと専用の OCR ソフトウェアでデータを取り込む形式で実施した。そのため、データの読み込みや手書き部分の手動入力に多くの時間と労力が必要であった。

そこで、本年度は Moodle のアンケート（Questionnaire）機能を使用して、調査を実施した。調査用の Moodle コースを作成しアンケートを設置後、調査対象学生全員を受講者として登録した。その後、各学部で協力を依頼して、回答の手順や依頼の内容および調査コースの URL と二次元バーコードを記した調査依頼用紙（次ページに示す）を調査対象学生に配布してもらった。9 月末の後期オリエンテーション時に経済学部で協力を得て、スマートフォン等から 300 人程度の学生が Moodle のアンケートフォームに同時アクセスしても問題なく回答が完了することを確認した。

回答率は、[一年生調査] が 71%、[上級生調査（3 年生）] が 57%であった。昨年度のマークシートによる調査時の回収率は、「一年生調査」が 90%、「上級生調査」が 76%であり、それぞれ 20%ほど回答率が低下した。これについては、本年度最も低い回答率であった学部が、「一年生調査」が 17%、「上級生調査」が 2%と極端に低くなっており、調査方法をマークシートからウェブ形式に変更したことによる回答率の減少とは必ずしも言えない。回答率が極端に低い場合には、再度依頼して実施してもらえるような体制を今後検討する必要がある。

【20】あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。 ☐ 現役 ☐ 浪人 ☐ その他（留学生、社会人など）
【21】どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。 ☐ 一般入試（国公立大学の前・中・後期日程、及び、私立大学の一般入試を含む） ☐ 公募推薦 ☐ AO選考 ☐ 留学生入試 ☐ 社会人入試 ☐ 編入学 ☐ その他の試験（帰国子女入試など）
【22】あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。 ☐ 第1志望だった ☐ 第1志望ではなかった
【23】あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。 ☐ 上位の方 ☐ 中の上くらい ☐ 中くらい ☐ 中の下くらい ☐ 下位の方 ☐ その他（わからない、覚えていない、など）

図 Moodle のアンケート（Questionnaire）機能を使用した調査画面の例

大学 IR コンソーシアム学生調査（全学部 1 年生用）
一年生調査 2017 年（全 24 問）

回答所要時間（目安）：10～15 分

回答の手順

1. スマートフォン（iPhone や Android 等）やタブレット PC をお使いの方は、画面を回転させて横向きにして回答することを推奨します。

※縦向きでも回答可能ですが、一部の設問で読みづらくなります。



2. 個人のスマートフォン等で右の  を読み込んで、リンク先のアンケートにアクセスし、直ちに回答を始め、本日中に回答の完了をお願いします。

※回答には、少量のパケット通信が発生します。

※QR コードが読めない場合、以下のアドレスからアクセスできます。大文字に注意してください。

goo.gl/

3. Moodle のログイン画面が表示されますので、大学の利用者 ID（メール等と共通）を入力して ログインしてください。ログイン後、アンケートページへ移動します。

※アンケートページへ移動しない場合は、お手数をおかけしますが、kyogaku-ir@oita-u.ac.jp にご連絡ください。

4. **一年生調査（全 24 問）** の下に表示される「アンケートに答える...」をタップして、アンケートへの回答を開始してください。

5. 回答していない回答必須項目がある場合、「次のページ」に進むことができません。

6. 最後に、「回答を送信する」をタップして、アンケートの提出を完了させてください。

※スマートフォンで回答できない方は、本日中に PC 等を利用して回答してください。PC 等の場合、Web ブラウザのアドレス欄に以下の URL を入力すると移動できます。大文字に注意してください。

goo.gl/nMSisY

【調査ご協力をお願い】

本調査は、学生の皆さんに大学生活を自己評価していただき、それぞれの大学における教育の成果を測定することを目的として、本学が参画する大学 IR コンソーシアムが企画したものです。全国の大学が共同で調査を実施し、調査結果から得られた各大学の教育内容の特徴を大学間で相互に評価し合い、教育の質を客観的に保証するとともに、更なる教育改善の方策を見出します。

ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理しますので、皆さんの回答が他の人に知られることはありません。お答えは、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを一つだけ選んでください。その他、何かご不明な点がございましたら、**大分大学高等教育開発センター** 教務 IR(kyogaku-ir@oita-u.ac.jp)までお問い合わせください。

学生の皆さんのご意見を、本学の大学教育に役立て皆さんに還元していくことをめざしていますのでアンケートにご協力くださいますよう宜しくお願いいたします。

※「一年生調査」は、大学 IR コンソーシアムの学生調査部会が日本版新入生調査 (JFS)、日本版大学生調査 (JCSS)、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) など国内外の調査研究を参考に企画、作成したものです。調査票の無断複製は固く禁じます。

本調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と GPA や取得単位数等の相関関係を分析します。具体的には、みなさんの**学籍番号・性別・生年月・出身高校の所在地・入学年・入学区分・学部・高校の卒業年・履修した英語科目のコードと成績、GPA、取得単位数とアンケートの回答との相関関係を分析します。**また、みなさんが 2 年生以上になられた時点でも同様の調査を実施し、大学 1 年生のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。**学籍番号を暗号化して分析作業を進めますので、個人を特定できる情報が分析者も含めて他人に知られることはありません。**なお、本調査で提出戴いた個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」又はこれに準ずる法令を遵守し適正に取り扱います。

図 一年生調査の調査依頼用紙

3. 学修ポートフォリオのためのカリキュラムルーブリックの作成支援

教育の質保証の取り組みの強化として、三つのポリシーに基づくカリキュラムルーブリックを用いて学生が省察を行えるようにするための学修ポートフォリオ構築の支援を行った。本年度は、福祉健康科学部と理工学部で説明会を実施し、カリキュラムルーブリックの作成支援を行った。福祉健康科学部は、コース毎に3つのカリキュラムルーブリックを作成した。

福祉健康科学部

日 時：平成 29 年 7 月 12 日（水） 15：00～16：00

場 所：事務局 3 階 第 2 会議室

理工学部

日 時：平成 29 年 9 月 7 日（月） 13：10～14：10

場 所：理工 6 号館 2 階会議室

三つのポリシーのなかでも特に学修のゴールを示すディプロマポリシーに照らして、その到達度を可視化し、逐次省察しながら学生が学修を進めることは、教育の質保証につながる。学生が省察する際にディプロマポリシーに基づいたカリキュラムルーブリックを提供できれば、学生が省察のために到達度を自己評価することを支援できる。

ディプロマポリシーに基づくルーブリックにカリキュラムを配置することで、個々の科目がどのようにディプロマポリシーを達成するのに貢献しているのか示すことができる。そのため、カリキュラムルーブリックを作成することによって、カリキュラムの妥当性を検証し、将来のカリキュラム見直し時の改善点を明らかにできる。

カリキュラムルーブリックを学修ポートフォリオで活用することによって、学生はルーブリックのセルごとに省察し、そのエビデンスとしての成果物を管理することができる。また、カリキュラムを俯瞰しながら、これまでの学修の省察と次の学修とのつながりを認識し、学修を進めることができる。卒業時のディプロマポリシー達成のエビデンスとしても活用できる。

4. FD・SDに関連する事業

本年度にセンターが企画、実施あるいは支援した研修会・講演会は以下の①から⑬である。その中で、センターが主体的に実施した研修会、講演会について詳細に報告する。

- ① 第1回 Moodle・授業支援ボックス研修会（導入編）
- ② アクティブラーニングのための研修会
- ③ 第2回 Moodle 研修会（導入編）
- ④ 学生のメンタルヘルス講演会
- ⑤ 大分を創る人材を視野においた FD 研修会 第1回
- ⑥ 第1回 学習支援研修会「大学生のメンタルヘルス」
- ⑦ 第2回 学習支援研修会「ハラスメントとその構造について考える」
- ⑧ 大学授業デザインの方法-1 コマの授業からシラバスまで-
- ⑨ 学生教職員合同研修会「きっちよむフォーラム 2017」
- ⑩ 第3回 学習支援研修会「学生支援とびあるームの活用」
- ⑪ 第4回 学習支援研修会「自傷する学生の理解と対応」
- ⑫ 第3回 Moodle 研修会（導入編）
- ⑬ 大分を創る人材を視野においた FD 研修会 第2回

① Moodle 研修会

日 時：平成 29 年 5 月 17 日（水）16：30～18：00

場 所：旦野原キャンパス教育学部棟 2 階 情報システム室 D

テーマ：Moodle・授業支援ボックス研修会（導入編）

講 師：高等教育開発センター准教授 鈴木雄清

概 要：本年度から学習管理システム（LMS）が Moodle に変更された。Moodle でどのようなことができるのかについて、実際に学生ロールでの体験を通して紹介した。授業ですぐに使える Moodle の簡単な活用方法や、授業支援ボックスの意義および利用方法について説明した。

参加者

所 属	氏 名
教育学部	市原 靖士、財津 庸子、谷野 勝敏、都甲 由紀子、山下 茂
経済学部	渡邊 博子
医学部	栞島 千穂、清村 紀子、佐藤 祐貴子、土器屋 美貴子、中川 幹子 西迫 真美、福田 昌子
理工学部	大隈 ひとみ、菊池 武士、北西 滋、柴田 克成、芝原 雅彦 末谷 大道、鈴木 絢子、長屋 智之、原田 拓典、松尾 孝美 石川 雄一
福祉健康科学部	阿南 雅也、岩野 卓、河野 伸子、ラングリ・レイモンド
その他	吉崎 弘一（学術情報拠点）

	坂井 美恵子（国際教育研究センター）
	安部 恵祐（全学研究推進機構）
	隅田 好美（福祉社会科学研究科）
	岡田 正彦、牧野 治敏（高等教育開発センター）
	渡辺 信一郎、井上 あゆみ（福祉健康科学部 事務局）

② アクティブラーニングのための研修会

日 時：平成 29 年 5 月 18 日（木）第 1 部 14：50～16：20 第 2 部 16：30～17：30

場 所：教育学部第 1 会議室（挟間キャンパスへは遠隔配信）、高等教育開発センター

テーマ：授業をかえる！LTD 話し合い学習法による協同学習を直に学ぶワークショップ

講 師：久留米大学文学部教授 安永悟

概 要：講演会（第 1 部）、講師を囲んでのフリーディスカッション（第 2 部）

第 1 部

本学理事である越智副学長からの挨拶、司会者による講師紹介の後、講演が始まった。

アクティブラーニングの基礎となる活動性の高い授業、自分と他者の成長を実感できる授業づくりを骨子としての講演であった。不易としての協同学習、流行としてのアクティブラーニングとの見解から、協同学習について、半世紀にわたって鍛えられてきたものであること、協同学習の活動目的は全ての人が平和で幸せに暮らせる社会づくりであること、その教育目的は現場で活躍できる人材育成であるとの説明があった。協同学習とは仲良く活動しているというものではなく、自分の学力を伸ばすことが重要であり、LTD 話し合い学習（Learning Throug Disicussion）と呼ばれている。

協同学習の場づくりとしての基本技法について、グループ作り、話し合いの基本、活動に当たってのルール説明、ラウンドロビン（RR）、シンク・ペア・シェア（TPS）について説明があった。また、それを支える理論としての協同学習の説明があった。共同学習はグループ学習に含まれ、共同の精神と効果、授業づくりについて説明があった。教育観の大きな変化の背景として、「勉強は個人でやるもの」という「学習は個人の営み」との考え方から、「学び合うことで、生活を豊かにする確かな知識が身につく」という「学習は社会的な営み」という発想の転換が非常に重要であるとの説明があった。他に、「特派員（ワールドカフェ）」「ジグソー学習法」の説明、一つのバリエーションとして「反転学習」の簡略な説明があった。

他に、授業設計の仕方、技法の活用法、授業の体系化、LTD 基盤型授業モデルの活用について、簡単な紹介があったが、詳細は次回に譲るとのことであった。

第 2 部

場所を高等教育開発センターに移して、講師を囲んでのフリートークで行われた。第 1 部で説明が不足した部分や、アクティブラーニングを取り入れる授業の展開について、熱心な議論が交わされた。

参加者

所 属	氏 名
教育学部	甘利 弘樹、住田 実、谷野 勝敏、藤田 敦、別木 達彦、柳井 智彦 山下 茂
経済学部	渡邊 博子
医学部	桃島 千穂、清村 紀子、佐藤 祐貴子、土器屋 美貴子、中川 幹子 西迫 真美、福田 昌子
理工学部	大竹 哲史、賀川 経夫、加藤 義隆、中島 誠、西野 浩明 濱川 洋充、原慎 稔幸、古家 賢一
福祉健康科学部	栄留 里美、紀 瑞成、菅田 陽怜、ラングリ・レイモンド
その他	望月 聡（副学長）、石川 雄一（学長特別補佐） 坂井 美恵子（国際教育研究センター） 岡野 涼子、梶原 敏明、中川 忠宣（COC+推進機構） 安部 さゆり（研究・社会連携課） 佐藤 晃一、佐藤 智久、河村 美奈、加藤 梨沙（教育支援課） 岡田 正彦、鈴木 雄清、牧野 治敏（高等教育開発センター） 安部 眞佐子、岩崎 香子、定金 香里、杉本 圭以子（大分県立看護科学大学） 原田 秀郁（日本文理大学）

<感想等>

- ・協同学習の可能性を感じながら楽しく学ぶことが出来た。
- ・想像していた内容と違い、目からうろこのようなお話でした。本日拝聴した内容を基に、実践していきたいと思います。参考文献などの紹介も助かります。
- ・アクティブラーニングという言葉はよく聞いてはいたが、自分の中では漠然としていた。今回の研修会で実際に体験して理解が深まった。
- ・時間が足りなかった。もう少し学びたかったので、またの機会を作ってください。教育の専門家のお話が聞けて、大変勉強になりました。
- ・実際に体験してみると個人で考えられる時間の大切さ、グループで話す面白さを感じられた。実践しようと思いました。
- ・勉強は一人でするものではなく、仲間と学び合う、ということを考えると、最初に自己紹介をすることで、相手に関心を寄せたり、チームとして学んでいく意識が高まり、とても大事な時間だなと思いました。
- ・とても参考になりました。
- ・分かりやすい話であった。自分の授業にどうやって役立てようかということを考えた時、自分が研究者として活動を行ってきたので、教育については不十分で、知らないことが多く、授業改善についてもっと考えないといけないと思う。しかし、時間がない。
- ・ALは「脳のスイッチを入れる、気持ちよく回転させる」ことが目的であるという定義が新鮮でした。実践するのは大変ですが…

- ・ 具体的授業内容の話がお聞き出来てとても勉強になりました。実践されている内容を取り入れていきたいと思います。
- ・ 途中からの参加になり、大変残念でしたが、協同学習の進め方が簡易な言葉で説明していただき、理解がしやすかったです。
- ・ 環境作りが重要であることを初めて知った。また、アクティブラーニングとは、学生が発言して、あるいは学生が自主的に活動して学ぶことが成立するものと思っていたが、学生の脳の中を活性化することである、という定義が新鮮な驚きであった。
- ・ 具体的な気づきの多い、良質な研修をありがとうございました。
- ・ 飲み込むのに時間が必要だと感じますが、自分の授業に改善点として工夫すべきことのヒントを感じた。
- ・ 今回の FD 研修会は、アクティブラーニングの心構えのような印象を受けました。
- ・ アクティブラーニングについて専門的に学んだことがなかったので大変勉強になりました。特に協同学習の意義は重要だと思います。
- ・ これから共同学習に取り組みたいと思って参加しました。時間内がすべて「真剣に参加する」ということを、体験できたので、その部分からトライしてみようと思いました。
- ・ 初めてじっくり勉強できました。
- ・ 良い情報を得られた。
- ・ みなさんにお話しいただいて、理解されているのが分かった。
- ・ 看護学校の素晴らしい成果が、協同学習の内容の濃さを物語っていると思います。本日は本当にありがとうございました。
- ・ 毎回、多くの先生方のアクティブラーニングについて勉強させていただき、大変視野が広がります。本当にありがとうございます。
- ・ 大変興味深い内容でした。是非、この続きを学べる研修会を計画していただきたいと思いました。
- ・ AL について漠然と考えていたが、女の子のスライドを見て、この食いつきの表情を得る方法が AL なのかと思いました。共同という方向を理解させることも重要なキーワードとも思いました。
- ・ 協同学習における「個人の重視」は気付かないことで新鮮でした。その他啓発されることが多く、大変為になりました。
- ・ 協同学習の重要性についての認識が深まりました。教養科目にこの要素を含んだ科目が開講できると効果があると思います。
- ・ 大学生相手の具体例がもっと聞きたかったです。授業で役立てていきたいと思います。今日はありがとうございました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ アクティブラーニングの理論が体感的に分かった。
- ・ 理解しやすく楽しい時間でした。
- ・ 他者との共同で自分が活きるということ、スキルアップができるということが分かりました。
- ・ 協同の精神について理解が進んだ。
- ・ 漠然としていたことがある程度明確になりました。

- ・とても勉強になりました。講義にどのように導入するかを検討したいと思います。
- ・COC+で今やっている利益共有型インターンシップにおけるチームが早くまとまる方法等を知りたくて参加しました。座学での講義に活かします。

③ Moodle 研修会（導入編）

日 時：平成 29 年 5 月 24 日（水）16：30～18：00

場 所： 挟間キャンパス看護学科棟 4 階 自己学習室

テーマ：Moodle 研修会（導入編）

講 師：高等教育開発センター准教授 鈴木雄清

概 要： Moodle でどのようなことができるのかについて、実際に学生ロールでの体験を通して紹介した。授業ですぐに使える Moodle の簡単な活用方法について説明した。

参加者

所 属	氏 名
医学部	池田 八果穂、今井 浩光、小野 光美、北野 敬明、後藤 菜穂 佐田 茉莉絵、志賀 たずよ、谷川 雅人、土器屋 美貴子、中川 幹子 西迫 真美、橋本 理恵子、濱口 和之、森 茂、森 万純、涌 ゆみ 安德 恭彰、甲斐 真也、中田 健、宮崎 直美（医学部 附属病院）
その他	牧野 治敏（高等教育開発センター）

④ 学生のメンタルヘルス講演会

日 時：平成 29 年 6 月 26 日（月）4 限 14：50～16：20

場 所： 教養教育棟 32 号教室、看護学科校舎棟 222 講義室

テーマ：こころの健康を保つために ～ストレスの理解と対処～

講 師：大分県臨床心理士会 臨床心理士 米倉ゆかり

概 要：

例年実施しているメンタルヘルス講演会として、若年層の自殺が深刻な社会問題となっている現状を鑑み、ストレスとの付き合い方についての講演会であった。その内容は以下のとおりである。

1 ストレスについて理解する

- ・ストレスとは外部環境からの刺激によっておこる生体側のゆがみ・変化
- ・ストレスは悪いものであるとは限らない
- ・よいこともストレスとなる場合がある
- ・自分のストレスの原因は何か

2 ストレスに気づく

- ・ストレスサインを見逃さない
- ・こころ、身体、行動にどのような変化が起こるのか

- ・気にしているのに気にしていないと思い込もうとする（ストレスは持続・悪化）
- ・自分がストレス状態にあることに「気づく」「素直に認める」

3 ストレスへの対処の仕方を知る

1. 積極的に問題を解決する方法
2. 気持ちを切り替える・間をおく方法
3. 人に相談する方法
4. 認知や思考を変える方法

上記の説明のあと、ワークシートにより自分の状態を確認するとともに、ストレスへの対処法として、新聞紙を使ったエクササイズが行われた。

参加者

所 属	氏 名
医学部	安藤 敬子、幸松 美智子、中川 幹子、森 茂
理工学部	西野 浩明、市来 龍大、中島 誠、野中 嗣子、大津 健史 岩下 拓哉、池部 実、原慎 稔幸、益子 洋治、賀川 経夫
福祉健康科学部	河野 伸子
その他	岡田 正彦、鈴木 雄清、牧野 治敏（高等教育開発センター） 工藤 欣邦、河野 香奈江（保健管理センター） 工藤 幸子、木戸 芳香、加隈 哲也（挟間保健管理センター） 事務局 山元 每美（教育学部）、山口 正一（経済学部） 隅田 眞樹子、江口 美和（医学部） 衛藤 祐美、金丸 浩三、高野 靖信、椎葉 紀枝、甲斐 美恵 高月 沙織（理工学部） 伊井 智文、後藤 友里（福祉健康科学部） 阿部 友里（総務部） 佐藤 晃一、佐藤 智久、池田 圭一、中尾 亜紀、佐藤 幸江（学生支援部教育支援課） 吉松 純昭、上杉 優馬、大津 信輔、嶋田 勝憲（財務部） 稲田 博文、渡辺 千鶴子（人事課） 篠永 有里（総務課）、小島 早都子（企画課） 横田 幹夫（総務部施設企画課）、赤峰 玲子（研究・社会連携課） 佐藤 俊子、馬原 之考（監査室） 安倍 春雄、今村 正明、新家 聡（学生支援部学生支援課） 岩瀬 辰彦（学術情報課）

学生 19 名

⑤ 大分を創る人材を視野においた FD 研修会 1 回目 (※COC+)

日 時：平成 29 年 9 月 22 日 (金) 13：00～18：00

場 所：ホルトホール大分 サテライトキャンパス講義室

テーマ：社会で活躍する学生を送り出すために

～学生、社会人 OB・OG、教職員、みんなで考えるワークショップ～

ファシリテーター：株式会社ラーニングバリュー 本田貴継

概 要：学生の就職活動を、大学がどのように支援できるのか、大学での人材育成のために何をすれば良いのかについて、現在、社会人として活躍する OB・OG を交えて意見交換をした。
<プログラム>

- ①オリエンテーション (セミナーのねらいなど)
- ②グループワーク (場づくり実習：自分の学習スタイル)
- ③グループワーク (記者会見によるメンバー間の意見交流)
- ④グループワーク (ゲストに感じる、聴く、考える：社会人としての経験、抱負など)
- ⑤グループワーク (シェアリング：ゲストを入れ替えて)
- ⑥まとめ (全体の振り返り)

参加者

所 属	氏 名
大分大学	足立 一馬、坂口 伸一、岡野 涼子、牧野 治敏、鈴木 雄清 藤本 隆史 (経済学部 1 年)、由布 翔平 (教育福祉科学部 3 年)
日本文理大学	園田 一則
大分みんなのキャリア支援 センター	小島 健一
(株)地域科学研究所	堺 絵里
三友株式会社	藤田 宗一郎
(株)リクルーティング・ パートナーズ	藤井 保久

学生 2 名

感想

- ・学生の就職を考える研修が、実は自分の働き方、キャリアを考える機会でもあったことは、予想外の面白さでした。
- ・ふだん学生を相手に仕事をしているので、分かっているつもりだったことが意外とわかっていなかったことがわかった。(1 年生の感じ方、表現力など)
- ・大学の教員が少なかったことが逆に幸いして、本音を語りやすくなったのではないかな。
- ・キャストのキャラクターは皆、大変面白かった。
- ・毎回感じるのですが、今回改めて、キャストをたくさんやらせて頂いて、聴かれることによって、自分の頭の中が整理できるとか、自分に関心をもってもらっていることによる高揚感があつたりしました。そこで逆に言うと興味・関心をもって、相手の話を聴くことの大切さを改めて感じる事が出来ました。ありがとうございました。

- ・自分自身の思っていることを言葉にするのは難しい。
- ・何かを話す時、経験をしたことでないと話すことはできない。
- ・人それぞれで、生き方、ポリシーなどは違う。
- ・普段、このように自分のことについて伝えたり、聞かれることはないので、自分自身を客観的に見てみたり、話を上手く他人にしていくという能力を図ることができた。
- ・様々な年代、バックボーンを持った人が集まって話すという機会は少ないと思うので、こういう会を開いて、自分の視野を広げることはとてもよいことだと思う。
- ・改めて「学生と社会人が語る場」の必要性を感じた。それも、肩書きや年代、バックグラウンドの違う社会人が集まり、今日の手法でフリートークまでもっていければ非常に良い会になると思う。ただFD・SDとしての位置づけは今後見直す検討あり。
- ・テーマ「社会で活躍する学生を送り出すために」の答えを見つけにきましたが、他の参加者の声を聴いて、ヒントが見つかり感謝しています。教員歴は長いですが、変化していく学生に正面から向き合うには、厳しい年代になり、刺激を受けました。時には、自分の職場を離れて研修することも必要です。特に学生の話をよく聴いて、相手の人格を認めながら指導に尽力したいと思います。
- ・他者との価値観のちがいに触れながら、自分の事を話すことで様々な生き方があることを改めて感じた。一つの目的に向ってそれぞれの方法で達成を目指す事が充実している様に思えた。ワークについては、コミュニケーションツールとして良いと思う。親しい仲でも新たな発見が見つけられ楽しくすごせました。
- ・様々な立場の人たちが集まって話す場は新鮮でした。
- ・企業参加でしたが、自己紹介から好きなコトなどもオープンすると、個として見るできるので、互いを理解しやすいです。その上で話し合い etc だと、安心感も出て、良いなあと思いました。
- ・互いを比較することで、自分に足りないものや、これもいいなと思えるものもあり勉強になりました。(話し方など)
- ・学習の傾向のワークはおもしろかったです。初めてでしたが納得でした。
- ・書く→シェア→書く→シェアというのも、内容がブレずに良いですね。
- ・それぞれの仕事の大切な事も聞くことができて良かったです。自分自身の学びにもなりました。
- ・そういえば、社会人キャストでワークした時はおひとりが私の時とかぶって聞けなかったので(2回)ききたかったなーと思いました。
- ・多くの体験をすることが大切だが、他者の体験を聞くということは、直接の体験にははるかに及ばないものの、一つの体験になる。体験を重ねることで、メタ認知能力が高まり、自律的に動くことができるようになるかもしれない。アウトプットが重要。「体験の言語化」
- ・今までは大学教授などがメインであったが、社会人の話を聞けて、とてもタメになった。よく言われる「今の学生は・・・」という言葉は実体験できないので、その話を直接聞けてよかった。それぞれ仕事をする上で大切に思っていることがあるが、かみくだいてみると、「聞く」「色々な体験をする」「考える」等の共通点がみえてきた。インターンシップで「自分の長所は？」等ときかれるが自分を知らないとわからないし、相手に接しなければもっとわからない。なので今回はいい経験になった。

- ・目上の人たちと話をするというなかなかない経験ができ、とてもためになった。また、今までよりもさらに視野が広がった。
- ・仕事をする上で何が大切か今からどんなスキルを身につけておくべきかがわかってよかった。
- ・まずは当たり前のことができるように頑張っってその後に自ら何をすべきか考え行動していくことが大事だと思った。また、今からでも就活のことについてもっと調べていこうと思った。

⑧ 大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）

日 時：平成 29 年 11 月 2 日（木）13：00～17：45

場 所： ホルトホール大分

テーマ：大学授業デザインの方法-1 コマの授業からシラバスまで-

ファシリテーター：産業医科大学 柴田喜幸、法政大学 森幹彦、愛媛大学 根本淳子、徳島大学 高橋暁子、大分大学 鈴木雄清

概 要： 参加教員が担当している 1 科目を選択し、シラバスを中心にして授業改善のアイディアを出せるようになることをめざすワークショップ形式で実施された。当日の能動的な活動を中心とした対面研修に加えて、事前の e ラーニングの反転学習とのブレンド型であった。日本教育工学会の SIG-01（高等教育・FD）・SIG-07（インストラクショナルデザイン）との共催で、日本教育工学会のこれまでの知見を活用し、大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与しようと 2008 年度から行われているプログラムを適用して実施したものである。修了要件（事前・事後学習を含む）を満たした参加者には、本研修を修了したことを証明する日本教育工学会の認定書を発行した。

参加者

所 属	氏 名
教育学部	藤井 弘也、清水 良彦、藤井 康子
経済学部	金子 創、林 勇貴
医学部	中川 幹子、岩城 貴史、久我 修二、佐藤 祐貴子
理工学部	栗原 央流、佐藤 慶三
福祉健康科学部	兒玉 雅明、廣野 俊輔
その他	坂井 美恵子、ブルカート香織（国際教育研究センター） 安部 恵祐（全学研究推進機構）、牧野 治敏（高等教育開発センター） 阿部 敬信（別府大学短期大学部）

⑨ 学生教職員合同研修会「きっちょうむフォーラム 2017」

日 時：平成 29 年 11 月 29 日（水）14：50～16：20

場 所：教養教育棟 25 号教室（旦野原キャンパス） 第 2 会議室（挾間キャンパス）

テーマ：大人数クラスにおけるアクティブ・ラーニング

講 師：教育学部准教授 麻生良太、高等教育開発センター准教授 鈴木雄清

概要：大人数教室におけるアクティブラーニングについて、2名の教員の実践報告をもとに、意見を交換した。ひとつ目の実践は、専門科目の例として、教育学部「教師学」での実践を麻生氏から、もう一つは教養科目として「大分の地域資源」について鈴木氏から報告を受けた。この2件の報告は、対面授業での双方向性を確保した授業（麻生氏）と、Moodle を活用した授業（鈴木氏）であり、タイプの異なる授業でのアクティブラーニングとして、有意義な話題提供となった。

きっちもむフォーラム2017
2017/11/29

大分大学高等教育開発センター

大人数クラスにおけるアクティブ・ラーニング —授業実践報告「大分の地域資源」—

大分大学 高等教育開発センター
鈴木 雄清

QITA UNIVERSITY 1

大分大学高等教育開発センター

科目「大分の地域資源」

- ・教養科目「福祉・地域」
- ・COC+科目「大分を創る人材を育成する科目」（選択必修）
- ・単位互換科目
- ・2017年度前期：125名

1. 授業でピックアップする大分の地域資源について列挙し、説明できるようにする。【非同期eラーニング・対面授業】
2. 大分の地域資源に係わる問題点や課題を選択・発見し、自分なりの解決のアイデアを提示できるようにする。【レポート】
3. 大分についてもっと学んでみたい、大分の地域資源を体験してみたいと思うようになる。【対面授業】

QITA UNIVERSITY 2

大分大学アクティブ・ラーニングのガイドライン
(山地・川越(2012)の形態分析をもとに改変)

QITA UNIVERSITY 3

大分大学ディプロマ・ポリシー

QITA UNIVERSITY 4

ブレンド型 (大きく捉えると反転形式)

スマートフォンやPCで学習

【10コマ】eラーニング (非同期)

- ・映像コンテンツ
- ・Web上の情報源へのリンク
- ・小テスト
- ・掲示板

【5コマ】対面授業 (集合授業)

- ・グループでの協同作業
- ・ジグソー法
- ・プレゼンテーション (ビデオ提出)

後期のみ
ホールホール大分
(大分駅前) も活用

QITA UNIVERSITY 5

現地で収録した映像コンテンツ

・民生用4Kカメラ(SONY FDR-AX40)

授業タイトル	協力者の所属・職等	撮影場所
1 別府竹細工	油布竹細工	油布竹細工 (別府市)
2 別府八湯温泉道	別府市観光協会	別府市観光協会 (別府市)
3 国東の七島園	くにさき七島園復興会	くにさき七島園復興会 (大分県国東市安岐町)
4 臼杵産産仏	臼杵市歴史資料館館長	国室臼杵石仏 (臼杵市)
5 カボス栽培—大分の農業(1)	竹田市カボス農家	竹田市入田
6 しいたけ栽培—大分の農業(2)	国東森林組合理事	国東市武蔵町
7 大分の麦焼酎	藤原醸造合資会社	豊後大野市
8 豊後高田市の「昭和の町」	豊後高田市観光まちづくり株式会社	豊後高田市

QITA UNIVERSITY 6

映像コンテンツの配信

vimeo
・HD(720p)で配信

QITA UNIVERSITY 7

非同期メディア授業の工夫

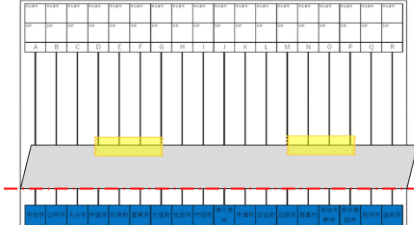
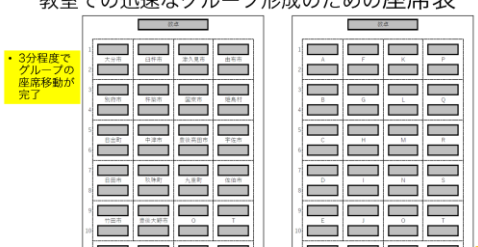
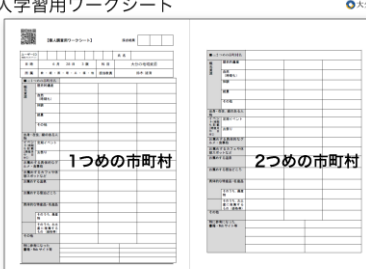
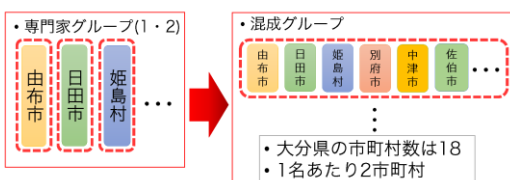
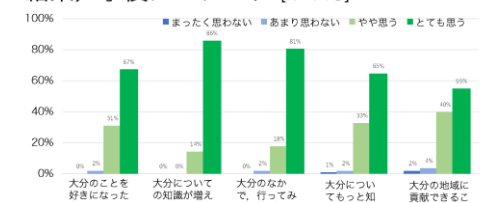
平成十三年文部科学省告示第五十一号 (大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等)

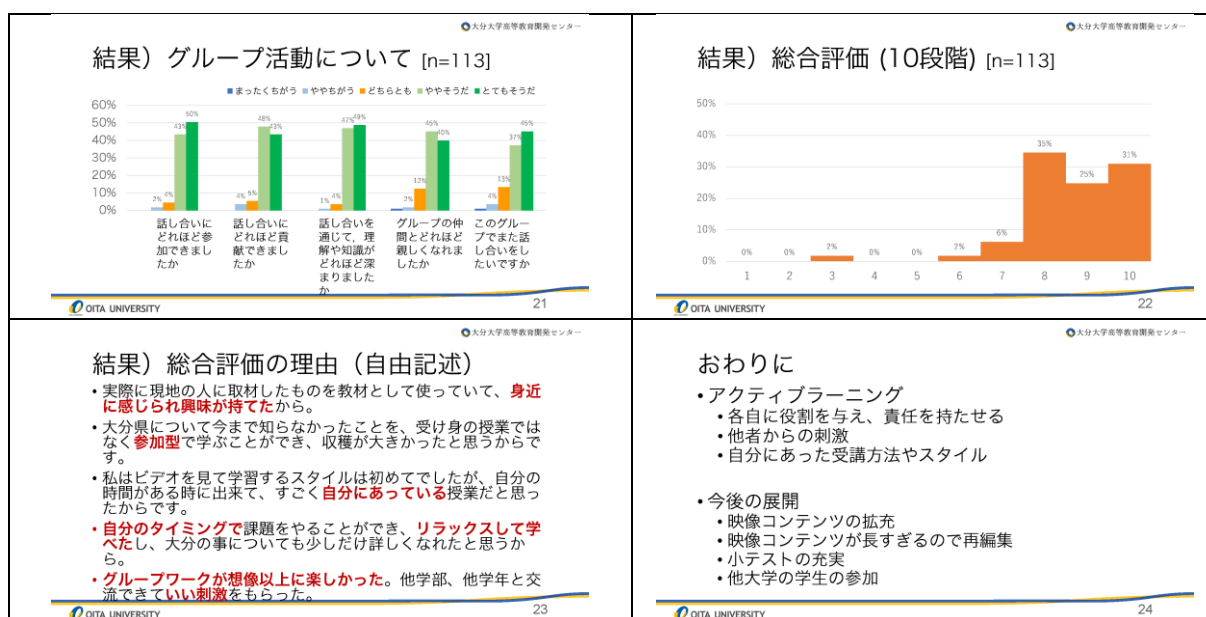
- ・一回の授業の実施に当たって設問解答、添削指導、質疑応答等による指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの

毎回の授業で

- ・小テスト (自動採点) 【必須】
- ・電子メール・掲示板による質疑応答
- ・掲示板への意見や課題の投稿・相互コメント 【必須】

QITA UNIVERSITY 8

小テスト - 映像コンテンツすべてを視聴しなければ回答できない問題を含める - 何度でも挑戦可能 - 全問正解をめざす  大分大学高等教育開発センター	相互コメント - 自己コメントは 字数制限あり ・300字以上350 次以内 - 他者へのコメン トを必須  大分大学高等教育開発センター
対面授業（5回） 1グループ6名で実施 4名でも実施可能な設計 「大分を巡るツアー」の企画 - 課題割り当てのくじ引き（担当市町村の2か所） - ワークシートを用いて担当市町村を調査（個人） - 専門家グループで意見交換（同じ市町村でグループ） 「大分を巡るツアー」の企画（市町村混合グループ） - プレゼンテーション  大分大学高等教育開発センター	横線無しのみみだくじ グループ編成（課題割り当て）のくじ  混合グループは「カウ ントオフ」 でグループ 作成 大分大学高等教育開発センター
教室での迅速なグループ形成のための座席表 ・3分程度で グループの 座席移動が 完了  大分大学高等教育開発センター	個人学習用ワークシート  大分大学高等教育開発センター
ジグソー法的なグループの組替え - 専門家グループ(1・2) - 混合グループ - 由布市 日田市 姫島村 別府市 中津市 佐伯市 ... ・大分県の市町村数は18 ・1名あたり2市町村 ・一人一人の学生に役割を与え、責任を持たせる  大分大学高等教育開発センター	市町村混合グループ用ワークシート  大分大学高等教育開発センター
Moodleのフォーラムに動画とプレゼン資料を提出  Moodleで投票 タブレット端末で撮影したビデオプレゼンテーション 大分大学高等教育開発センター	欠席・中途出席者への対応 - 冒頭で、遅刻・欠席がグループ活動にどのような問題を引き起こすのかを説明しておく - タイミングによっては、既存のグループに入ってもらい - グループへの影響を最小限にとどめるよう配慮 - 場合によっては、中途出席者だけのグループを作る 大分大学高等教育開発センター
アンケート調査 - Moodle上で実施 - 回答内容は成績に反映されない - 回答したかどうかは成績に反映する - 内容 - 大分の知識や魅力（5問） - 授業振り返り記録の質問紙（安永 2014）の「話し合いについて」と「グループについて」（10問） - 総合評価（1問） - 総合評価の理由（自由記述） 大分大学高等教育開発センター	結果）事後アンケート [n=113]  大分大学高等教育開発センター



参加者

所 属	氏 名
教育学部	住田 実、永田 誠、三次 徳二、望月 聡、渡邊 和志
経済学部	青野 篤、市原 宏一、江原 慶、久木元 美琴、矢野 英子
医学部	岩城 貴史、小野 光美、北野 敬明、土器屋 美貴子、中川 幹子 中田 健、福田 昌子、三重野 英子、森 万純
理工学部	佐藤 慶三、柴田 克成、高見 利也、西野 浩明、原慎 稔幸 松尾 孝美
その他	坂口 伸一 (キャリア支援課)、界 仁美 (学術情報課) 河村 美奈 (COC+推進機構) 牧野 治敏 (高等教育開発センター) 比江島 香予子、島田 青伊、加藤 梨沙 (教育支援課)

学生 1 名

感想：今回の研修内容について

- ・違った授業の中で AL が使われている例だったので、参考になりました。もう少し具体的に機器の使用についても知りたいです。
- ・「ジグソー法」という用語を知らなかったので (すみません) 調べてみようと思います。もう少し手軽に試せる Moodle の活用法を知りたかったのですが、事前に作り込む、または、複数の教員・TA が関わる必要のある実践報告だったので、若干、予想とは違っていました。やはり、アクティブ・ラーニングは相当に準備が必要だということを再認識しました。
- ・私自身も大人数 (140 名程度) の講義を複数担当しており、一人で行う場合は、AL に向けた準備、学修支援が行き届かず苦労している現状です。そのため、今日の報告事例は参考になりました。
- ・アクティブ・ラーニングを取り入れようとする、途端に時間が足りなくなります。少なくとも

も、ここまでは履習しなければという（特に理系の場合）ことを考えると、やはり難しいなあと思います。例えば、学生に質問を投げかけるだけで、できる内容は半分以下になります。あとは、やはり教員数が足りないと思います。自分が担当する導入期（1年生）の大人数授業については、ヒントが得られたと思います。2年生以降の専門性の高い（かつ、内容の多い）大人数授業についての事例紹介があるとよかったのですが…。

- ・他の先生の授業の工夫を知ることにより、自分の授業に生かすヒントを得ることが出来た。
- ・実施方法の異なる2つの講演で、いろいろなタイプのアクティブ・ラーニングがあるのだと思いました。共同講義は教員間の振り返りを行っているというのは参考になりました。
- ・自分が発表したこともあるが、資料を作成しながら、自分が行っている講義内容がアクティブ・ラーニングのどの学習活動に位置付くのがより明確になった。
- ・グルーピングに必要、有効な準備は特に参考になった。大人数のアクティブ・ラーニングの難しさを知った。それに対する先生方の工夫も勉強になりました。
- ・参考になりました。ただ、専門の講義でも導入出来るような方法があればと思います。
- ・他の先生方の授業内容、工夫、評価、課題をお聞きするのは、本当に参考になります。とくに今回は、大人数の授業に焦点を当てたことが有意義でした。
- ・事例としてすごいなあと思ったけれど、自分の授業に活用するとしたら、どうやってやれるのかなあと思いました。Non-active learning の体質が抜けません。準備が大変そうとも思いました。
- ・勉強になりました。担当の学生実験で生かしていきたいと思いました。
- ・担当授業科目（法律学）の性質上、そのまま生かすことが難しい内容もありましたが、参考になる話が聞けました。
- ・2つの事例発表は大変参考になりました。また、アクティブ・ラーニングの実践が大変であることが再認識できました。
- ・このフォーラムそのものが「アクティブ・ラーニング」になる手本を見せて欲しい。実際に学生の立場でムードルを使う立場に立ってみるとか。
- ・日頃より学生が主体で学べるようなグループ学習、ロールプレイ、取材、小テストなどを工夫していますが、学生の思考力、知的関心を深めるには、やはり教員のコメント、態度が要になると思います。学生は作業はしますが、議論が深まらず浅いまとめで終わる傾向があります。学生が真に悩み、考えを深め、その置換えがおもしろいと思える教育方法について模索しています。
- ・学部特性（特徴）が影響すると感じました。（自由な感じ）。現在、私たちが行っている授業、グループワーク、演習の内容も十分アクティブ・ラーニングなのではないかと思いました。（eラーニングは活用してませんが）
- ・どのような方法が今後の授業に取り入れられそうか考える機会となりました。
- ・実際のアクティブラーニングを用いた授業を見せていただき、大変参考になりました。特に鈴木先生のは準備が（映像コンテンツ等）大変そうですが、1回作ったら毎年使えるので、負担は大きくならないのかなと思います。
- ・教員は一人でやる場合と複数でつく場合とで、どういう違いがあるか。一人でやる場合に特に注意すべき点はあるか？

- ・受講者同士のディスカッションが良かった。色々な実践例を知る機会を頂きました。参考にさせて頂き、可能な形態を模索していきたい。アクティブ・ラーニング技法の用語解説（ver5）を印刷し手元に置いています。資料が更新されたら、ご案内いただければ嬉しいです。

感想：きつちよむフォーラムについて

- ・報告自体は、とても興味深いものであったが、参加者が少なかったのが、とても残念でした。
- ・大人数での授業における AL について、導入期の取り入れ方について実例をもとに説明していただいたので、ヒントは得られたと思います。
- ・日常の授業で改善できる内容を取り扱うことが活用の広がりを図る上で大事だと思う。
- ・参加者の方々から多くの意見をいただいて、来年度以降の講義のすすめ方の参考になった。
- ・グループだけでなく、個人で発表する機会も、授業中に欲しい（時間がないと思いますが…）。その方が実力もつくと思いました。
- ・自分の取り組みを見直すきっかけになりました。
- ・いつも素晴らしい企画を本当にありがとうございます。
- ・アクティブ・ラーニングの視点からの授業を展開することの重要性や意義が参加者に伝わったと思います。
- ・アクティブ・ラーニングを学び考えるいい機会になりました。
- ・ありがとうございました。
- ・画面が暗い。PPT をそのものをメイン画面に投影してサブ画面に講演者が映るのが良い。サブ画面に自分たちの像が出ている意味が不明。質問 1. アンケートは匿名ですか？その場合どう人を特定して成績に反映させているか？質問 2. 掲示板は 100 人入力したら、コメントが 100 個つくってことですか？どれか 1 つに入力したらよいつてことですか？誰が入力したか、すぐにわかるんですか？
- ・他学部のアクティブ・ラーニングの実践状況を知ることができ、たいへん興味深かったです。ありがとうございました。
- ・かなりつくり込まれている授業ではあるが、特殊な内容の授業だから成立している部分もある気がする。基礎的な科目で行うときの工夫などもあると参考にしやすい気がする。
- ・アクティブ・ラーニングを用いた授業について、具体的な話が聞けて良かった。e ラーニングなど上手く利用していることに感心した。

⑫ Moodle 研修会（導入編）

日 時：平成 30 年 3 月 14 日（木）13：30～14：00

場 所：理工学部 1 号館（管理棟）2 階・第 1 会議室

テーマ：Moodle 研修会（導入編）

講 師：高等教育開発センター准教授 鈴木雄清

概 要：Moodle でどのようなことができるのかについて、実際に学生ロールでの体験を通して紹介した。投票、出欠確認、ミニッツペーパー等の授業ですぐに使える Moodle の簡単な活用方法について説明した。

参加者：理工学部教職員 62 名

⑬ 大分を創る人材を視野においた FD 研修会 第2回 (※COC+)

日 時：平成 30 年 3 月 23 日 (金) 13:00～17:00

場 所：教養教育棟 28 号教室 (旦野原キャンパス)

第3会議室(挟間キャンパス) (講演部分のみ配信)

テーマ：自律的に学修する学生を育てるー1 回言って皆が理解するなら教師はいらない！ー

講 師：福岡大学工学部教授 山口住夫

概 要：今回の研修会は、社会で活躍する人材を大学で育てるためにどのような資質、能力を育成しなければならないかをテーマとした。研修会の形式は、一人のあるいは複数の講師による講演会やパネルディスカッションではなく、就職して数年の若い社会人を中心に、大学で学ぶ学生とその教育にかかわる教職員でグループを作り意見交換をしながら、それぞれの立場で今後の有り様を考えるワークショップとして実施した。学生を採用する企業から、また、学生を教育する大学の教職員から、その思いを一方的に発するだけではなく、学生が社会で活躍できるよう育成するためには何が必要なのかを、それぞれの立場で考え、異なる立場からの意見をもとに自分の考えを修正・発展させる研修会とすることで、大学の教育に何が必要であるかを考えることができた。さらに、全学で普及が進むアクティブ・ラーニングについても、教員自身が体験することができ、授業改善へのヒントとなった。この研修会によって、大分大学が大分県における COC+大学として社会人基礎力（対課題基礎力、対人基礎力、対自己基礎力）を備えた人材を輩出する事業に寄与し、本学が大分県での地(知)の拠点大学としての使命の一端を果たすことができた。

参加者

所 属	氏 名
医学部	北野 敬明、土器屋 美貴子、安藤 敬子、佐藤 祐貴子
理工学部	中島 誠、池部 実、齋藤 晋一
健康福祉科学部	宮崎 伊久子
教育福祉科学部	学生 (3 年生) 15 名
その他	鈴木 雄清、正木 遥香、牧野 治敏 (高等教育開発センター) 比江島 香予子、島田 青伊、加藤 梨沙 (教育支援課)

学生 3 名

■アンケート ((株)ラーニングバリューによる)

1. 本日のサロン満足度についてお聞かせください

とても満足した	11名
満足した	11名
どちらともいえない	1名
あまり満足しなかった	0名
全然満足しなかった	0名

(その理由)

<教職員>

- ・特に印象的だったところは、印象のお話と記者会見でした。したことがなかったので、特に記者会見が良かったです。
- ・やってみることが大事だと思った。あまり深く考えずに学生と一緒に考えることを大切にする。学生を大切にするということが大事だと思いました。
- ・学生が興味関心を持つようなきっかけづくりの具体的な例が満載でした。
- ・学生さんが熱心に聞いてくれたのが印象的でした。眠られるのかと心配していました。
- ・予習の重要性と具体的な方法について知ることができて有益でした。また、生活指導については事前にはアナウンスはなかったが、最近ドロップアウトしかけていると思われる学生に多く接することが多いが、生活記録をつけることが重要であることを知った。
- ・教員だけでなく学生も参加していたのでどちらの立場からの意見も聴くことができ参考になった。自律的学習の習慣をつける1つの方法について学んだ。
- ・「満足した」―「とても満足した」の差は今後の自分の取り組み方の差。
- ・学生さんと話ができたことで、新たな気づきがえられた。
- ・教える上でのヒントがたくさんありました。使おうと思います。
- ・学生に対する工学的思考法の養い方の一例を紹介していただき大変参考になった。
- ・先生の大変さを感じました。山口先生は素晴らしいですね。山口先生から学ぶ学生さんがうらやましいです。

<学生>

- ・初めのグループ分けから最後の討論まで、いろいろな自分とは違った意見や価値観を知れました。その中で新たな自分も発見できました。
- ・予習における自分の中で得られるもの、また、それらにける教員側の努力を知り、そこから自律学習につながっていると思った。予習をただ面倒だと思うのではなく、それによって得られるものを思い出して頑張りたいと思った。
- ・先生の話が面白かったと感じましたし、なるほどと納得させられる話もあったので勉強になりました。
- ・グループワークを聞いて他の人の意見・考えを聞きながら、講演等についての学び、内容を深めることができたから。
- ・学生だけでなく先生とグループになって話し合いができたことが、普段あまり経験しないし、先生視点の話を聞くことができたため。
- ・教員の立場の「授業」「学習」ということについて知ることができたから。
- ・自分の学習スタイルを知ることができたり、講演では自分の足りなかった部分やこれから自律していくために何が必要なのか、といったことを楽しく学ぶことができたから。
- ・グループで話し合う時間が設けられており、話の内容が理解しやすかったです。
- ・何かに向けて行動することが私は好きなので、これからも続けていこうと思えたから。
- ・工学系の説が理解できなかったのも、一部つかみ辛い説明もあったが、全体的に納得してきくことができたので、満足だと思う。
- ・先生方からの見方や予習の大切さ、自分でもできそうなラリーメールのような計画をたてるこ

と、などたくさんのことを学ぶことができ、とても充実した半日となりました。

- ・レポートが工学部的だったり、教員目線の話であったため少し難しかった。また、自律について考えることができ良かった。

2.「参加されての感想をご自由にお書きください」

<教職員>

- ・多分野の先生方の意見・学生の意見をきくことができ楽しかったです。学生の立場にたって考える機会を与えられました。
- ・自立するための学修方法を学生の時にしておけばよかったと反省しています。
- ・すばらしいFDでした。領域が少し異なりますが本質は同じと思います。ありがとうございます。
- ・先生が学生を大事にされていることがよくわかりました。
- ・講義・演習で活用してみようと思います。
- ・時間が十分あったので楽しくしゃべれました。
- ・講演を聞くことはあったのですが、ワークショップのようなものに参加したのは初めてだったのでしげきになった。
- ・少グループのディスカッションが中心だったので知識を得るだけでなく考える機会になり、考えを共有することが、自分の思考を広げる機会になった。
- ・グループワークが多いことを事前に知っていた。（ちょっとそれが不安でもあった）しかし、「試される」というワークではなく「自分を知る」きっかけとなるワークであったので、楽しく参加することができた。
- ・教員目線の意図をどう学生に伝わるものにしていくのか、という工夫の余地があることを再認識できた。（ex. 単に授業中に発言を求めるだけでは発言しないので教員の明確な意図が必要）
- ・学生の素直な意見がたくさんきけました。
- ・次年度の講義で予習の方法など少しずつとりいれていきたい。
- ・学生の話が聴けて良かった。

<学生>

- ・自律とは何か、どうしたら自律できるか、考えるきっかけとなりました。まずは何でも挑戦してみて、努力の方向性についてもその都度考えていきたいと思いました。
- ・教員が「～さん」付けとする、人としての礼儀を守る、見本を見せるというのが新鮮だった。対等な関係を築かなければならない人こそ、その関係を築くのが難しいと思う。年上は人としての見本を見せるべき存在だと改めて感じた。
- ・私には今日自立的に勉強するための具体的な方法を求めて来てしまったけれど、それを教わってやるようでは自立ではないなと気づかされました。自立して勉強するためにまず、意識を持つことが大切だと思うのでまずやってみたいと思いました。
- ・「自律」するためのきっかけを与えていただきました。これから充実した生活を送るために、今回の学びを取り入れていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・普段あまり先生目線で授業をどのように組み立てているのか、学生の自立についてどのように考えているのか聞くことができて良かった。

- ・ 予習をしてみようと思った。沢山の経験をして自律的に学ぶ姿勢を身につけたいと思う。
- ・ 予習をすることをこれからの国試に向けて大切にしていきたいと思ったし、大人の見本となるような行動をしたいと感じた。
- ・ どのように今後、学習していけば自分にとってより良いのか考えることができました。
- ・ 自律は助けられてできるものではないが、何か小さいことでもコツコツ続けていけたらいいなと感じた。
- ・ 話をきいただけで次の日から自律・自立して勉強というのは簡単ではないが、勉強していくきっかけにしていければと思う。
- ・ 他の学生や先生方のお話に関する意見を聞くことができ、興味深かったです。先生方とグループワークをすることはなかなかないのでとても勉強になりました。
- ・ 3部構成によるディスカッションがとても面白かった。
- ・ 先生のお話はもちろん、グループでの話もとても為になった。

5. FD プログラムガイドパンフレットの作成

大分大学では、各学部やセンター等が主催・共催する多くの FD プログラムが実施されている。高等教育開発センターで来年度に開催予定の全学の FD プログラムを取りまとめてパンフレットを作成、公開することを計画し、1月24日の第9回全学教育機構運営会議で承認された。年間を通じた全学の FD プログラムのガイドパンフレットを作成することのメリットとして、以下のよう点が挙げられる。

1. 年間を通じて学内で開催される FD プログラムの概要を広報することができ、参加を希望する教職員に周知できる。
2. FD プログラムの内容や日程が周知されることによって、行事や会議等との日程の重複や、類似する FD プログラムが同時期に開催されることを事前に確認・調整することができ、結果として多くの教職員が参加しやすくなる。
3. 学内で実施されている FD プログラムを俯瞰的に整理し、FD プログラムやカリキュラムの改善につなげることができる。

作成するパンフレットでは、対象が全学の教員（本学の職員や学生、学外者を含んでも可）となっている FD プログラムを掲載することとし、特定の学部や部局等の教員のみを対象にした FD プログラムについては掲載しないこととした。また、本学の FD プログラムを、各教員個人および教授団の①教育、②研究、③マネジメント（管理運営）の3つの能力カテゴリーの開発として捉え、整理した。作成にあたっては、芝浦工業大学教育イノベーション推進センターの理工学教育共同利用拠点のパンフレット、大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部の FD プログラムガイド、四国地区大学教職員能力開発ネットワークの研修プログラムガイドを参考にした。



大分大学教員のための
**ファカルティ
ディベロップメント
プログラムガイド**

2018

大分大学教員を対象としたファカルティ・デベロップメント・プログラム

本ガイドは、2018年度に大分大学の全学の教員を対象に開催・実施予定のFD（ファカルティ・デベロップメント）プログラムをまとめたものです。本ガイドでは、FDを各教員個人および教授団の①教育、②研究、③マネジメント（管理運営）の3つの能力カテゴリーの開発として捉え、整理しています。

教育能力

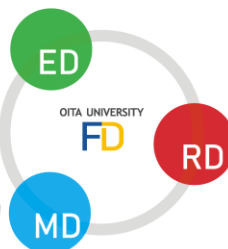
開発プログラム

授業設計やアクティブラーニングの導入、LMSやポートフォリオの活用や多様な学生の理解など、教育改善のための能力開発プログラムです。

マネジメント能力

開発プログラム

心や体の健康やダイバーシティに関する理解、情報セキュリティ、各種コンプライアンスなど、個人や組織運営の管理能力を開発するためのプログラムです。



研究能力

開発プログラム

学術情報の発信方法や研究倫理、研究のための外部資金獲得など、研究に必要な能力開発のためのプログラムです。

大分大学教員の皆様へ

本学は、その使命を、大学憲章（基本理念）において「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する」と位置付けています。その達成のために、本学教員の教育や研究、マネジメントに関する能力を高めるためのFDについて積極的に取り組んでおり、全教員が何らかのFDに毎年度参加することを強く勧めています。本プログラムガイドに掲載されている研修・能力開発プログラムは、本学の全教員を対象として設計されていますので、新任教員はもとより、多くの教員の皆様が必要に応じてご活用いただくことを期待します。



学長
北野 正剛



ED Educational Development

**教育能力
開発プログラム**

1 大分大学の教育

日程	4月
対象	新任の授業担当教員 学内者のみ
主催	高等教育開発センター

新任教員が本学が全学で取り組んでいる教育や教育改善の活動の概要を説明できるようになることをめざします。

※ 新任教員以外の教職員も参加いただけます。

2 アクティブラーニング WS

日程	5月他
募集人数	30名程度
主催	高等教育開発センター

本学で取り組んでいるアクティブラーニングのガイドラインを紹介し、授業で幾つかのアクティブラーニングの手法を用いることができるようになることをめざします。

3 学修ポートフォリオと 教育の質保証

日程	6月他
募集人数	30名程度
主催	高等教育開発センター

フォリオシニングのプロセスや、ディプロマ・ポリシーを踏まえて学生がフォリオシニングすることを支援する仕組みを説明できるようになることをめざします。

4 ティーチング ポートフォリオ作成 WS

日程	6-7月（3日間連続）
募集人数	完全事前予約制 学内者のみ
主催	高等教育開発センター

自己の教育についての省察を文章化し、エビデンスによる裏付けを加えた教育実践の記録を作成できるようになることをめざします。

※ 3日間のすべての日程に参加できる方のみ。

5 Moodle 活用編 —小テスト作成を中心に

日程	7月他
募集人数	15名程度
主催	高等教育開発センター

自動採点や即時フィードバック、繰り返しの学習が可能で、知識の確認や定着に効果的な小テストを Moodle で作成できるようになることをめざします。

6 授業参観・授業検討会

日程	7月・12月【予定】
対象	授業担当教員 学内者のみ
主催	高等教育開発センター

他の教員の授業参観と、授業終了後に授業者と参観者で行う授業検討会を通じて、授業設計や教授法、教材等を改善するための示唆を得ることを目的としています。

9 大分県内大学等合同 FD・SD フォーラム【仮】

日程	11月10日(土) 予定
対象	県内大学等の教職員
主催	「おおいた創生」推進協議会
共催	高等教育開発センター、COC+推進機構ほか

県内の大学等学術機関でFD・SDの取組を連携・協力して教育レベルを向上させ、地域の教育・研究の充実発展を図るとともに、活力ある地域を創生することを目的とします。

12 障がい学生への対応

日程	年1回
募集人数	40名程度 学内者のみ
主催	学生支援部

視覚や聴覚、発達の障がいや肢体不自由などさまざまな障がいを抱える学生に対して、修学機会を確保し、合理的配慮をすることができるようになることをめざします。



3 プレ科研費説明会

日程	7月下旬
募集人数	30名程度
主催	全学研究推進機構
後援	ダイバーシティ推進本部

科研費採択分析を基にした採択のコツ等をURAより説明します。また、科研費採択後の研究の発展方法の紹介を、マニュアル本を用いて説明します。

※ 参加特典：外部資金採択マニュアル

7 一次救命処置(心肺蘇生とAEDの使用法)・熱中症予防と対処法

日程	年2回程度(8・9月)
対象	教職員 学内者のみ
主催	旦野原キャンパス衛生委員会(総務部人事課)・保健管理センター

心肺蘇生とAEDの使用による一次救命措置ができるようになること、熱中症の予防や対処方法を説明できるようになることをめざします。

10 学生参加型 FD・SD きっちよふフォーラム

日程	12月
対象	教職員・学生 学内者のみ
主催	高等教育開発センター

学生と教職員が大学の教育や授業について議論し、多くの学生の声を集めて、教育改善を図る取組につなげることをめざします。

13 学生支援研修会(年数回)

日程	年数回
募集人数	40名程度 学内者のみ
主催	高等教育開発センター
共催	学生支援課

本学の教員ならびに学務・学生支援を担当する職員を対象とし、学生対応に必要な知識を習得することを目的として、複数テーマをオムニバス形式で年数回実施します。

1 AMED 事業説明会【仮】

日程	4月
募集人数	50名程度 学内者のみ
主催	全学研究推進機構

AMED事業について概略を説明します。また、樋口URAがAMED事業採択のコツを講演します。AMED事業を知らない方から採択を狙っている方までの事業採択を支援します。

※ 学内研究者と関係のある学外者の参加可。

4 科研費説明会

日程	9月中旬から随時(5か所)
募集人数	未定 学内者のみ
主催	研究・社会連携課
後援	ダイバーシティ推進本部、全学研究推進機構 URA チーム室

今年度の科研費申請における注意点・女性研究者の活躍状況・URAによる科研費採択のコツを説明します。

※ 各学部で実施します。

8 授業デザイン・シラバス作成 WS

日程	10月他
募集人数	20名程度
主催	高等教育開発センター

授業デザインの基本を踏まえて、自身の担当する授業のシラバスの作成や改訂を行うことができるようになることをめざします。

※ 担当授業のシラバスをご持参いただきます。

11 Moodle 導入編

日程	3月他
募集人数	30名程度
主催	高等教育開発センター

Moodle導入で可能になることを体験し、授業でMoodleや授業支援ボックスの基礎的な活用ができるようになることをめざします。

14 授業コンサルティングサービス

日程	随時
対象	授業担当教員 学内者のみ
主催	高等教育開発センター

授業の優れた点や改善可能な点を明らかにし、学生の学修への動機づけを高める改善方策を選択するための支援をします。

※ 対象授業で学生対象の専用アンケートを実施。

2 科研費の動向と我が国の学術研究の将来

日程	6月1日
募集人数	150名程度
主催	全学研究推進機構
共催	医学部感染予防医学講座

科学研究を取り巻く環境が益々厳しくなる中においても、基礎研究の重要性は変わりません。科研費の動向や大学における研究のあり方、今後予想される大学再編も視野に入れ地方国立大学が目指すべき方向性などをお話しいたします。

5 英語論文の書き方セミナーと校正サービス

日程	年3回程度
募集人数	100名程度
主催	ダイバーシティ推進本部
後援	全学研究推進機構 URA チーム室

脱日本語的発想・英語論文執筆における3つの鉄則・テクニク等の英語論文の書き方と大分大学用校正サービスの説明を行い、論文産出の支援をします。



1 新任教員研修



日程	6月上旬
対象	昨年5月2日～本年5月1日に採用された教員 学内者のみ
主催	総務部人事課

新たに本学に採用された教員が本学の現状及び将来像等を認識し、教員としての役割及び責任についての意識を向上させることを目的として実施します。

2 禁煙について考える



日程	6月3日
対象	教職員・学生
主催	高等教育開発センター
共催	保健管理センター

世界禁煙デー、禁煙週間にあたって実施する、たばこの害や無煙環境推進の取組、禁煙方法等、禁煙について考える公開講座です。

3 メンタルヘルス講演会



日程	6月
対象	教職員・学生 学内者のみ
主催	学生支援部、メンタルヘルス専門委員会、保健管理センター、高等教育開発センター

ストレスやその原因となるストレスラーについて理解を深め、過度なストレスに対処し、こころの健康を保つためのストレスコーピングができるようになることをめざします。

4 ハラスメント防止教育講演会



日程	6月下旬
対象	教職員・学生 学内者のみ
主催	イコール・パートナーシップ委員会(総務部人事課)

学生及び教職員に対して、ハラスメントに対する理解を深め、ハラスメントによる人権侵害を防止することを目的に実施します。

5 ストレスチェックの実施(セルフケア)

日程	8月頃
対象	教職員 学内者のみ
主催	総務部人事課

教職員の心の健康の保持増進及び意欲を持って働くことのできる職場環境づくりをめざしてストレスチェックを実施し、フォローアップ体制について説明します。

6 コンプライアンス教育



日程	7-8月(予定)
対象	研究の代表者、分担者、協力者の方 学内者のみ
主催	研究・社会連携課

事例や最新の報告を交えながら、研究不正・研究倫理・利益相反・データの保存に関する注意点が説明されます。また、最後に出席確認を兼ねたテストを受けていただきます。

7 e-learning による情報セキュリティ研修

日程	年1回
対象	教職員 学内者のみ
主催	学術情報拠点

本学の利用者ID※を保有する全教職員を対象に、情報セキュリティに関する知識の共有、インシデント対応能力の更なる向上を目的としたe-learning研修を実施します。
※ 職名IDを除く。

8 ダイバーシティセミナー

日程	年3回程度
募集人数	50名程度
主催	ダイバーシティ推進本部

ダイバーシティへの理解を深めるため、講師を招き、セミナーを開催します。講師の先生方の経験や企業等での取組みが紹介されます。

9 コンプライアンスセミナー

日程	年1回程度
対象	研究の代表者、分担者、連携者、協力者の方 学内者のみ
主催	ダイバーシティ推進本部

外部講師により、事例や最新の報告を交えながら、研究不正・研究倫理・利益相反・データの保存に関する注意点が説明されます。

※一部のプログラムについては、以下のアイコン情報を付加しています。

- 旦野原キャンパス
- 狭間キャンパス
- ホルトホール
- 遠隔配信あり



高等教育開発センター(学生支援部教育支援課)

〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 教養教育棟
[E-mail] hecenter@oita-u.ac.jp [TEL] 097-554-8509
www.he.oita-u.ac.jp/fdevent/

※FDプログラムの開催時期や場所等は変更になることがあります。

6. 学生による授業評価アンケートの実施

本学の授業改善を目的とした、学生による授業評価の実施母体である教務部門会議の活動を支援するために、全学統一した授業評価アンケートの立案、作成及び調査結果の集計と分析を行い、報告書を発行している。本年度刊行した報告書は「平成 28 年度教員による自己点検レポート集～学生による授業評価への対応～」 「平成 28 年度授業改善のためのアンケート調査結果報告書～学生による授業評価～」である。

また、全学的な授業評価アンケートの見直し作業のために、全学教育機構運営会議を母体に構成された授業評価アンケート見直しワーキングに、専門的な立場として参加した。

平成 29 年前学期及び後学期に実施した「学生による授業評価」アンケート調査の調査対象は以下のとおりである。

前学期

- ・教養教育（全学教育機構）：全学共通科目 主題⑤（自然・科学）
- ・教育学部／教育福祉科学部：C グループ（授業担当者の名前は～わ）
- ・経済学部：各学科 3 番目の講座の科目（ただし、社会イノベーション学科は、全科目）
- ・医学部：医学部からの提出科目
- ・理工学部／工学部：全科目
- ・福祉健康科学部：全科目対象（ただし、学外実習及び基礎研究科目を除く）

後学期

- ・教養教育（全学教育機構）：外国語科目
- ・教育学部／教育福祉科学部：A グループ（授業担当者の名前あ～こ）
- ・経済学部：各学科最初の講座の科目（ただし、社会イノベーション学科は、全科目）、学部共通科目
- ・医学部：医学部提出科目
- ・理工学部／工学部：全科目
- ・福祉健康科学部：全科目対象（ただし、学外実習及び基礎研究科目を除く）

①平成 29 年度前期授業改善のためのアンケート対象科目

【教養科目】

数学と物理Ⅰ	(岩城 貴史)
数学と物理Ⅱ	(谷川 雅人)
化学Ⅱ	(下田 恵)
進化と多様性の生物学	(池田 八果穂)
人間生命医科学Ⅰ	(松浦 恵子)
化学Ⅰ	(久保田 直治)
微分法と数学	(大野 貴雄)
自然災害と防災の科学	(小山 拓志)
数学と文化	(中川 裕之)
情報リテラシーⅠ	(阿部 史乃)
情報リテラシーⅠ	(阿部 史乃)
情報リテラシーⅡ	(平川 純一)
情報リテラシーⅡ	(平川 純一)
生命観の変遷	(牧野 治敏)
電気の世界Ⅰ	(岡 茂八郎)
原子と分子	(大賀 恭)
建築構造工学	(菊池 健児)
情報セキュリティ基礎	(松尾 孝美)

エレクトロニクスの世界Ⅰ	(益子 洋治)
ファジィの数理	(福田 亮治)
環境の化学	(石川 雄一・大賀 恭)
機械技術概論	(福永 圭悟)
エネルギー科学	(濱本 誠)
情報システム概論	(西野 浩明)

【教育学部／教育福祉科学部】

権利擁護と成年後見制度論	(橋本 聖美)
社会福祉学特講Ⅰ（外書講読）	(橋本 美喜男)
総合英語	(橋本 美喜男)
総合英語	(橋本 美喜男)
総合英語	(橋本 美喜男)
総合英語	(橋本 美喜男)
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	(橋本 美枝子)
教育学研究法Ⅰ	(長谷川 祐介)
生徒指導論（進路指導を含む。）	(長谷川 祐介)

特別活動の指導法	(長谷川 祐介)	理科(小)	(三次 徳二)
特別活動の指導法	(長谷川 祐介)	生活環境福祉関連外書講読	(三次 徳二)
国語科指導法(小)	(花坂 歩)	地質学概論	(三次 徳二)
国語科指導法(小)	(花坂 歩)	地質学概論	(三次 徳二)
国語科指導法(小)	(花坂 歩)	言語・外国語(英)Ⅲ (ミッシェル ボール)	
国語(小)(書写を含む。)	(花坂 歩)	食生活論	(望月 聡)
国語(小)(書写を含む。)	(花坂 歩)	日本史概説Ⅰ	(八木 直樹)
国語(小)	(花坂 歩)	異文化接触史Ⅰ	(八木 直樹)
統計学Ⅰ	(原 恭彦)	英語教育演習	(柳井 智彦)
人間とコンピュータ	(平嶋 宗)	オーラル・イングリッシュ	(柳井 智彦)
社会科指導法(小)	(平田 利文)	応用英語E	(柳井 智彦)
社会科指導法(小)	(平田 利文)	小学校英語演習	(柳井 智彦)
公民科指導法(高)	(平田 利文)	道徳の指導法	(山岸 賢一郎)
社会科教育学演習Ⅰ	(平田 利文)	デジタル情報演習	(山下 茂)
社会科教育学演習Ⅲ	(平田 利文)	マルチメディア情報処理	(山下 茂)
基礎ゼミ(小学校教育コース)	(平田 利文)	国語表現法	(山本 裕一)
デザインⅢ(a)	(廣瀬 剛)	福祉行財政・福祉計画論	(四ツ谷 年晴)
造形表現Ⅰ	(廣瀬 剛)	言語・外国語(中)Ⅰ	(李 末)
精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	(廣野 俊輔)	教育支援実践研究Ⅰ	(渡邊 和志)
ソーシャルワーク演習Ⅰ	(廣野 俊輔)		
ソーシャルワーク演習Ⅰ	(廣野 俊輔)	【経済学部】	
環境物理学	(藤井 弘也)	社会保障論	(阿部 誠)
計算物理学入門	(藤井 弘也)	ヨーロッパ文化論	(安田 俊介)
基礎物質科学Ⅰ	(藤井 弘也)	会計学入門	(越智 学)
理科実験Ⅰ	(藤井 弘也)	原価計算論Ⅰ	(加藤 典生)
図画工作科指導法(小)	(藤井 康子)	アントレプレナーシップ入門	(河野 憲嗣)
図画工作科指導法(小)	(藤井 康子)	初級政治経済学	(丸山 武志)
認知心理学	(藤田 敦)	異文化間コミュニケーション論	(久保田 亮)
認知心理学	(藤田 敦)	証券論	(金 珍奎)
教育心理学	(藤田 敦)	金融論Ⅰ	(小笠原 悟)
発達と教育の心理学Ⅱ	(藤田 敦)	経済学入門	(小笠原 悟)
病弱児の心理・生理・病理	(藤野 陽生)	初級ミクロ経済学	(小野 宏)
障害児教育史	(藤野 陽生)	会計学入門	(小野 慎一郎)
病弱児の指導法	(藤野 陽生)	会計学Ⅰ	(小野 慎一郎)
近代文学特講	(藤原 耕作)	社会政策	(石井 まこと)
国語科教育研究法	(堀 泰樹)	管理会計論Ⅰ	(大崎 美泉)
運動力学	(前田 寛)	会社会計論Ⅰ	(中村 美保)
理科授業研究	(牧野 治敏)	イノベーション・マネジメント入門	(仲本 大輔)
小学校英語演習 (マッケイ グレグ)		経営学入門	(藤原 直樹)
音楽史Ⅱ	(松田 聡)	現代英語論	(矢野 英子)
音楽鑑賞法Ⅰ	(松本 正)	財政学Ⅰ	(林 勇貴)
芸術と鑑賞Ⅰ	(松本 正)		
地域芸術文化研究	(松本 正)	【医学部】	
芸術療法概論	(溝上 義則)	精神・神経疾病論	(井上 亮)
心理検査の理論と実際	(溝口 剛)	保健政策論	(杉田 聡)
人格心理学	(溝口 剛)	解剖学	(清村 紀子)
人格心理学	(溝口 剛)	医療倫理	(杉田 聡)
小学校外国語活動指導法	(御手洗 靖)	成人周手術期看護方法論	(末弘 理恵)
応用英語E	(御手洗 靖)	基礎看護技術Ⅱ	(吉良 いずみ)
小学校英語演習	(御手洗 靖)		
理科(小)	(三次 徳二)	【理工学部／工学部】	
理科(小)	(三次 徳二)	伝熱学Ⅰ	(橋本 淳)
理科(小)	(三次 徳二)	機械設計学基礎	(橋本 淳)
		流体工学Ⅰ	(栗原 央流)

機械数学Ⅰ	(栗原 央流)	電気回路Ⅱ	(小川 幸吉)
機械数学	(栗原 央流)	電磁気学Ⅰ	(小川 幸吉)
材料力学基礎・演習	(後藤 真宏)	人間システム信号処理	(上見 憲弘)
材料と弾性の力学	(後藤 真宏)	電子回路Ⅱ	(上見 憲弘)
機械製図	(後藤 真宏)	計測工学	(上見 憲弘)
機械工学実習	(後藤 真宏)	図学	(今永 和浩)
機械物理	(山本 隆栄)	技術者倫理	(佐藤 光雄)
機械工作法	(松岡 寛憲)	測量学実習	(児玉 伸彦)
機械工作法	(松岡 寛憲)	建築施工学	(上田 賢司)
機械数学Ⅱ	(石松 克也)	建築法規	(中園 幸治)
システム制御基礎	(中江 貴志)	基礎構造	(佐藤 嘉昭)
機械工学実験Ⅰ	(田上 公俊)	建築英語	(真鍋 正規)
熱力学基礎・演習	(田上 公俊)	建築英語	(真鍋 正規)
熱工学Ⅱ	(田上 公俊)	建築英語	(大谷 俊浩)
メカトロニクス	(田上 公俊)	構造力学Ⅱ	(田中 圭)
機械力学基礎・演習	(劉 孝宏)	建築CAD製図Ⅱ	(姫野 由香)
流体力学基礎・演習	(濱川 洋充)	コンピュータプログラミング	(富来 礼次)
機械製図	(岩本 光生)	福祉環境計画	(鈴木 義弘)
機械製図	(岩本 光生)	建築計画Ⅰ	(鈴木 義弘)
伝熱学Ⅰ	(岩本 光生)	代数学Ⅰ	(馬場 清)
機械設計製図Ⅱ	(岩本 光生)	情報数学	(越智 義道)
流体工学Ⅰ	(山田 英巳)	データサイエンス基礎Ⅱ	(原 恭彦)
流れ学Ⅰ	(山田 英巳)	データサイエンス演習	(小畑 経史)
材料力学Ⅰ	(小田 和広)	解析学Ⅰ	(福田 亮治)
弾性力学	(小田 和広)	数理科学概論	(家本 宣幸)
プログラミング	(小田 和広)	情報科学A	(大隈 ひとみ)
プログラミング	(小田 和広)	情報職業指導	(古家 賢一)
機械要素設計学	(福永 道彦)	情報論理学	(古家 賢一)
電気電子工学入門	(金澤 誠司)	音メディア処理	(古家 賢一)
電気回路Ⅰ	(金澤 誠司)	知識処理論	(高見 利也)
電磁気学Ⅰ	(金澤 誠司)	計算機アーキテクチャⅠ	(高見 利也)
電磁気学Ⅳ	(戸高 孝)	コンピュータグラフィックス	(西野 浩明)
電気回路Ⅲ	(戸高 孝)	情報ネットワーク	(西野 浩明)
電気機器設計・製図	(佐藤 尊)	英語コミュニケーション	(大城 英裕)
電力エネルギー工学	(市来 龍大)	ソフトウェア工学Ⅱ	(大竹 哲史)
電気電子数学Ⅱ・電気電子数学	(柴田 克成)	基礎プログラミング	(中島 誠)
電気電子制御工学Ⅰ	(柴田 克成)	基礎プログラミング	(中島 誠)
電気工学概論Ⅰ	(柴田 克成)	情報構造論	(中島 誠)
通信工学	(秋田 昌憲)	計算機科学概論	(中島 誠)
音響工学	(秋田 昌憲)	データベースシステム	(二村 祥一)
電気電子計測工学	(槌田 雄二)	言語処理	(吉田 和幸)
電気機器工学Ⅱ	(槌田 雄二)	力学	(岩下 拓哉)
電子回路Ⅱ	(緑川 洋一)	力学	(近藤 隆司)
計算機工学Ⅰ	(緑川 洋一)	力学	(末谷 大道)
エネルギー変換機器	(後藤 雄治)	力学	(長屋 智之)
エネルギーシステムデザイン	(後藤 雄治)	自然科学概論	(長屋 智之)
電気回路Ⅱ	(高坂 拓司)	基礎化学	(芝原 雅彦)
電磁気学Ⅰ	(濱本 誠)	錯体化学	(甲斐 徳久)
物理数学Ⅰ	(菊池 武士)	高分子化学Ⅱ	(氏家 誠司)
現代制御工学	(菊池 武士)	化学Ⅱ	(守山 雅也)
機構力学	(今戸 啓二)	高分子化学Ⅰ	(守山 雅也)
材料力学Ⅰ	(今戸 啓二)	基礎理論化学Ⅰ	(大賀 恭)
福祉機器工学Ⅰ	(今戸 啓二)	原子と分子	(大賀 恭)
電磁アクチュエータ	(小川 幸吉)	原子と分子	(大賀 恭)

無機化学Ⅰ	(大賀 恭)
化学Ⅰ	(大賀 恭)
化学工学	(平田 誠)
セラミックス化学	(豊田 昌宏)
基礎解析学Ⅰ	(渡邊 紘)
基礎解析学Ⅲ	(渡邊 紘)
基礎代数学Ⅰ	(寺井 伸浩)
基礎解析学Ⅲ	(寺井 伸浩)

【福祉健康科学部】

英語Ⅰ	(Langley, Raymond Garold)
英語Ⅰ	(Langley, Raymond Garold)
英語Ⅰ	(Langley, Raymond Garold)
英語Ⅱ	(Langley, Raymond Garold)
英語Ⅱ	(Langley, Raymond Garold)
英語Ⅱ	(Langley, Raymond Garold)
基礎ゼミ(理学療法コース)	(河上 敬介)
運動学	(阿南 雅也)
福祉健康科学概論	(衣笠 一茂)
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	(衣笠 一茂)
犯罪と法	(遠矢 洋平)
心理学概論	(河野 伸子)
現代社会と福祉Ⅰ	(垣田 裕介)
公的扶助論	(垣田 裕介)
老年心理学	(岩野 卓)
解剖学Ⅰ	(紀 瑞成)
解剖学実習Ⅰ	(紀 瑞成)
看護学概説	(宮崎 伊久子)

権利擁護と成年後見制度論	(橋本 聖美)
保健医療サービス論	(隅田 好美)
地域包括ケア概論	(隅田 好美)
心理学研究法	(古城 和敬)
相談援助実習指導Ⅰ	(工藤 修一)
高齢者福祉論Ⅱ	(工藤 修一)
人格心理学	(溝口 剛)
福祉行財政と福祉計画	(四ツ谷 年晴)
社会保障論Ⅰ	(松本 由美)
神経疾患とリハビリテーション	(上田 徹)
地域福祉論Ⅰ	(川村 岳人)
理学療法概論	(浅海 靖恵)
生理心理学	(村上 裕樹)
社会理論と社会システム	(大杉 至)
基礎ゼミ(心理学コース)	(池永 恵美)
障害児者心理学	(池永 恵美)
発達と学習の心理学Ⅱ	(藤田 敦)
基礎ゼミ(社会福祉実践コース)	(八木 直樹)
臨床心理学概論	(武内 珠美)
運動器疾患とリハビリテーション	(片岡 晶志)
がんとリハビリテーション	(片岡 晶志)
人体の構造と機能及び疾病	(兒玉 雅明)
内部障害とリハビリテーション	(兒玉 雅明)
生理学Ⅰ	(徳丸 治)
環境心理学	(園田 美保)
言語聴覚療法学	(牛島 盛行)
医療倫理	(平野 互)

②平成29年度後期授業改善のためのアンケート対象科目

【教養科目】

基礎ドイツ語Ⅱ	(池内 宣夫)
総合英語	(稲用 茂夫)
総合英語	(金子 光茂)
総合英語	(金子 光茂)
総合英語	(金子 光茂)
オーラルイングリッシュ	(金子 光茂)
小学校英語演習(ケラーマン エドワード)	
基礎ドイツ語Ⅱ	(佐々木 博康)
オーラルイングリッシュ	(シンプソン リチャード)
オーラルイングリッシュ	(永野 彰史)
総合英語	(橋本 美喜男)
総合英語	(橋本 美喜男)
小学校英語演習	(マッケイ グレグ)
小学校英語演習	(御手洗 靖)
オーラルイングリッシュ	(柳井 智彦)
小学校英語演習	(柳井 智彦)
英会話	(エバンズ・グリニス)
基礎英語Ⅱ	(久保田 亮)
英語Ⅰ	(雲 和子)
基礎フランス語Ⅱ	(コモン ティエリ)
英会話	(シンプソン・リチャード ヒュー)
オーラル・イングリッシュ	(シンプソン・リチャード ヒュー)

総合英語Ⅱ	(田村 淑子)
基礎中国語Ⅱ	(鄧 礼容)
基礎英語Ⅱ	(衛藤 美利)
基礎英語Ⅱ	(利光 英世)
総合英語Ⅱ	(利光 英世)
英会話	(ヌートバー ジュリー)
基礎中国語Ⅱ	(包 聯群)
総合英語Ⅱ(ホワイト クリストファー ミル)	
基礎フランス語Ⅱ	(安田 俊介)
総合英語Ⅱ	(矢野 英子)
基礎中国語Ⅱ	(李 未)
総合英語Ⅱ	(李 未)
医学英語Ⅲ	(大下 晴美)
医学英語Ⅳ	(森 茂)
基礎ハングルⅡ	(劉 美貞)
英語Ⅰ	(稲用 茂夫)
英会話(ウィリアム アルバート マクベーン)	
基礎ハングルⅡ	(黄 昞峻)
英語Ⅱ	(後藤 一美)
英語Ⅰ	(佐々木 朱美)
英語Ⅱ	(佐々木 朱美)
英語Ⅰ	(園井 千音)
英語Ⅱ	(園井 千音)
総合英語Ⅱ	(染矢 正一)

英語Ⅰ (田村 淑子)
 基礎中国語Ⅱ (鄧 紅)
 英語Ⅰ (利光 英世)
 英語Ⅱ (利光 英世)
 英語Ⅰ (HARRAN THOMAS JAMES)
 英語Ⅱ (HARRAN THOMAS JAMES)
 英語Ⅰ (藤森 千博)
 英語Ⅰ (三重野 佳子)
 英語Ⅰ (山野 敬士)
 英語Ⅱ (山野 敬士)
 英語Ⅱ (李 末)
 英語Ⅱ (李 末)
 英語Ⅲ (Langley, Raymond Garold)
 英語Ⅳ (Langley, Raymond Garold)

【教育学部／教育福祉科学部】

児童・家庭福祉論 (相澤 仁)
 文献研究Ⅰ (青柳 かおり)
 英書講読Ⅱ (青柳 かおり)
 西洋文明論Ⅱ (青柳 かおり)
 アートセラピー演習/表現指導演習 (麻生 和江)
 総合アートマネージメント演習 (麻生 和江)
 ダンスⅡ・Ⅲ (麻生 和江)
 舞踊表現研究Ⅲ (麻生 和江)
 発達と教育の心理学Ⅰ (麻生 良太)
 生活(小) (麻生 良太)
 現代国際事情Ⅰ (甘利 弘樹)
 文献研究Ⅰ (甘利 弘樹)
 世界史演習Ⅱ (甘利 弘樹)
 A・A地域論Ⅰ (甘利 弘樹)
 文献研究Ⅰ (池内 宣夫)
 技術科指導法(中) (市原 靖士)
 工業科授業論 (市原 靖士)
 職業指導 (市原 靖士)
 教育学研究法Ⅱ (伊藤 安浩)
 学級指導演習 (伊藤 安浩)
 教育課程・方法論 (伊藤 安浩)
 保健医療サービス論 (井上 祥明)
 健康心理学 (岩野 卓)
 知的障害児の教育と指導法 (衛藤 裕司)
 自閉症児の心理と指導法 (衛藤 裕司)
 基礎環境化学実験Ⅱ (大上 和敏)
 現代社会論Ⅱ (大杉 至)
 社会学概論Ⅱ (大杉 至)
 社会学概論Ⅱ (大杉 至)
 文献研究Ⅰ (大杉 至)
 聴覚障害児教育論 (太田 富雄)
 生活総合演習 (大野 歩)
 保育学演習 (大野 歩)
 基礎解析 (大野 貴雄)
 数学特講Ⅱ (大野 貴雄)
 国語学概論 (荻野 千砂子)
 スクールソーシャルワーク (小桐 修)
 法律学概論Ⅱ(含国際法)/法学概論Ⅱ(国際法を論じ) (織原 保尚)
 司法福祉論 (甲斐 祐治)
 加齢と障害に関する理解 (鹿嶋 隆志)
 アメリカ文学演習(翻訳) (金子 光茂)
 柔道 (川内谷 一志)

数学特講Ⅱ (川寄 道広)
 教育数学Ⅱ (川寄 道広)
 居住福祉論 (川田 菜穂子)
 生活総合演習 (川田 菜穂子)
 住居学演習 (川田 菜穂子)
 住環境論 (川田 菜穂子)
 心理学特別研究 (河野 伸子)
 生涯発達心理学 (河野 伸子)
 地域福祉論Ⅱ (川村 岳人)
 版画 (久間 清喜)
 絵画ⅢB(b)/造形表現Ⅱ (久間 清喜)
 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ (倉知 延章)
 精神障害者の生活支援システム (倉知 延章)
 合唱Ⅵ・Ⅷ/グループ表現Ⅰb/表現構成演習Ⅱb (栗栖 由美子)
 教職展開ゼミ (栗栖 由美子)
 声楽Ⅴ・再現芸術 (栗栖 由美子)
 公民科授業論 (黒川 勲)
 数学特講Ⅱ (家本 宣幸)
 肢体不自由児の心理・生理・病理 (古賀 精治)
 知的障害者教育総論・特殊教育論 (古賀 精治)
 障害児研究 (古賀 精治)
 教育社会心理学 (古城 和敬)
 教育心理学研究法Ⅱ・心理学特別研究 (古城 和敬)
 地理学実習Ⅱ (小山 拓志)
 自然地理学概論 (小山 拓志)

【経済学部】

農村発展論Ⅱ (山浦 陽一)
 ミクロ経済学Ⅱ (村山 悠)
 ビジネス英語A (ホワイト クリストファー ミル)
 地域経営論Ⅱ (久木元 美琴)
 企業組織法Ⅱ (牧 真理子)
 経営情報論Ⅱ (松岡 輝美)
 地域発展論Ⅱ (宮町 良広)
 マクロ経済学Ⅱ (宇野 真人)
 応用ミクロ・マクロ経済学セミナー (宇野 真人)
 地域福祉論 (垣田 裕介)
 大分のものづくりと地域づくり (河野 憲嗣)
 法学入門 (青野 篤)
 法学入門 (秋山 智恵子)
 経営学Ⅱ (宮下 清)
 市場開発論 (松隈 久昭)
 地域分析論Ⅱ (城戸 照子)
 金融イノベーション論 (鵜崎 清貴)
 初級ミクロ経済学 (小野 宏)
 初級マクロ経済学 (高見 博之)
 基礎経営論Ⅱ (藤原 直樹)
 組織革新論 (本谷 るり)
 都市経営論Ⅱ (高島 拓哉)
 製品開発論 (仲本 大輔)

【医学部】

内科系疾病論Ⅱ (濱口 和之)
 国際医療・看護論 (濱口 和之)

看護実践基盤技術Ⅰ (原田 千鶴)
 老年看護方法論Ⅰ (三重野 英子)
 高齢者支援システム論 (三重野 英子)
 リハビリテーション看護 (三重野 英子)
 家族看護学 (水谷 幸子)
 母性看護方法論Ⅰ (水谷 幸子)
 成人慢性期看護方法論Ⅰ (脇 幸子)
 看護教育学 (脇 幸子)

【理工学部／工学部】

システム制御 (中江 貴志)
 デザイン実習 (中江 貴志)
 機械加工学 (松岡 寛憲)
 機械計測工学 (栗原 央流)
 機械材料/機械材料学 (堤 紀子)
 機械数学Ⅰ (加藤 義隆)
 機械設計製図 (福永 道彦)
 機械設計製図Ⅲ (齋藤 晋一)
 機械力学 (劉 孝宏)
 工業力学 (後藤 真宏)
 材料力学 (後藤 真宏)
 材料力学Ⅱ (小田 和広)
 伝熱学Ⅱ (岩本 光生)
 伝熱学Ⅱ (橋本 淳)
 熱工学Ⅰ (田上 公俊)
 流れ学Ⅱ (山田 英巳)
 流体工学Ⅱ (山田 英巳)
 流体工学Ⅱ (濱川 洋充)
 流体力学 (濱川 洋充)
 プラズマ工学 (市来 龍大)
 プログラミング (原 正佳)
 通信方式 (秋田 昌憲)
 電気回路2/電気回路Ⅱ (金澤 誠司)
 電気磁気学Ⅰ/電磁気学Ⅰ (金澤 誠司)
 電磁気学Ⅱ (金澤 誠司)
 電気機器工学Ⅰ (槌田 雄二)
 電磁気学Ⅲ (戸高 孝)
 電気電子材料 (戸高 孝)
 電気電子数学Ⅰ (柴田 克成)
 電気電子制御工学Ⅱ (柴田 克成)
 電子回路Ⅰ (緑川 洋一)
 制御工学Ⅱ (池内 秀隆)
 プログラミング (池内 秀隆)
 CAD 演習 (池内 秀隆)
 リハビリテーション工学 (池内 秀隆)
 電力システム工学 (後藤 雄治)
 エネルギー変換工学 (後藤 雄治)
 制御工学Ⅱ (後藤 雄治)
 メカトロニクス (松尾 孝美)
 制御工学Ⅰ (松尾 孝美)
 流体工学 (菊池 武士)
 ロボット工学 (菊池 武士)
 材料力学Ⅱ (今戸 啓二)
 電子回路Ⅰ (上見 憲弘)
 人間システム工学/生体情報工学 (上見 憲弘)
 生体運動制御論 (前田 寛)
 電気回路Ⅰ/電気回路Ⅰ (小川 幸吉)
 電磁気学Ⅱ (小川 幸吉)
 電磁気学Ⅱ (濱本 誠)

福祉機器工学Ⅱ (今戸 啓二)
 建築材料実験 (大谷 俊浩)
 建築設計演習 (鈴木 義弘)
 建築ワークショップ (鈴木 義弘)
 住居論 (鈴木 義弘)
 代数学2 (寺井 伸浩)
 情報科学B (大隈 ひとみ)
 解析学2 (渡邊 紘)
 データサイエンス基礎Ⅰ (越智 義道)
 数値解析Ⅰ (吉川 周二)
 数値解析演習 (吉川 周二)
 多変量解析 (原 恭彦)
 オペレーションズ・リサーチ基礎 (小畑 経史)
 反応速度論 (永岡 勝俊)
 化学結合論 (氏家 誠司)
 触媒化学 (西口 宏泰)
 物質の状態と変化 (大賀 恭)
 物理化学Ⅱ (大賀 恭)
 熱物理学/熱力学 (岩下 拓哉)
 波動と光 (岩下 拓哉)
 物理学実験 (近藤 隆司)
 基礎生物学 (泉 好弘)
 生物学 (鈴木 絢子)
 ウェブサイエンス (古家 賢一)
 ヒューマン・インタフェース (古家 賢一)
 マルチメディア処理 (行天 啓二)
 人工知能基礎 (高見 利也)
 計算機アーキテクチャⅡ (高見 利也)
 計算機アーキテクチャⅠ/計算機アーキテクチャⅠ (高見 利也)
 オペレーティング・システム (西野 浩明)
 情報英語 (西野 浩明)
 デジタル回路 (大竹 哲史)
 アルゴリズム論 (中島 誠)
 ソフトウェア工学Ⅰ (吉田 和幸)
 リハビリテーション工学 (永野 敬喜)
 工作機械・生産工学 (木下 和久)
 確率統計 (馬場 清)
 工業力学基礎・演習 (劉 孝宏)

【福祉健康科学部】

生理学実習 (徳丸 治)
 理学療法評価学Ⅰ (朝井 政治)
 発達と学習の心理学Ⅰ (藤田 敦)
 臨床心理学実践論 (武内 珠美)
 理学療法評価学実習 (朝井 政治)
 相談援助の基盤と専門職Ⅰ (衣笠 一茂)
 障害児者福祉論 (廣野 俊輔)
 高齢者臨床心理学 (岩野 卓)
 チュートリアルⅠ (栄留 里美)
 理学療法評価学Ⅱ (浅海 靖恵)
 心理学基礎実験実習 (村上 裕樹)
 行動分析学 (佐藤 晋治)
 生理学Ⅱ (徳丸 治)
 相談援助の理論と方法Ⅰ (衣笠 一茂)
 リハビリテーション医学・概論 (片岡 晶志)
 人間発達学 (紀 瑞成)
 児童・家庭福祉論 (相澤 仁)
 社会保障論Ⅱ (松本 由美)

高齢者福祉論Ⅰ	(工藤 修一)	チュートリアルⅠ	(河野 伸子)
生化学	(岩崎 香子)	現代社会と福祉Ⅱ	(垣田 裕介)
義肢装具学	(阿南 雅也)	地域福祉論Ⅱ	(川村 岳人)
心理統計法	(古城 和敬)	解剖学実習Ⅱ	(紀 瑞成)
病理学	(守山 正胤)	リハビリテーション心理学	(池永 恵美)
運動療法学	(阿南 雅也)	ライフサイクルの心理学	(河野 伸子)
解剖学Ⅱ	(紀 瑞成)	健康心理学	(岩野 卓)
司法・矯正心理学	(高橋 泰夫)	チュートリアルⅠ	(浅海 靖恵)

7. 高等教育に関する調査研究

本年度の高等教育に関する調査研究として、他大学での研修会、講演会等に参加した。

6月10日・11日	第39回 大学教育学会 (広島大学)
11月9日	名城大学 FD フォーラム 『大学教養』で何を学ぶか (名城大学天白キャンパス)
12月2日・3日	大学教育学会 2017 年度課題研究集会 「大学教育は“役に立つ”のか」 (関西国際大学)
3月20日・21日	第24回大学教育研究フォーラム (京都大学)

大学教育学会第39回大会参加報告

高等教育開発センター 牧野治敏

大学教育学会第39回大会が平成29年6月10・11日の日程で広島大学総合科学部において開催された。統一テーマは「教養教育の再考」である。牧野は第2日(6月11日)自由研究発表Ⅰ、自由研究発表Ⅱに参加した。

自由研究発表Ⅰ

部会5「教学 IR・学習成果測定(Ⅰ)」へ参加した。

1. ラーニング・ポートフォリオによる佐賀大学学士力達成度の可視化とその教育改善への活用

山内一祥、皆本晃弥 (佐賀大学)

佐賀大学に平成23年に導入された「ポートフォリオ学習支援統合システム」上に収集されたデータを可視化するとともに、リアセック社による PROG の結果とも対応づけて、学部内の学科間での学士力のレベルを比較したものである。GPA では学科間の差が認められたが PROG では、そうではなかったとの報告であった。

2. 情報教育における学習管理システムの利用がもたらす学習効果

佐藤尊範 (東海学院大学)

情報教育科目において、LMS として Moodle をカスタマイズした授業実践の報告であった。大学としての LMS を備えていないこと、情報システムの運用の等の問題についての苦勞の数々とともに、LMS を活用することの有用性が紹介された。

3. 各種のデータを繋ぐことから明らかになる授業改善の視点

川越明日香 (熊本大学)、橋本健夫 (長崎国際大学)

授業改善のための方策として、発表者が担当する授業において学生から収集する各種のデータを分析、活用した報告である。EC カード (Evaluation and Communication Card) と名付けられた評価

用紙を毎時間記入させ回収したところ、自由記述の文字数と成績に強い相関が見られたとの報告であった。

4. 授業アンケートと成績データを活用したFD活動の試み

棕平淳、馬場望、村岡雅弘、皆川健多郎、小林裕之（大阪工業大学）

授業評価アンケートの回答パターンから授業を6パターンに分類し、それを話題とすることで学科内の教員間で意見交換ができるようになったこと、学部内で議論を共有でき教育改善への取り組みの端緒につくことができたことの報告であった。

5. 京都外国語大学に対する社会的要請とこれまでの教育成果：卒業生調査の分析から

西出崇、西村政洋、村上正行、山崎その（京都外国語大学）

卒業生に対して実施したアンケートの結果とその分析である。アンケート内容は職業上のこと、自校とその教育への愛着、外国語の活用、大学教育で身についたこと、学生時代に取り組んだこと等を、郵送とインターネットの両方で解答を収集したところ、自校への満足度が高いとの結果が得られたとの報告であった。

以上の報告の後、会場全体での総合討論が行われた。アンケート結果について、学生生活をポジティブに捉えており、良い回答をする学生や卒業生の回答が多いのではないかとの意見があった。複数の報告者から、いずれの場合でもこのようなあけーとはその傾向は避けられないとの議論があった。

自由研究発表Ⅱ

部会14「教育方法・授業改善(5)」へ参加した。

1. リーダーシップ開発ワークショップの実践と評価

舘野泰一（立教大学）

卒業生が職場のリーダーとして活躍するための能力を育成するプログラムの実践報告であった。リーダーについての理解とその役割、自分なりのリーダーシップの発揮の仕方など、チームワークを遂行する能力の育成とその評価の報告であった。

2. 産学連携教育の教育的意義 —慶應義塾大学の情報教育の取組を手掛かりに—

李麗花（広島大学）

慶應義塾大学での講義の実践を分析した研究である。産学連携による授業展開が、学生の資質能力を開発するうえで効果的であるばかりではなく、企業にとっても大学の現状を知る機会であるとともに、学生の教育を介して企業も成長のチャンスとなること、連携を継続するために課題についての報告であった。

3. 持続的な地域活動プログラムの再構築に向けて —学生の学びと地域状況からの考察—

櫻井典子、松井克浩、箕口秀夫、松井賢二、高橋秀樹（新潟大学）

「大学教育再生加速プログラム（AP）」と「地（知）の拠点整備事業（COC、COC+）」による新潟大学ダブルホーム制の取り組みの紹介である。学生は所属する学部以外に正課外の地域活動プログラムを選択し、卒業まで軽属するとともに下級生へと事業を引き継ぐものである。「社会人基礎力」「汎用的能力」が養成されたが地域の経済発展には至っていないとの報告であった。

4. 京都工芸繊維大学・リーダーシップ・イノベーター育成教育

（京都工芸繊維大学 Tec Leader Project）

津吹達也（京都工芸繊維大学）、筒井洋一（元京都精華大学）

発表者が立教大学で実践したリーダーシッププログラムを京都工芸繊維大学で実践した事例であり、賛同する教員には快く実践が行われたとの報告であった。

5. 高大社の協働講座による地域人材育成の可能性

吉村充功、島岡成治、近藤正一、橋本堅次郎、池畑義人、市田秀樹、鈴木照夫（日本文理大学）

「地（知）の拠点整備事業」によるノウハウをもとに、大分県内4地域で大学生・高校生と若手社会人との混成グループによる講座を立ち上げ、講義＋町歩き＋ワークショップで実践し、それぞれの活動をループリックで自己評価したところ、事前と事後で優位な差が認められたとの報告であった。

以上の発表の後、総合討論が行われた。地域と大学との連携、カリキュラムとしての位置づけ等について議論があった。

以上。

大学教育学会 2017 年度課題研究集会（関西国際大学）参加報告

高等教育開発センター 牧野治敏

今年度の大学教育学会課題研究集会は、「大学教育は“役に立つ”のか」を統一テーマとして、平成29年12月2日（土）・3日（日）の両日にわたって、関西国際大学（兵庫県尼崎市潮江1丁目3-3）で開催された。

<第1日>

【基調講演】

「職業キャリアの変化と大学の役割」講師 小杉礼子（労働政策研究・研修機構）

社会学的アプローチによる、高卒者、大学・大学院卒者の動向（以下キーワードの抽出）

- 1) 統計では新卒就職はこの10数年では好転している。高卒者のブルーカラーと女性の非正規雇用の拡大。大卒者は多様な就職先に。高卒との賃金格差が増大し、大卒者の中でも格差が増大している。景気の改善により早期離職率は減少。再就職では非正規雇用、長時間労働の問題がある。
- 2) 景気技術革新が労働へのインパクトとなる。「第4次産業革命」AI、ロボット、IoT、ビッグデータ等のデジタル技術にもとづく技術革新。ドイツでは「労働4.0」。旧来の日本型雇用システムの見直しによる、「新産業構造ビジョン（経済産業省2017.5）」「未来投資戦略2017（未来投資会議・首相官邸2017.6）働き方改革実行計画（働き方改革実現会議・首相官邸2017.3）を参照のこと。
- 3) 大学教育による対応を考える大卒者の就職の現実として、ブルーカラー就業が2割弱を占める。大卒者内での賃金格差の拡大。不本意な非正規雇用も少なくない。
第4次産業革命への対応として、STEM、ITリテラシー、コミュニケーション能力の重要性が指摘される。ここの大学が雇用市場との対話が必要である。「社会人の学び直し」のための「職業実践力育成プログラム」の開発に期待。大卒女性のキャリア開発。エリート女性ではない、多様なキャリアモデルの提示が必要である。

【開催校規格シンポジウム】

テーマ「大学教育は役に立つのか」

パネリスト3人による報告と、コメンテーターSuzan Albertine（全米大学・カレッジ協会、大阪大学）、基調講演講師小杉礼子氏によるシンポジウム。司会は深澤晶久氏（実践女子大学教授）であった。概要は以下のとおり。

- 1) 「企業・社会が求める人材像-大学教育に期待すること-」遠藤勝裕氏（独立行政法人日本学生支援機構理事長）
経済同友会で言われている「4つの化」①国際化、②ICT化、③少子高齢化、④温暖化。そしてこれらへの対応として、「共生」をキーワードに提案。卒業して社会で働けるように。大学への期待：大学ビジョンの明確化、国際化対応委、共勝因の資質能力の向上、卒業生の資質能力の保証。学生への期待：事故のための大学での真剣な学び、専門知識とそれを支える基礎力、海外留学、職業観を醸成するためのインターンシップ等の社会経験
- 2) 「大学教育と産業界の連携構築に向けて」上村和美（関西国際大学教授）
初年次教育の充実。就職を見据えたインターンシップ。APプログラムの採択、インターンシップのループリック作成とその利用によるチューニング。キャリアチューター養成等について、同大学での実践報告であった。

- 3) 「大学は何をもって社会と橋渡しするか？」松村直樹（リアセック）PROG の受験者訳 54 万人、実施校数 570 校。社会との橋渡しとして「人生を自律的に生き抜く力（キャリア自立の力）」を養成する。2000 年以降の実績からキーワードを抽出している。次に、人生 107 才時代を迎えて、ライフステージごとに固有の問題（ダニエル・レビンソン）、現在のキャリア像（ダグラス・ホール：2004）からワーク・シフト（リンダ・グラットン：2012）への生涯学習社会へと発想を転換する必要性の指摘。大学の役割は教育以外にもあること等の提案があった。
- 4) スーザン・アルバーティン氏のコメント。
3 つのキーワード。high impact practice、liberal education、equality。産業構造の変化、働き方の変化への対応として、キャリア適応力が求められる。アメリカでは、STEM 教育を重視してきたが、専門職業教育重視の弊害も現れている。サイエンスを選択する学生が減った。それで、人文学、社会学、美術教育との共同が始まった。ルーティーンの労働は AI やロボットが担うので、判断力、創造性、クリティカルさが求められる場面で就業できるよう教育する必要がある。生涯学習も重要視している。AAC&U では生涯学習での学位プログラムを検討中。
- 5) ディスカッション
インターンシップに関する話題が多かった。企業側が受け入れるメリットは何か、インターンシップが担うべき役割は何か、インターンシップと専門教育との接点は何か、など。大学の成績を企業の担当者が知っているのか、との議論もあったが、なにやら要を得ない回答であった。アメリカでは大学の成績はあまり重視していない。ポートフォリオ（e ポートフォリオ）、レジメで判断している。市民性を重視している。
日本では市民性は当たり前の話で、高校生までに社会人の基礎を教育している。経済同友会では 6 つの能力を重視している①基礎学力、②異文化理解、③日本理解、④疑問解決能力、⑤試行表現能力、⑥善悪の判断能力
結論的には、経済同友会と大学教育をもっと繋ぐ必要がある、との合意で終了した。

<第 2 日>

【課題研究シンポジウムⅠ】

テーマ「アクティブラーニングの効果検証-プロジェクト最終年を迎えて-

本学会が課題研究として 3 年間の調査結果をまとめた報告である。本研究の企画者である溝上慎一氏（京都大学）が司会と概要の説明を行った。その内容は <http://smizok.net/education/> に掲載される。

4 人のシンポジストから報告があった。

- 1) 「プレ・ポスト調査から見たアクティブラーニング-3 年間の調査結果のまとめ-」 三保紀裕（京都学園大学）アクティブラーニング（以下、AL）授業に対するプレ・ポストテスト 215 クラスの調査結果である。AL 授業の効果を高めるためには、「予習の仕方」と「AL 外化」が重要との結論であった。
- 2) 「アクティブラーニングの効果に寄与する要因の質的検討-アクティブラーニング型授業を展開する教員へのインタビュー調査から-」 山田嘉徳（大阪産業大学）AL 型授業のプレ・ポスト調査の結果を受け、その要因を教員へのインタビューから分析したものである。学習を巡る情意面と志向に配慮し、外化を促進するよう「知を深める構え」「学習方略の効果的な多肢化」を提供することで、「深い学び」に寄与する。
- 3) 「グループ学習におけるフリーライダーの弁別と他者への影響」（山田邦雄（北海道大学）アンケート調査（84 名）により、フリーライダー（以下、FR）が AL の学習プロセスを阻害していないか、その影響について、他者評価から検討した。FR の特徴は「遅刻」「分担やらず」に重心があり、FR 本人は「社会に出るまでの自由時間」という大学観をもつ。FR への他学生の対応は、不適合観の高まりから、密かな活動へといたる。教員の授業への取り組み方が FR を生み出しているとの結論。
- 4) 「アクティブラーニング型授業における教室外学習の実態：山口大学におけるアクションリサーチをもとに」長澤多代（三重大学）AI を導入した授業のために学生がどのくらい教室外学習をしているか、どのような場所やサービスを利用しているかのフォトボイスによる調査。調査対象授業科目は「山口と世界」から 144 件の分析。教員の働きかけ、グループメンバーからの影響、他グループの状況、課題提出など外化が活発に行われる授業設計が、学生の意欲を喚起できる。

【課題研究シンポジウムⅡ】

テーマ「現代のリベラルアーツとしての理数工系科目（STEM）の開発と教育実践のために」

司会 細川敏幸（北海道大学）

アメリカではオバマ政権の時代に STEM 教育推進と関連して毎年数 10 億ドルの予算化があった。トランプ大統領になってからもコンピューターサイエンス（CS）を中心に規模は縮小されたが毎年 2 億ドル支援されている。本課題研究では、教養教育としての STEM 教育を拡充するために便理融合型授業を開発してきた。その様子をビデオ映像として学会ホームページに掲載する予定である。また、教科書の出版も計画されている。当日の報告は以下のとおり。

- 1) 「数学リテラシー科目の開発と実践・共通教育としての取り組み」後藤譲治（新潟大学）高等学校で文系を選択してきた学生たちに数学の重要性とその内容を教えるための授業開発。極力、数式を使わずに、数学の哲学、問題の分析などを、グループ学習を取り混ぜながら、数学の学習者から数学のユーザーへの転換を図る授業の実践報告。
- 2) 「文理融合の新しい STEM プログラム：シンガポール、米国、日本の事例を中心に」山田礼子（同志社大学）21 世紀型教養として夫 STEM への期待。スタンフォード大学 BOSP プログラム、シンガポール硬貨デザイン大学（SUTD）、同志社大学サイエンス・コミュニケーター養成副専攻プログラムの報告。
スタンフォード大学（BING OVERSEAS STUDIES PROGRAM(BOSP)エンジニアとして働く予定の学生に国際的なセンスを身につけさせる。SUTD は、MIT と中国の浙江大学の共同により 2009 年に設置された理工系の国立大学。デザイン志向が全学の教育の基本。カリキュラムは工学、科学だけでなく人文科学も土台となっている。3 年 4 ヶ月（8 学期）で卒業。同志社大学サイエンス・コミュニケーター養成は学部勢を対象に分離を横断するカリキュラム。20 単位を修得。3 つの事例から、HIGH IMPACT PRACTICES の重要性。文理融合の科学リテラシーの修得が社会リテラシー普及への第一歩であるとの主張。
- 3) 「AAC&U STEM Meeting の報告」鈴木久男（北海道大学）2017 年 11 月 4-7 日（3 日間）開催された 2017 Transforming STEM Higher Education: Discovery, Innovation, and the Value of Evidence での、基調講演とポスター発表の概要。基礎専門科目を AL に置き換えたところ、基礎知識は量的に減少せざるを得なかったが、知識習得のプロセスを学ばせることができ、それは、学生が社会で働く際に知識よりも重要である、との報告が印象的であった。

全体的に、STEM 教育（文理融合型教育）、ハイインパクト・プラクティス、生涯学習がこれからのキーワードであると感じられた。

センター利用案内

高等教育

支援やカリキュラムの改善のために、分析や提案などの支援を行います。また、研修会やワークショップの企画、教育支援機器の貸し出し・利用方法の説明を行います。お気軽にお問い合わせください。詳細については、ウェブサイトをご覧ください。

生涯學習

公開講座をはじめとした地域向け学習プログラムの開発と運営を行っています。「このような講座をしてみたい」というアイディアを実際のプログラムとして実現するために、プログラムのデザイン、連携先の提案、広報の協力などを行います。お気軽にご相談ください。

センター沿革

平成8年10月 生涯学習教育研究センター設置（学内措置）
平成10年4月 生涯学習教育研究センターが省令施設に昇格
平成13年2月 大学教育開発支援センター設置（～平成17年3月）
平成17年4月 高等教育開発センター設置
平成20年4月 生涯学習教育研究センターと高等教育開発センターが統合
現在に至る

主 要 刊 行 物

- ・大分大学高等教育開発センター紀要
- ・大分大学高等教育開発センター報告書
- ・授業改善のためのアンケート調査結果報告書
—学生による授業評価—

アクセス

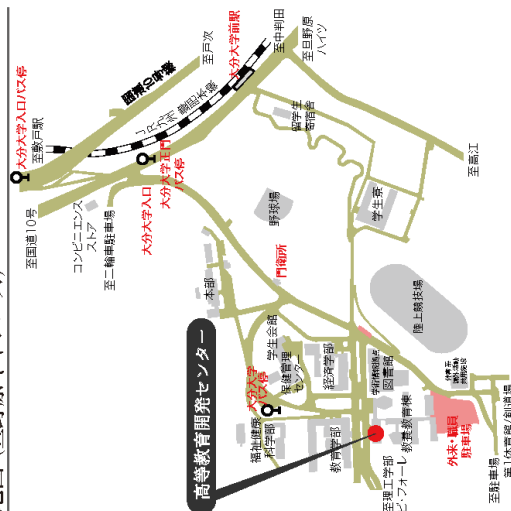
バス

・「大南国地・高江二ユウタウン」「大分大学」行き → 「大分大学正門」もしくは「大分大学（構内）」(30分)

鐵道(JR九州 豊肥本線)

「大分」→「大分大学前」(15分)

地図(日野原キャンパス)

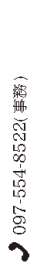


大分大学
高等教育開発センター
Center for Research and Development of Higher Education



大分大学高等教育開発センター

870-1192 大分県大分市大字日野原 700



www.he.oita-u.ac.jp



007 EE4 9E00 / 青筆地蔵、

097-554-8509(高等教育)

097-554-7641(生涯学習)

097-554-7445

✉ hcenter@oita-u.ac.jp

設置目的

大分大学高等教育開発センターは「学内外の関係機関との連携の下に、高等教育及び生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もって大分大学における教育及び地域社会の発展に寄与すること」を目的として設置されています。

部門構成

高等教育	1. 新規授業・カリキュラム開発部門 2. メディア・IT 活用部門 3. FD・授業評価部門
生涯学習	4. 大学開放推進部門 5. 生涯学習支援システム部門

各部門の紹介

1. 新規授業・カリキュラム開発部門

概要

教養教育科目における学生の主体的な学びを支援する学習プログラム開発・企画・検討や、地域連携・キャリア形成教育・環境教育などの教育活動を推進しています。

主な事業

1. 全学教育機構における教養教育カリキュラムの策定作業および教育改善活動への参画
2. 教育情報システムを活用したアクティブラーニング導入の促進と授業開発支援
3. 地域連携、高大接続、キャリア教育に関する教育プログラムの開発と推進
4. 大学教育における質保証の検討・策定への参加

2. メディア・IT 活用部門

概要

インスタグラム・ソーシャル・デザインを活用した授業設計・教材の開発、質保証フレームワーク構築の支援、教学 IR のための調査の実施と分析、単位互換の推進および大学等間連携授業の支援を行っています。

主な事業

1. インスタグラム・ソーシャル・デザインを活用した授業設計や e ラーニング教材開発の支援
2. e ポートフォリオを中核とする学士課程教育の質保証フレームワーク構築の支援
3. 教学 IR のための学生および教員を対象とした調査と分析
4. 単位互換の推進および e ラーニングによる大学等間連携授業の支援

3. FD・授業評価部門

概要

全学的な教育改善を目的とした研修会の企画と実施、学生による授業評価アンケートを行なっています。また、メディア・IT 活用部門との連携により、個別の授業改善の支援をしています。

主な事業

1. 教育の全国的な動向や他大学での先進的な取り組みを紹介するための、講演会やワークショップの開催
2. 本学の教育課題に学生と教職員が合同で取り組む学内合同研修会「きつちよむフォーラム」の開催
3. 授業改善に資するための、学生による授業評価アンケートの実施と、その報告書の作成、教員からの回答としての自己点検レポートの作成

4. 大学開放推進部門

概要

公開講座・公開授業などの学習プログラムを開発・実施し、地域住民や子どもたちの学びを支援する事業を行っています。大学開放を効果的に進めるための仕組みや地域活性化のためのパイロットプログラムの開発も行っています。

主な事業

1. 大学開放の内容や方法についての研究開発と、大分大学における仕組みづくり
2. 連携・協働による地域課題の解決など、大学ならではの公開講座の開発・実施
3. 正規の授業を開放し社会人向けの公開授業の推進
4. 生涯学習の観点から、学生のキャリア形成・社会参画を支援する取り組み

5. 生涯学習支援システム部門

概要

行政や社会教育関係団体、地域組織などと連携し、地域で生涯学習を支援するネットワークを形成するために、県民の生涯学習活動の支援・啓発、生涯学習・社会教育に関する地域指導者の育成や調査研究等を行っています。

主な事業

1. 社会教育関係職員に対し研修・ネットワーク形成に貢献し、地域の社会教育を活性化・高度化する取り組み
2. 「教育の協働」を推進する中核的なネットワークとして、「大分県『協育』アドバイザーネットワーク」、「大分県『協育』ネットワーク協議会」の運営
3. ネットワークでの交流を促進することで、社会教育関係職員や地域での活動者・実践者がつながり活性化する取り組みの推進

3. 大学開放推進部門／生涯学習支援システム部門

高等教育開発センターにおける生涯学習関連業務は、第3期中期計画を推進し、本学における教育及び地域社会の発展に寄与するという観点から、次の2部門において大学生涯学習推進の取り組みを展開している。

- ①大学開放推進部門において、公開講座・公開授業及び県民・学生への現代的課題への対応に関する学習機会の提供等の大学開放を推進する。
- ②生涯学習支援システム部門において、県内の生涯学習行政や高等教育機関、各種活動組織等とのネットワーク化によって地域住民の生涯学習支援の取り組みを行う。

平成29年度は第3期中期計画の2年次にあたり、COC+やとよのまなびコンソーシアムおおいと等との高等教育機関間の連携や地方自治体をはじめとする地域の関係機関との連携など、地域における生涯学習支援に向けた取り組みによって中期計画の推進を図った。また、全国国立大学生涯学習系センター協議会での生涯学習系センターとしての全国的な取り組みへの寄与にもあたった。

【平成29年度の主な取組】

(1) 部門会議

1) 第1回部門会議

日 時：平成29年5月25日（木）14：50～15：30

議題

1. 平成29年度公開講座・公開授業実施計画について

平成29年度の公開講座・公開授業の実施計画について説明があり、検討の結果、原案の通り了承された。

2. その他

報告事項

1. 平成28年度公開講座・公開授業実施報告

平成28年度の公開講座・公開授業の実施状況について報告した。

2. その他

(2) 専任教員の選考・着任

平成28年度途中で、生涯学習支援システム部門の専任教員が事故により逝去され、欠員になっていた。平成28年度当初は、大分大学全体として教員の採用を抑制していたため、後任の人事は認められなかった。しかし、文部科学省から教育改革推進経費の示達があり、高等教育開発センターからの申請が認められたので、専任教員の公募を開始した。

1) 予備資格審査委員会

①資格審査委員会（書類選考）

日 時：平成29年9月22日（金）

場 所：高等教育開発センター センター室1

内 容：応募者の応募書類を検討し、3名の二次選考合格者を選考した。

②資格審査委員会（面接）

日 時：平成 29 年 10 月 2 日（月）・10 日（火）

場 所：教養教育棟 2 階会議室 1

内 容：一次選考で選出した 3 名の候補者に面接審査を実施した。審査の結果、正木遥香氏を候補者として選定した。その後、教育研究評議会での承認を経て、12 月 1 日付けで正木氏が講師として着任した。

【平成 29 年度の事業内容】

（１）大学開放と学習機会の提供

本学が持つ高等教育機能を発揮し、県民に対して直接様々な学習機会を提供することは地域の大学としての価値と存在感をアピールするうえで重要であることから、次のような取り組みをおこなった。

1) 公開講座

公開講座は、各学部や部局等が実施する講座と、本センターが主催する講座から構成され、センター主催講座は、研究開発的位置づけにある講座や現代的な課題に対応して実施する講座を中心に企画・実施している。本学単独の講座に加え、とよのまなびコンソーシアムおおいでの大学間連携講座や NPO 法人大分ラグビースクール等の組織と連携した講座も実施している。

平成 29 年度の公開講座は、前期 9 講座、後期 14 講座の計 22 講座（前年度：22 講座）を実施し、受講者の合計は 1,036 名（前年度：794 名）であった。講座数が 1 講座（4.5%）、受講者が 242 人（30.5%）増加している。

○平成 29 年度大分大学公開講座

	部局	講座名	開設期間	受講
1	保健管理	禁煙について考える	6 月 4 日	29
2	教育	理科や算数を使って親子で遊ぼう	7 月 8 日～8 月 19 日 (7 日間)	15
3	体育	泳げない子どもの水泳教室	7 月 26 日～8 月 2 日 (7 日間)	67
4	高等	プログラミング教室	8 月 4 日	37
5	高等	将棋講座	8 月 17 日～23 日 (6 日間)	61
6	経済	変動する社会における法の現状と課題	9 月 28 日～10 月 26 日 (5 日間)	27
7	高等	由布市コミュニティスクール・セミナー	8 月 2 日	56
8	理工	知って得する電気（子）塾	8 月 10 日、8 月 11 日	37

9	医学	高血圧のホントのところ	10月7日	20
10		たばこを知って、たばこをやめよう、やめさせよう！	10月7日	23
11		Designing Health Ecosystem：みんなが健康に生きる社会の実現	10月8日	54
12		医師になるための道のり	10月8日	55
13		最先端医療を開拓する医学研究－女子医学生の体験記－	10月8日	62
14	高等	子育て支援研修	6月22日	32
15	高等	子育て支援研修2	11月4日	70
16	高等	豊の国学 中央講座 リレー講演会	11月23日	48
17	高等	豊の国学 分野別講座「第1回」	1月21日	23
18	高等	豊の国学 分野別講座「第2回」	2月3日	35
19	高等	豊の国学 分野別講座「第3回」	2月17日	23
20	高等	小学生ラグビー教室	2月18日～3月18日 (3日間)	87
21	高等	第11回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会	2月24日	109
22	高等	プログラミング教室	3月17日	39
23	高等	春休み親子でふるさと探訪バスツアー	3月24日	27
合 計				1,036

○公開講座に関する過去5年間の講座数及び受講者数の変化

直近5年間の公開講座の講座数及び受講者数を示したものが図1・図2である。

講座数については、おおむね横ばいの状態が続いているが、第3期中期計画が始まった平成28年度から1講座（4.5%）増加している。中期計画項目【27】では、第3期末に（第2期末と比べて）10%の量的拡大が求められているが、ほぼ目標とするレベルに拡充しており、公開講座については、順調に推移している。受講者数は、1036人で28年度の794人から242人（30.5%）増加した。受講者数については目標を大きく上回る増加率を達成している。今後とも充実に努めたい。

ただし、公開講座の推進において、量的拡大だけが重要なわけではない。近年は大規模講座での集客という観点よりも、公共性が高いと考えられるテーマで、小規模でも効果の高い参加型の講座を増やすことが重要と考えられるようになってきた。今後とも、量的にも一定の充実にを図りつつ社会的意義の高い講座の開発に努めていきたい。

平成24年度から「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の公開講座として開設している「豊の国学」は、中央講座と分野別講座を合わせて129名（28年度112名）の参加があった。中央講座については、各機関から講師1名を派遣して頂き、リレー方式の講座を開設しているが、30分では十分に話せないという講師からの声に対応し、1コマの時間を40分に延長し、午前中から夕方までの講座とする工夫を行った。大分大学においては、各学部からそれぞれ1名の教員を推薦していただき、1名は中央講座の講師に、残りの方は分野別講座の講師にと、大分大学からとよのまなびコンソーシアムおおいたでの連携講座に講師を送り出す仕組みを構築し実施している。

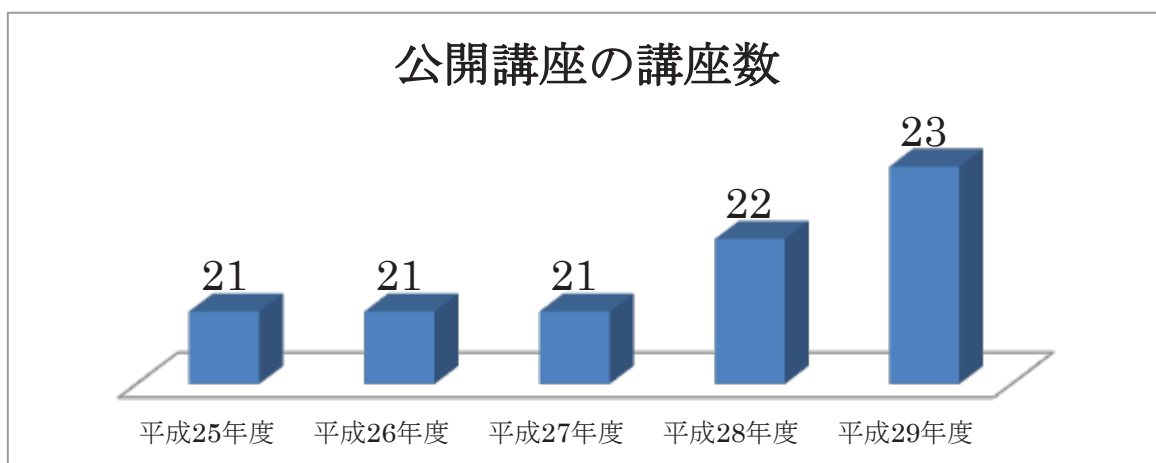


図 1 過去 5 年間の公開講座の講座数

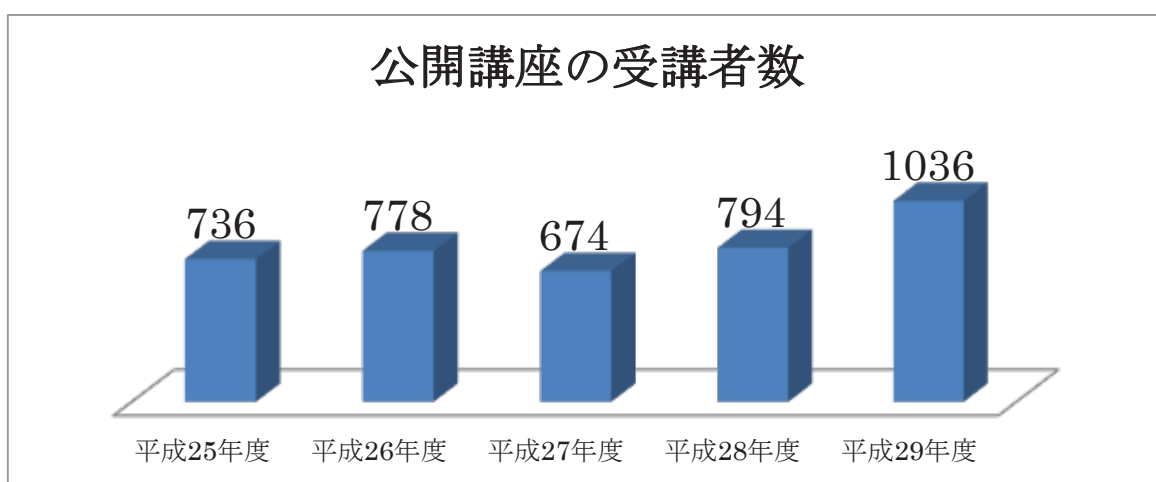


図 2 過去 5 年間の公開講座の受講者数

2) 公開授業

公開授業は、正規の授業を開放して学生と共に専門的な教育内容を体系的に学ぶ場を提供するものであり、各科目担当教員の意向調査および一部学部からの推薦にもとづき実施している。近年、新聞折り込み広告での取り組みなどが功を奏し受講者数は順調に増加している。

一方、継続的に公開授業の開設に協力していただいたベテラン教員の定年退職等により開設科目数の減少が進んでいる。平成 29 年度は若干開設科目数が増加したが、第 3 期末の評価で基準となる平成 27 年度の開設科目数 99 科目を大きく下回っており、今後一層の推進が必要である。今後は、若手教員への働きかけなどを通して、公開授業開設科目数の回復に取り組む必要がある。また、個別の授業をバラバラに受講するだけでなく、公開授業の受講がまとまった内容の習得や社会活動につながるなど、公開授業と公開講座のパッケージ化、さらには公開講座と公開授業とそこでの学習成果の活用までを含めたパッケージ化を行っていく必要があると判断し、検討を開始した。

○公開授業に関する過去 5 年間の開設科目数および受講者数の変化

平成 24 年度から平成 29 年度までの公開授業開設科目数及び受講者数を示したものが図 3 図 4 である。

開設科目数は、平成 25 年度の 116 をピークに減少傾向である。平成 29 年度は若干開設科目数が増加したが、一層の取り組みが必要である。退職教員やベテラン教員に比べ、開設率の低い中堅・若手教員に公開授業の意義を感じていただき開設科目数を増加させる取り組みを継続していきたい。

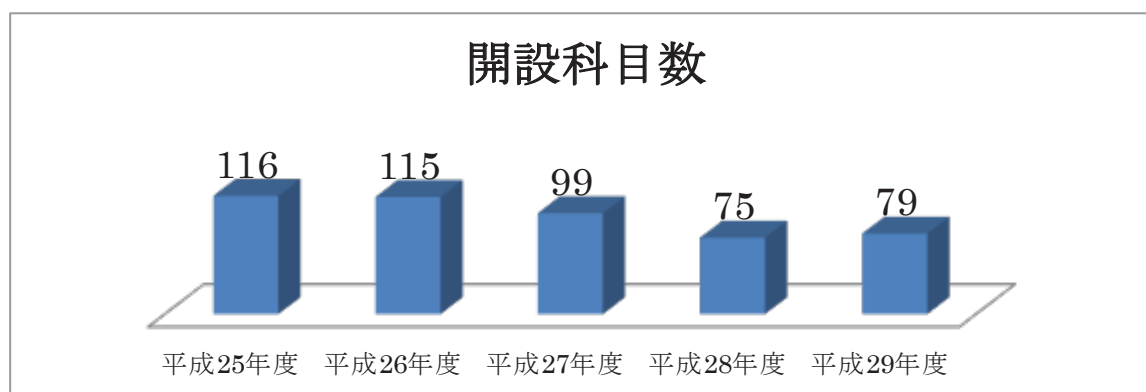


図 3 公開授業の開設科目数

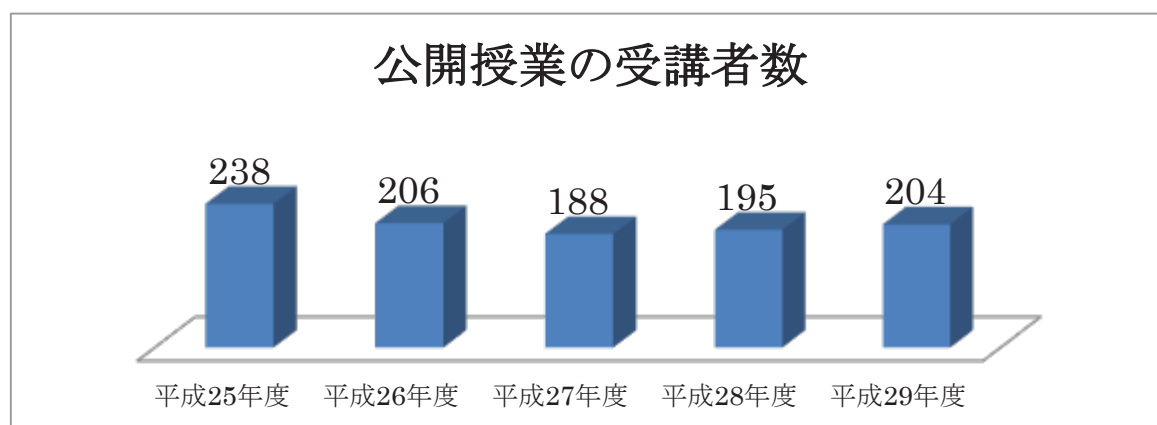


図 4 公開授業の受講者数

次頁に平成 28 年度の大分大学公開授業開設科目の一覧を掲載する。前期 36 科目、後期 41 科目が開設されており、27 年度から 24.2%の減少となってしまった。これまで継続的に公開授業の開設に協力していただいた教員が定年退職でいなくなる中、新たに協力教員を募る努力が必要になっている状況である。

科目の区分としては、教養教育科目が 33 科目（44.0%）、学部専門科目が 40 科目（53.3%）、大学院科目が 2 科目（2.7%）となっており、当初教養教育科目に限定して開設していた公開授業だが、現在ではむしろ学部専門科目の占める割合の方が高くなっている。

受講者の分布としては、少人数が幅広い科目に分散して受講するというのが近年の全体傾向であるが、臨床心理学や応用英語など継続して人気の高い科目もある。

○平成 29 年度公開授業科目一覧

前期

	科目名	開講区分	受講者数
1	文化人類学	教養	2
2	生命観の変遷	教養	2
3	環境物理学	専門	0
4	電力エネルギー工学	専門	1
5	臨床心理学概論	専門	10
6	国語（小）	専門	2
7	西洋美術史	専門	0
8	企業組織法Ⅰ	専門	2
9	電気化学	専門	0
10	企業論	専門	4
11	英語Ⅰ	教養	1
12	スポーツと健康づくりの科学	教養	2
13	英語Ⅰ	教養	0
14	老年看護学概論	専門	6
15	スポーツと生活	教養	1
16	創造的思考法	教養	2
17	「現代音楽」とはなにか	教養	1
18	大分美術史概論	教養	7
19	大分の地域資源	教養	4
20	衣生活論	専門	1
21	小学校外国語活動指導法	専門	4
22	異文化間コミュニケーション論	専門	2
23	現代国際関係論	専門	4
24	小学校英語演習	教養	4
25	EU の政治経済	教養	2
26	音響工学	専門	0
27	舞踊創作実習Ⅱ	専門	1
28	社会政策	専門	3
29	心理学を知る	教養	10
30	英語ゼミナール E—英語運用訓練Ⅰ	教養	8
31	食と農の地理学	教養	7
32	応用中国語Ⅰ	教養	2
33	英語ゼミナール B	教養	2
34	生涯学習論入門	教養	2
35	基礎経営論Ⅰ	専門	0
36	国語（小）	専門	1
37	都市経営論Ⅰ	専門	3
38	LSI 設計特別講義	大学院	1
39	国際健康コンシェルジュ養成講座	教養	7

後期

	科目名	開講区分	受講者数
1	基礎中国語Ⅱ	教養	0
2	シネマ、ドキュメント映像で学ぶ健康と家族・社会の明日	教養	4
3	教養としてのコンピュータ	教養	0
4	アジア文化論	専門	9
5	臨床心理学実践論	専門	7
6	基礎中国語Ⅱ	教養	2
7	身近な物理学	教養	3
8	口腔から考える保健・医療・福祉	教養	0
9	企業組織法Ⅱ	専門	2
10	カラダの見方・考え方	教養	0
11	労使関係論	専門	1
12	スポーツ文化科学 エクササイズの理論と実践	教養	1
13	英語Ⅰ	教養	1
14	海流とその研究	教養	1
15	前近代日本の国家と社会	教養	12
16	地域における仕事と社会	教養	3
17	地生態学	教養	5
18	コミュニケーション入門Ⅱ	教養	0
19	インストラクショナルデザイン入門	教養	0
20	大分のものづくりと地域づくり	専門	3
21	ユニバーサルデザインと人にやさしい社会	教養	2
22	日本語学Ⅰ	教養	3
23	多文化共生論	専門	3
24	小学校英語演習	教養	1
25	グローバル化と政治経済 (The Politics and Economics of Globalization)	教養	2
26	地域文化資源論	専門	0
27	英語科授業論	専門	0
28	プラズマ工学	専門	0
29	ダンスⅡ	専門	0
30	ダンスⅢ	専門	0
31	英語ゼミナール F—英語運用訓練Ⅱ	教養	10
32	応用中国語Ⅱ	教養	2
33	大学開放論—社会人の学びと大学生の学び—	教養	0
34	基礎経営論Ⅱ	専門	1
35	医療倫理学Ⅱ	教養	0
36	都市経営論Ⅱ	専門	2
37	英語Ⅰ	教養	2
38	現代国際関係史	専門	6
39	数値解析	専門	1
40	知的財産入門	教養	4

(2) 大学教育と生涯学習の接続・連携

1) 生涯学習・社会教育に関する授業の実施（教養教育）

【生涯学習論入門】

生涯学習に関する基本的理解を得、大学の授業なども含めて自分の学習を経営し、展開するための視点を獲得することを目的として、生涯学習に関わる諸側面を講義した。平成 25 年度より大分県子ども子育て支援課との連携により実施した「ライフデザイン講座」は担当教員単独の取り組みとしてワークショップを継続し、県が作成したパンフレットも活用した。

【学習ボランティア入門】

きっちよむフォーラムで学生から要望があったボランティア活動を単位化する授業として、ボランティア活動を中心とした授業を平成 23 年度から継続している。

①講義：4 時限（授業趣旨、学習ボランティアの意義・心得等）

②活動：9 時限（15 時間以上）

※実際に地域へ出かけて子どもや高齢者等に関わるボランティア活動を行う。

③振り返り：2 時限（ボランティア報告会とまとめ）

【プロジェクト型学習入門 1・2～インターンシップセミナーB～】

大学で学ぶ力を付けさせるため、また社会人として必要な力の基礎を修得させるため、プロジェクトを自ら企画し、実行することで、企画力、提案力、コミュニケーションスキルなどの向上を図っている。平成 29 年度も大分大学生協との連携により、学生生活における困りを解決あるいは学生生活をもっと魅力的なものにする取り組みを考え、実行している。

【大学開放論—社会人の学びと大学生の学び—】

全国国立大学生涯学習系センター協議会の取り組みの一環として刊行した『大学開放論—センター・オブ・コミュニティ（COC）としての大学—』をテキストとし、大学開放について論じるとともに、その中で自分がどのように大学を利用して学ぶかについてグループワークなどを通して考える授業とした。「大分大学活用方法の提案」、「大学在学中の目的目標と取り組み」などをグループで検討し、交流した。

【中小企業の魅力の発見と発信】

大分県中小企業家同友会の協力を得、県内の中小企業の魅力的な職場でのインターンシップに加え、魅力を発信するポスター作成のための取材も行うことで、就業に向けた意識への働きかけや県内で働こうという意欲の喚起を意図した授業である。平成 29 年度は、(株)アイダリンク様にご協力いただいた。

【分大キャンパスライフ入門】

6 月 21 日に、「ライフデザインとキャリアの展望」というテーマで講義及びグループワークを実施した。ライフデザインをなるべく早く明確にすること、それとの関連で大学にいる間にどのような力を身につけどのようなキャリアを作っていくかを考えてもらった。

2) 本学及び学部の授業・講習との接続

【大分の水Ⅰ】 【大分の水Ⅱ】

これらの科目は、平成 21 年度選定大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラム「水辺の地域体験活動による初年次教育の推進―学生の社会性向上を図る総合的教養教育の実践―」（以下水辺 GP と略記）の取組として開始された授業科目であり、本学教員グループを事務局とする NPO 法人大分水フォーラムの事務局員である岡田が関与している。具体的には、【大分の水Ⅰ】および【大分の水Ⅱ】では、週末に行われる地域体験活動プログラムのコーディネートや運営（竹田市岡本地区、九重町セブンイレブン記念財団九重ふるさと自然学校など）を行っている。教室の講義形式の授業では意欲が高くない学生であっても、現地で地元の人の指導を受ける際には意欲的な姿勢を見せる傾向があり、想定以上の効果を得ることができた。

【教員免許状更新講習】

岡田が選択科目「学校と家庭、地域の協働方策―子育てを手がかりに―」の 4 コマを担当した。学校と家庭、地域が協働するための方策について、主として子育てに関わるという部分に焦点化して講義し、グループワークを実施した。

3) 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）

文部科学省委託事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+事業）の実施にあたり、生涯学習部門が関係する教育プログラム開発事業の取組をおこなった。専任教員が県内就職率向上部会の委員を務め、高度化②科目に位置づけられている「高度化学習ボランティア実践」を試行的に実施した。同科目では、NPO 法人ハートフルウェーブと連携し、不登校児童・生徒のコミュニケーション力向上に向けた取組を受講学生が企画し実施した。

平成 30 年度以降は、「高度化学習ボランティア実践」を本格実施する必要があるため、今後ハートフルウェーブとの連携を強め、受講学生にとってより学習のインパクトが強い授業になるよう工夫していく。本授業の特徴は、学生がより積極的・主体的な学習ボランティアとして取り組みに参画し、企画・実行・振り返り・改善の一連のプロセスを運営することにある。すなわち、学習ボランティアとして受け身で活動するのではなく、PDCA サイクルをきっちり回しつつ、活動の意味や効果について洞察することを求めて授業を振興していく計画である。

（3）情報収集提供・学習相談活動

1) 情報収集・提供

○年度当初に年間計画を掲載するとともに、年間を通しての日常的な更新として、各講座等の詳細情報とその実施報告の日常的な更新をした。

＝大分大学高等教育開発センター生涯学習関連ホームページの構成＝

概	要：①生涯学習支援の概要 ②年度事業計画 ③研究資料 ④生涯学習情報
県民の皆様へ：	①公開講座の紹介 ②公開授業の紹介 ③各種学習機会の紹介

学生の方々へ：①ボランティア情報 ②学習ボランティア申し込み ③学習支援
お問い合わせ

○紙媒体の情報提供については、公開講座・公開授業パンフレットを前期、後期別に 2 回作成して、大分市を中心に配布した。さらに、センターが主催する各種講座については別途チラシを作成して事業ごとに募集した。また、平成 23 年度からの取組として、公開授業の広報を新聞チラシに挿入しての配布を行うなど、幅広く様々な形で広報を行って情報発信を図った。その効果は、公開授業受講生の継続的増加という形で現れている。

2) 学習相談

社会人の学習活動へのアドバイスや学生の授業や卒業論文、就職活動等の生涯学習に関わる内容について、資料を提供するなどして相談活動をおこなった。

(4) 学内のネットワーク化

1) 部門会議の実施

年度当初の年間実施計画の協議、後期における各種取組計画等について、部門長から提案して審議するとともに、個別の案件については、関係する部門委員に相談するなどして生涯学習関連の取組の充実を図った。

2) 生涯学習支援に関する教員のネットワーク化

公開講座の実施については、各学部での計画・実施や教員が自主的に実施するなどのシステムがある。さらに、大分水フォーラムを通じた連携やセンターが各課題に対応する講座、市町村と連携・協同で実施する講座・調査研究においても一定のネットワークが出来ている。そうした中、平成 25 年度から「とよのまなびコンソーシアムおおいた『連携講座』」の「豊の国学」の実施にあたって、大分大学では各学部から 1 名の講師を選任するシステムができ、学部から選任された教員が「中央講座」と「分野別講座」の専門分野での講義をおこなった。

(5) 地域生涯学習支援システムの整備

本センターの役割として、県民の生涯学習を支援するシステムづくりを行うとともに、その中で重要な役割を果たす社会教育関係職員、指導者・ボランティアなどといった支援者の力量の向上にも取り組み、間接的に地域住民の学習を支援することが重要となる。そこで、これらの支援者も含めた連携のシステムの構築を通じての地域貢献を図るため、次の取組をおこなった。

1) 生涯学習支援ネットワーク化の取組

①県及び市町村教育委員会とのネットワークづくり

県教育庁社会教育課や県立図書館学校・地域連携課と、個別の事業に関する打ち合わせ会を

実施するなどして、連携を深める取組をおこなった。研修の講師を務めるだけでなく、研修後の実践支援にもセンター事業として関与し、取り組みの深化や発展を支援した。さらに、本センターが実施する各種取組について市町村事業と協同で実施するなどし、市町村と日常的な連携を取りながらネットワーク化を図った。

②県内高等教育機関のネットワーク化

「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の生涯学習関係事業（連携講座）において分科会を行う中で、各学校の現状を把握するとともに、担当者との意思疎通を図ることができた。さらに、「豊の国学」として講座を提供するシステムを形成して取り組んでいる。

2) 支援団体等の活動

①大分大学学生の学習ボランティアサークル「フォーバル」の活動

高等教育開発センターでは、学生自身が学びながら地域住民の学びを支援する学習ボランティアの育成に取り組んでいる。近年は、大学周辺地域との交流活動を行う「WITH（ウィズ）」、県内の学校や施設等で読み聞かせ活動を行う「ゆい（結い）」、別府市内の子ども達への学習支援等の活動を行う「コネクト」の3つのグループが活動しており、センターとしてはその支援を行った。

○「WITH」の活動

大分大学旦野原キャンパスに隣接する旦野原ハイツ自治区の住民との交流を目的とし、大分大学前駅の共同での清掃や公民館祭り等地域行事への参加などを行っている。

○「ゆい（結い）」の活動

- ・学生読み聞かせボランティア「ゆい」の育成のための月1回の勉強会を開催
- ・夏休み人権教育講演会の講師（佐伯市立鶴岡小学校）
- ・学童保育読み聞かせボランティア活動の実施（大分市）

○「コネクト」の活動

大分大学が学生主体のプロジェクトを選定し支援する「活き活きプロジェクト」に採択され、以下の活動を行った。

- ・別府市立石垣小学校放課後児童クラブの学習支援ボランティア
- ・石垣児童クラブ夏祭りの運営補助
- ・石垣小学校の夏休み学力向上「ステップ・アップ」講習等を学習支援（5日間）
- ・別府市鶴見台中学校学習支援
- ・朝日青少年育成協議会の活動に参加

②NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットの活動

事業1. 指導者養成事業（連携事業）

○教育の協働を推進する人材育成のための研修会を開催した。

- ・中国・四国・九州地区生涯教育実践交流会、第36回大会生涯教育研究実践交流会への参加と実践発表
- ・日本生活体験学習学会地方セミナー開催（由布市共催）を運営
- ・第9回 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会を運営

○大分大学学習ボランティアサークル「フォーバル」の研修事業を実施した。

- ・学生読み聞かせボランティア「ゆい（結い）」の育成 月 1 回の勉強会を開催
- ・夏休み人権教育講演会の講師（佐伯市立鶴岡小学校）
- ・学童保育読み聞かせボランティア活動の実施（大分市）
- ・学生ボランティア「コネクト」の活動支援
 - ＊別府市立石垣小学校放課後児童クラブの学習支援ボランティア
 - ＊石垣児童クラブ夏祭りの運営補助
 - ＊石垣小学校の夏休み学力向上「ステップ・アップ」講習等を学習支援（5 日間）
 - ＊別府市鶴見台中学校学習支援
 - ＊朝日青少年育成協議会の活動に参加

○別府溝部学園短期大学「温泉コンシェルジュの演習」の実施

○各種研修会・講習会の講師

- ・大分市民図書館 読み聞かせ初級講座
- ・大分市立西の台小学校 BOOK ボランティア講習会
- ・大分市学校図書館支援員研修会
- ・大分市生涯学習推進担当者研修会

事業 2. モデル的・先導的事業

○読み聞かせ活動支援研修会を実施した。

- ・人と本を結ぶ読書支援ネットワーク「ゆい（結い）」
 - ＊「久留島武彦記念館」見学&館長講話
 - ＊玖珠町の地元ボランティアグループ「はびねす」実演見学
- ・「赤ちゃんと絵本との出会い～親の心 我が子に贈る小さな試み～」として堀永産婦人科医院と共催で開催した。

事業 3. ネットワーク拡大事業

○「一人 1 情報の発信運動」の推進事業・『協育』の調査および啓発を行った。

- ・会員への訪問取材と研究会等への参加
- ・会員の活動情報の発信（会報の発行＜第 27 号～第 30 号＞・HP 更新）

3) 第 11 回 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会への企画・運営へ参画

テーマ：「地域創生のための取組とその仕組みを語ろう～子どもから大人まで、教育から福祉まで～」

主 催：東国東地域デザイン会議、大分大学高等教育開発センター、
NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネット

協 力：大分県社会教育主事有資格者の会

会 場：「梅園の里」 〒873-0355 国東市安岐町富清 2244 TEL/0978-64-6300

期 日：平成 30 年 2 月 24 日（土）

国東市安岐町の梅園の里を会場に、今年も東国東地域デザイン会議、NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットとの共催により、実践交流会を開催した。2 件の実践事例発表を行い、それを受けたグループワークを行った。その後、特別企画として別府教育事務所管内（姫島村、国東市、日出町、杵築市、別府市）の 5 人の教育長による

パネルディスカッション「今、学校教育活動に必要な『教育の協働』を語る～『地域学校協働活動』（コミュニティスクール）に期待するもの～」を行った。終了後、情報交換会で情報交流を進めた。

（６）生涯学習推進と社会的活動の取組

県及び市町村教育委員会社会教育行政等と連携し、生涯学習・社会教育に関する調査研究の成果を普及・還元するとともに、本センターが持つ各種情報等を生かした生涯学習を推進し、センターとしての社会的活動による地域貢献の取組をおこなった。

1) 県・市町村教育委員会生涯学習・社会教育行政との連携

＝委員等への就任＝

【大分県関係】

- 大分県社会教育委員（岡田）（6月まで）
- 大分県協働推進会議委員長（岡田）
- 大分県青少年健全育成審議会会長（岡田）
- 大分県子ども子育て応援県民会議副会長（岡田）
- おおいた共創応援基金理事（岡田）
- 大分県社会教育関係職員意識調査委員会委員長（岡田）
- 大分県「地域を担う NPO 協働モデル創出事業」審査委員（岡田）

【県内市町村関係】

- 大分市地区公民館長選考委員会委員（岡田）
- 大分市南部公民館運営審議会委員（岡田）
- 由布市庄内公民館プロポーザル選定委員会委員（岡田）

＝生涯学習関係者研修事業＝

【大分県関係】

- 大分豊府高等学校職業人講座講師（岡田）
- 大分県家庭教育支援員研修講師（岡田）
- 大分県児童支援員研修講師（岡田）

【市町村関係】

- 大分市大分南部公民館「おやじの夜なべ談義」コーディネーター（岡田）
- 大分市南部公民館親学講座講師（岡田）
- 由布市自治公民館研修講師（岡田）
- 日出町自治公民館研修講師（岡田）
- 平成 29 年度第 3 回大分県社会教育主事会研修会講師（正木）

2) 国、都道府県、団体、機関等との連携・支援

【国・他県生涯学習関係者研修事業支援（主なもの）】

- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター社会教育主事専門講座 A 講師（岡田）
- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター公民館職員専門講座講師（岡田）

- 広島大学社会教育主事講習「大学と地域社会」、「高等教育と生涯学習」担当（岡田）
- 島根県対象者別研修「第1回コーディネーター研修」講師（岡田）
- 大分県高等学校PTA連合会女性部総会研修会支援（岡田）
- 岡山県「みんな集まれ社会教育宿泊研修」講師（岡田）
- 鈴鹿市・三重県生涯学習センター共催講座「公民館を核とした地域課題解決への取り組みに向けて」講師（岡田）
- 滋賀県社会教育研究大会講師（岡田）
- 南筑後地区公民館長・役員及び職員等研修会講師（岡田）
- 仙台市生涯学習基礎研修会講師（岡田）

【委員等への就任】

- 全国国立大学生涯学習系センター協議会理事・副会長（岡田）
- とよのまなびコンソーシアムおおいた生涯学習分科会長（岡田）
- 中国・四国・九州生涯学習実践交流会大分県実行委員（岡田）
- 「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」委員（岡田）
- おおいた水フォーラム事務局（岡田）
- 大分県高等学校PTA連合会特別委員会委員（岡田）

Ⅲ 付 録

1. センター関係諸規則

(1) 大分大学高等教育開発センター規程

平成20年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大分大学学則（平成16年規則第8号）第7条第2項の規定に基づき、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において「部局」とは、国立大学法人大分大学部局を定める規程（平成16年規則第14号）第2条第3項第1号に規定する部局のうち、事務局を除く部局をいう。

2 この規程において「部局長」とは、前項に規定する部局を掌理する者をいう。

(目的)

第3条 センターは、学内外の関係機関との連携の下に、高等教育および生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もっと大分大学（以下「本学」という。）における教育及び地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 新規授業・カリキュラム開発に係る業務
- (2) メディア・IT活用関連に係る業務
- (3) FD・授業評価関連に係る業務
- (4) 大学開放推進関連に係る業務
- (5) 生涯学習支援システム関連に係る業務
- (6) その他センターの目的を達成するために必要な業務

(部門)

第5条 センターに次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 新規授業・カリキュラム開発部門
- (2) メディア・IT活用部門
- (3) FD・授業評価部門
- (4) 大学開放推進部門
- (5) 生涯学習支援システム部門

(職員)

第6条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター次長
- (3) 専任教員
- (4) 部門長
- (5) センター員

(センター長)

第7条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センター長は、本学の教授のうちから、大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会（以下「管理委員会」という。）の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター次長)

第8条 センター次長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときはその職務を代行する。

- 2 センター次長は、本学の教員のうちから、管理委員会の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター次長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター次長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員は、教育研究に従事するとともに、センターの業務を行う。

- 2 専任教員の選考は、管理委員会の議に基づき、学長が行う。

(部門長)

第10条 部門長は、センター長の指示を受け、第5条各号に規定する各部門をそれぞれ統括する。

- 2 部門長は、本学の教員のうちから、センター長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第11条 センター員は、担当部門の研究開発、支援等を行う。

- 2 センター員は、本学の教員のうちから、部局長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第12条 センターの円滑な運営を図るため、大分大学高等教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第13条 運営委員会に、業務に係る専門的事項について調査及び実施するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会については、別に定める。

(事務)

第14条 センターに関する事務は、学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則（平成20年規程第8号）

- 1 この規程は平成20年4月1日から施行する。
- 2 大分大学生涯学習教育研究センター規程（平成16年規程第134号）及び大分大学高等教育開発センター規程（平成17年規程第12号）は廃止する。

(2) 大分大学高等教育開発センター運営委員会細則

平成20年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この細則は、大分大学高等教育開発センター規程（平成20年規程8号）第11条第2項の規定に基づき、大分大学高等教育開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）の円滑な運営を図るため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関する事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) 部門間の連絡調整に関する事項
- (4) その他センターに関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センター次長
 - (3) 専任教員
 - (4) 部門長
 - (5) 各学部から選出された教員 各1人
 - (6) 大分大学学術情報拠点運営会議から選出された者 1人
 - (7) 大分大学産学官連携推進機構運営会議から選出された者 1人
 - (8) 研究・社会連携部長
 - (9) 学生支援部長
 - (10) その他センター長が必要と認めた者
- 2 前項第5号から第7号まで及び第10号の委員は、学長が任命する。
- 3 第1項第5号から第7号まで及び第10号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 (平成20年細則第3号)

- 1 この細則は平成20年4月1日から施行する。
- 2 大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会規程(平成16年規程第135号)、大分大学高等教育開発センター運営委員会規程(平成17年規程第13号)及び大分大学公開講座専門委員会内規(平成16年4月1日制定)は廃止する。

附 則 (平成23年学内共同教育研究施設等細則第2号)

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

(3) 大分大学高等教育開発センター紀要刊行規程

平成20年10月10日制定

(趣旨)

- 1 この規定は、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という）紀要（以下「紀要」という）の編集および刊行等に関して、必要な事項を定めるものとする。

(紀要の内容)

- 2 紀要には、高等教育または生涯学習についての未発表の学術論文、研究ノート、報告、翻訳、資料等（実践報告を含む）を掲載するものとする。

(投稿資格)

- 3 投稿者は、投稿日において次の各号の一に該当していること。ただし、共著の場合には、筆頭著者が投稿資格を満たしていればよい。

- (1) 本学教員
- (2) 本センター客員研究員
- (3) 本センターが依頼した人
- (4) 本センター運営委員会が認めた人

(執筆要領)

- 4 投稿原稿に関する執筆要領については、別に定める。

(刊行)

- 5 紀要は原則として年1回発行するものとする。

(刊行費)

- 6 刊行費は、センター共通費で負担するものとする。ただし、次の各号については、執筆者の個人負担とする。

- (1) 論文の刷り上がりページ数が20ページを超える場合
- (2) 別刷が50部を超える場合

附 則

この規定は、平成20年10月10日から施行する。

（４）大分大学高等教育開発センター紀要執筆要領

１）投稿枚数

投稿原稿は、単独執筆または共同研究に関わらず、原則として一編につき刷り上がりで２０ページ以内とする。刷り上がりで３０ページ以内であれば受理するが、その場合には刊行費用について執筆者が応分の負担をするものとする。

投稿枚数は、題目、要旨、キーワード、図表、注、参考文献等を所定の枚数の中に含めて算定することとする。

２）投稿申込および原稿提出の期限

投稿申込の期限は毎年１２月２８日とし、原稿提出の期限は毎年１月末日とする。なお、当該日が休日の場合、次の勤務日を期限とする。

３）審査および掲載の可否

投稿された原稿は、センター運営委員会で掲載の可否について判断された上で紀要に掲載されるものとする。場合に応じて、加筆、修正、削除を求めることがある。

４）原稿の提出

原則として、原稿はワープロソフトを使用して作成し、プリントアウトしたもの（１部）とファイルを保存したメディアを提出する。

①プリントアウトは以下の書式で作成する。

- ・用紙はＡ４縦とする。
- ・ページレイアウトは横書きとし、上３０mm、左右２０mm、下２０mmの余白をとる。
- ・１ページあたり、４０字×４０行とする。
- ・カラー印刷を希望する場合、その旨を明記する。

５）参考文献

参考文献は原稿末尾に掲載する。雑誌の場合、著者・文献名・巻・号・出版年月・ページを、単行書の場合には、著者・書籍名・出版社・出版年・ページを記入する。

６）校正

校正は一校を原則とし、必要最低限の訂正、修正に留めるものとする。

７）別刷

別刷は原則として５０部とする。５０部を超える別刷を希望する場合には、執筆者が刊行費用について応分の負担をするものとする。

2. 平成29年度高等教育開発センター 委員会等名簿

高等教育開発センター運営委員会

委員長	西野 浩明	高等教育開発センター長
委員	岡田 正彦	高等教育開発センター次長
委員	牧野 治敏	高等教育開発センター
委員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
委員	正木 遥香	高等教育開発センター
(平成29年12月から)		
委員	財津 庸子	教育学部
委員	西村 善博	経済学部
委員	中川 幹子	医学部
委員	渡邊 紘	理工学部
委員	徳丸 治	福祉健康科学部
委員	吉田 和幸	学術情報拠点運営会議
委員	小田 和広	産学官連携推進機構運営会議
委員	安部 武司	研究・社会連携部長
委員	湯澤麻起子	学生支援部長

新規授業・カリキュラム開発部門

部門長	西野 浩明	高等教育開発センター長（工学部）
-----	-------	------------------

メディア・IT活用部門

部門長	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	鄭 娥敬	教育学部
センター員	藤井 弘也	教育学部
センター員	豊島慎一郎	経済学部
センター員	末弘 理恵	医学部
センター員	菊池 武士	理工学部
センター員	阿南 雅也	福祉健康科学部
センター員	吉崎 弘一	学術情報拠点

FD・授業評価部門

部門長	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	永田 誠	教育学部
センター員	小野慎一郎	経済学部
センター員	市原 宏一	経済学部
センター員	中川 幹子	医学部
センター員	福田 亮治	理工学部
センター員	紀 瑞成	福祉健康科学部

大学開放推進部門及び生涯学習支援システム部門

部 門 長	岡田 正彦	高等教育開発センター次長（大学開放推進部門長）
部 門 長	正木 遥香	高等教育開発センター（生涯学習支援システム部門長） （平成 29 年 12 月から）
センター員	小山 拓志	教育学部
センター員	久保田 亮	経済学部
センター員	藤木 稔	医学部
センター員	小田 和広	理工学部
センター員	松本 由美	福祉健康科学部

平成29年度

大分大学高等教育開発センター報告書

発 行 平成31年 3 月

編 集 大分大学高等教育開発センター
〒870－1192 大分市大字旦野原700番地
Tel (097) 554－8509
Fax (097) 554－7445
<https://www.he.oita-u.ac.jp/>